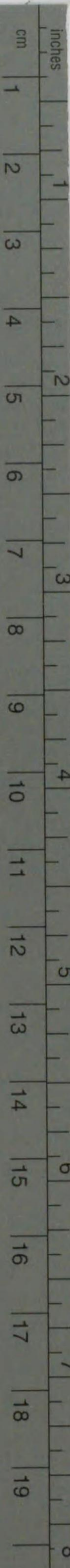


Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak

A 1 2 3 4 5 6 **M** 8 9 10 11 12 13 14 15 **B** 17 18 19



Kodak Color Control Patches

© Kodak, 2007 TM: Kodak

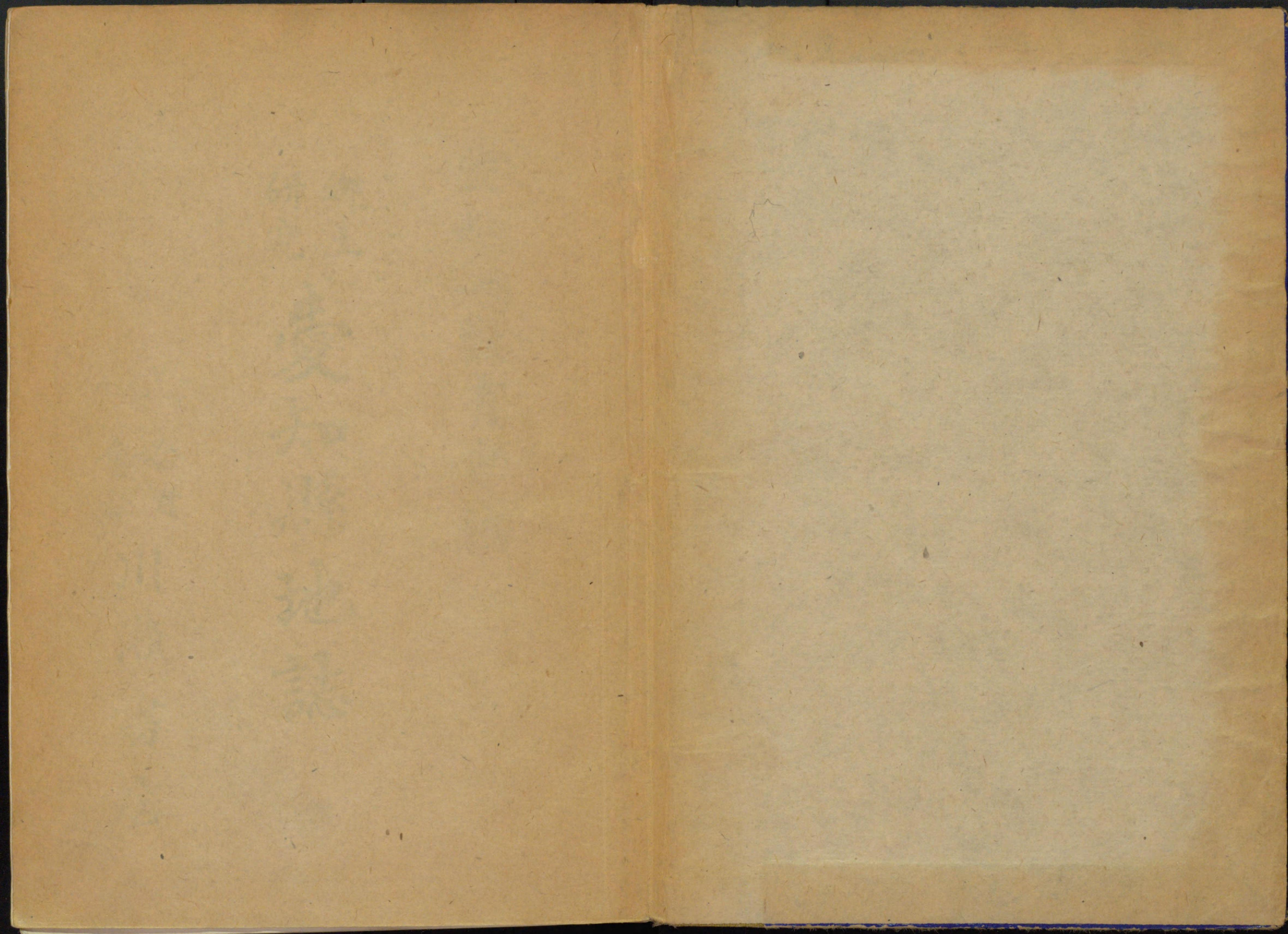


718-15



1200501586659

15



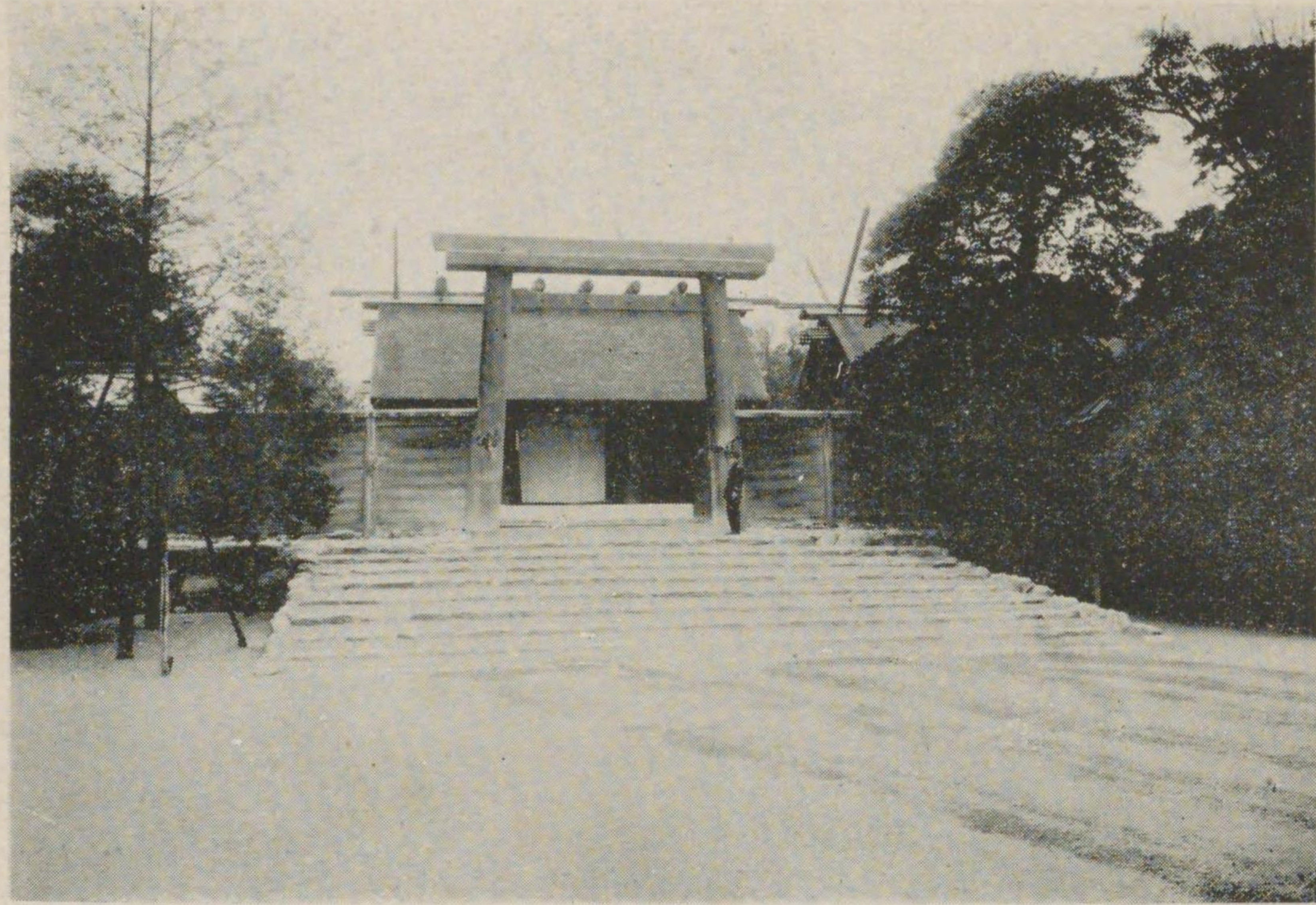
愛知縣教育會編



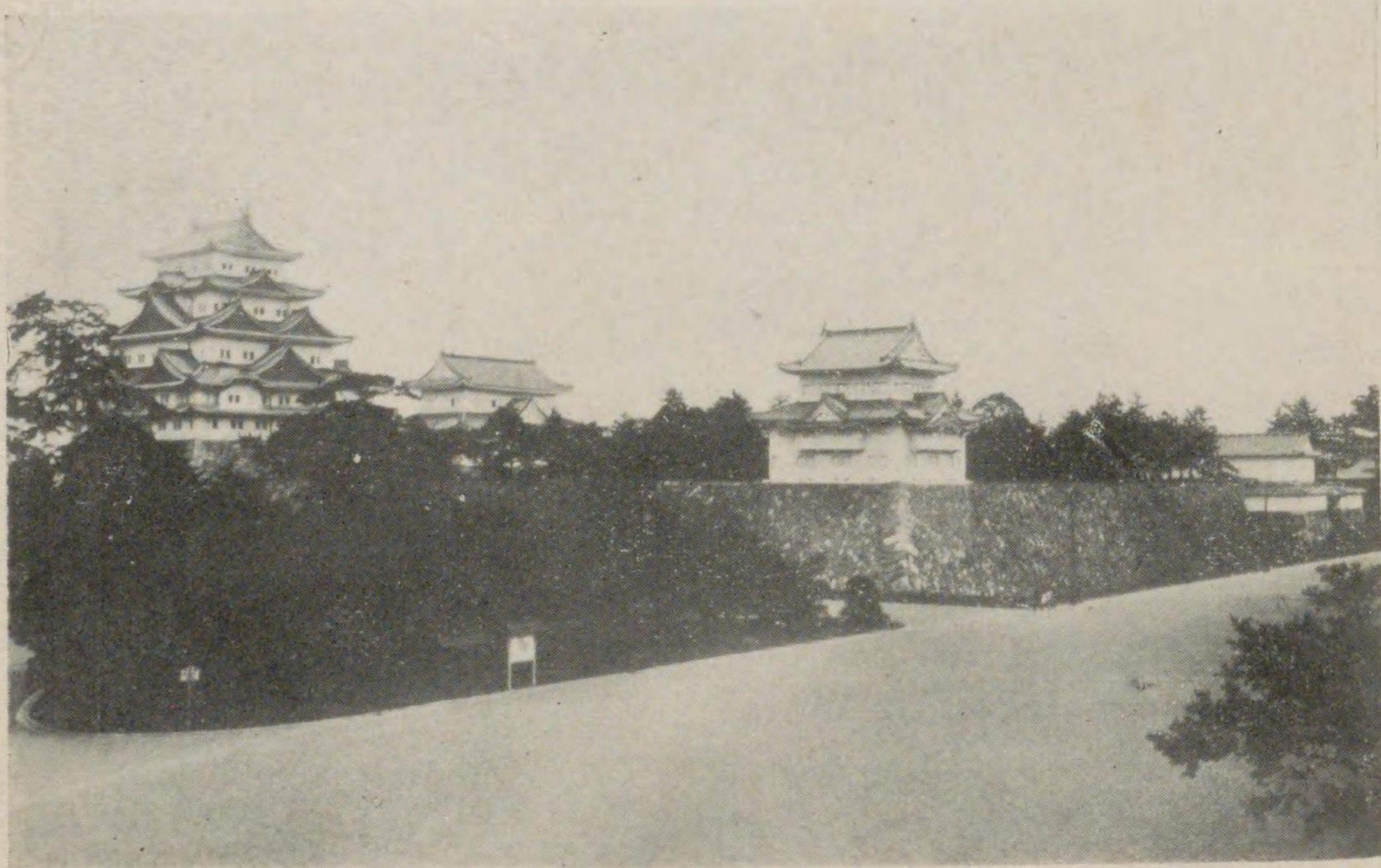
愛知縣地誌



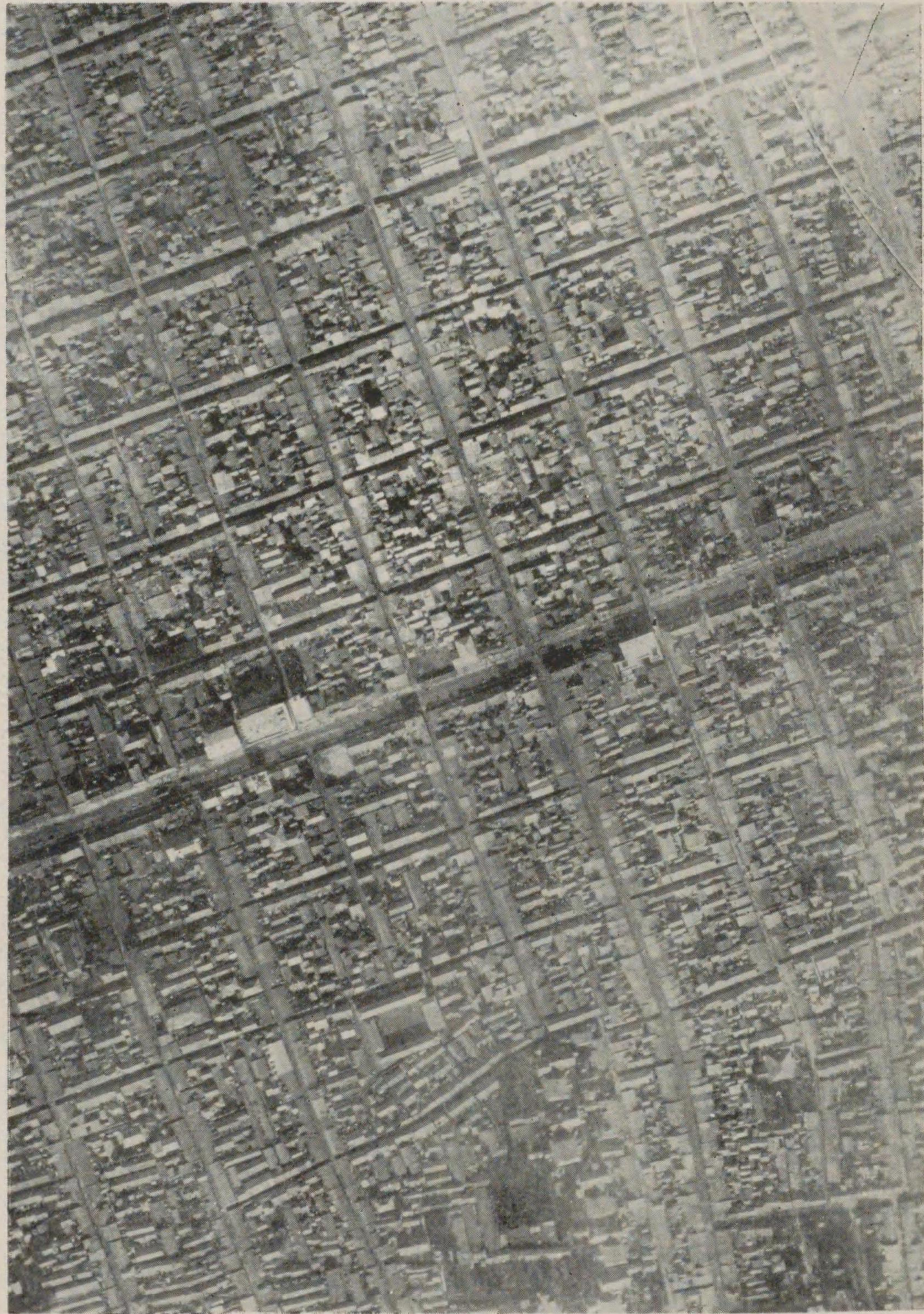
合資
會社
川瀨書店



宮 神 田 熱



城 屋 古 名



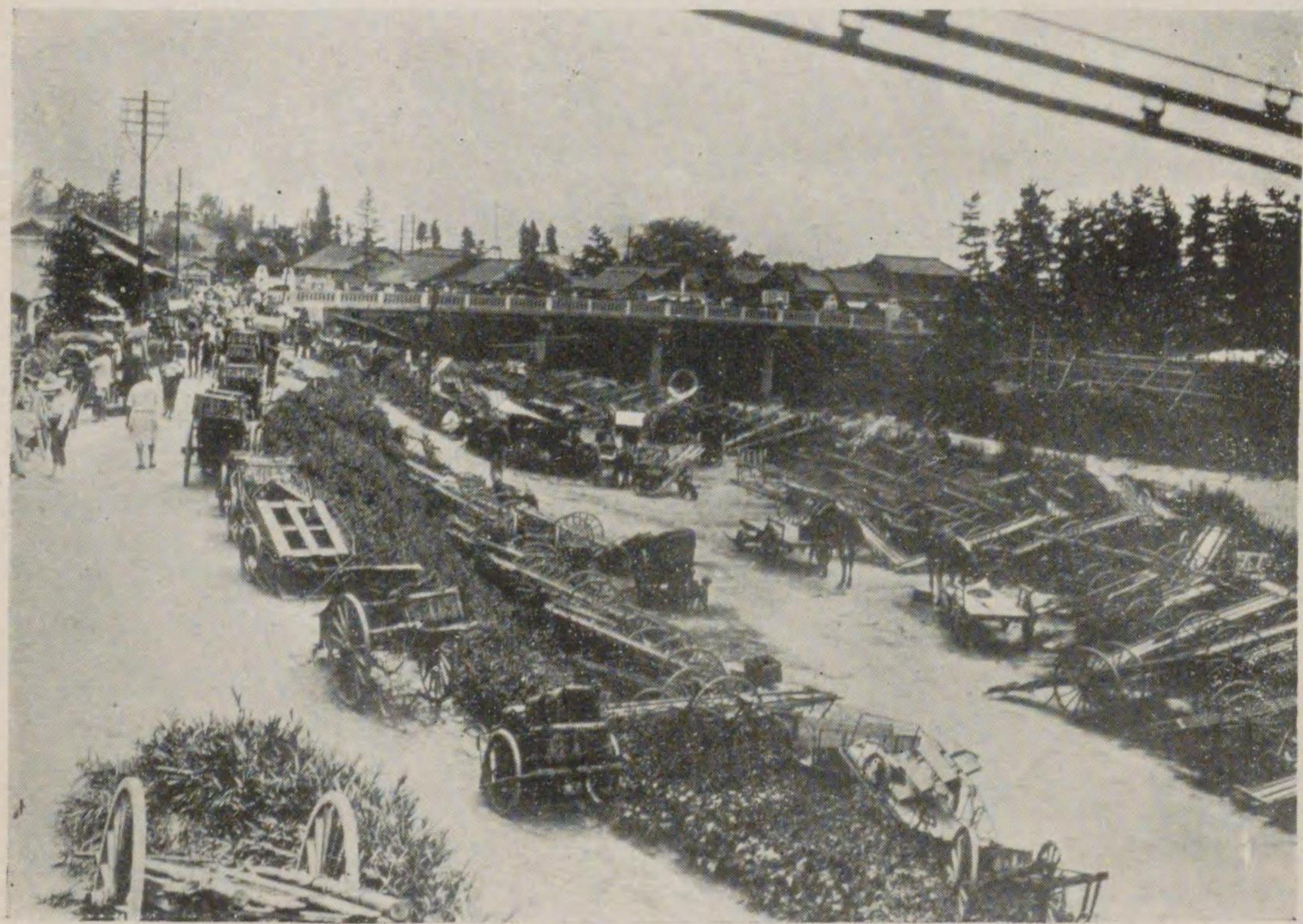
割盤碁の近附(前修改)通町本及通路小廣心都の屋古名
(濟閱檢隊分兵憲屋古名)



観景の近附場木貯鳥白流下川堀
(濟閣檢隊分兵憲屋古名)



枇杷島市場の雑踏



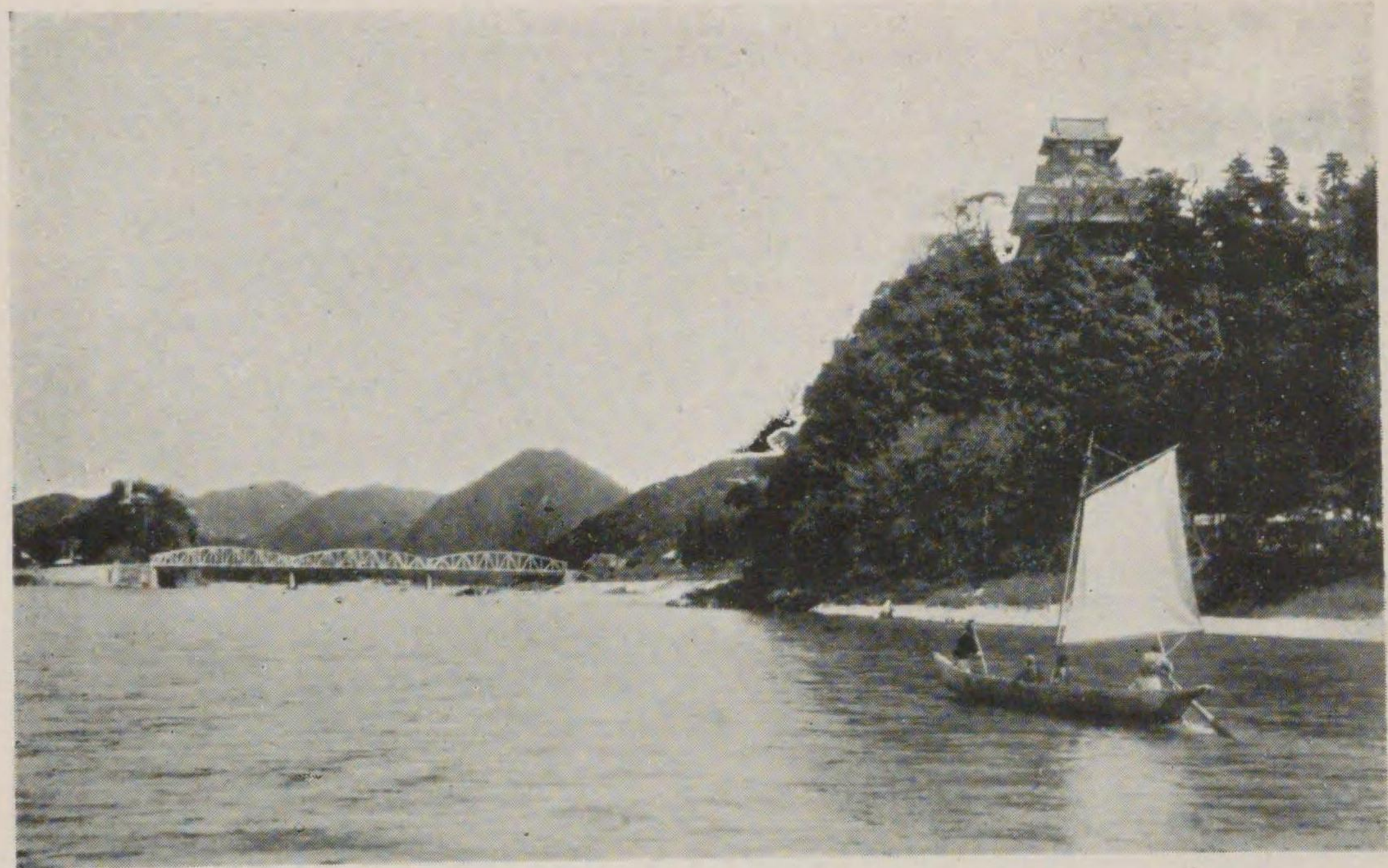
枇杷島市場の車置場



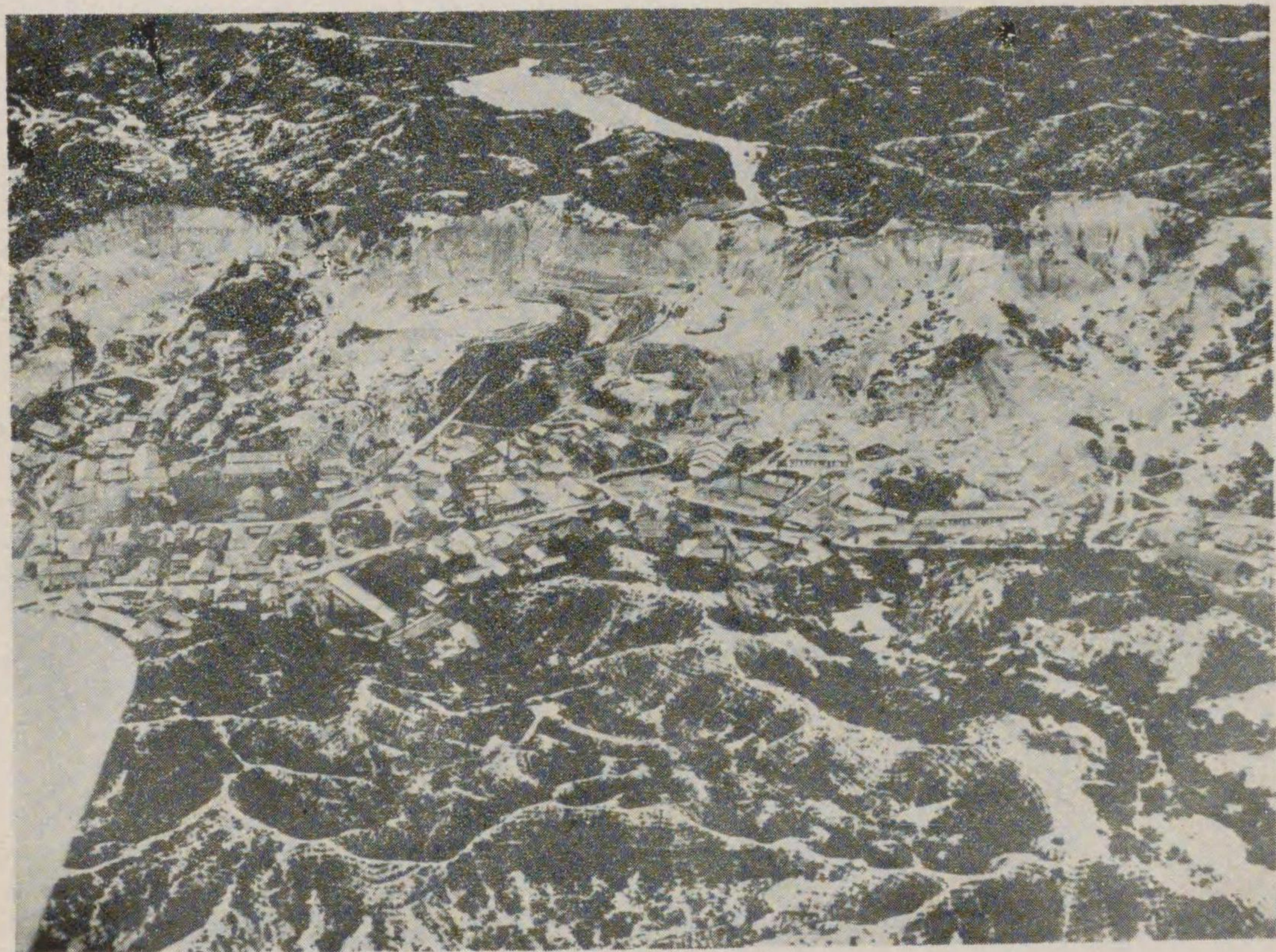
店帳の場市八三ぶ竝に前門社神田清真市宮一



(田土町寺目甚) 觀景村農の野平張尾



河川美を謳はれる日原本イシ



瀬戸に於ける土露天堀と砂防植林
(名古屋憲兵分隊検閱済)



矢作川下流中畑に浮んでたの原始的船紡績



三河灣の鹽田(饗庭吉田)



三河山地の原生林



勝地浦郡の竹島弁天

序

關東關西の中間に位し、その兩文化を融合し、幾多の特殊性をもつ愛知縣を、一つの地理區として觀た地誌のなかつたのを遺憾とし、將又郷土教育の高調せらるゝ秋に方り、愛知縣地誌出現の緊要なるを感じ、多年縣下教育に貢獻せる福山富雄・岡田鎮太郎・栗原光政の諸氏にその研究調査を委ねたのは昭和五年の初秋であつた。爾來年を閲すること既に六ヶ年、此處に稿を纏め一先づ上梓して大方諸賢の御叱正を待つこととした。

記憶重視、名勝案内に陥つた從來の地理や地理教育から蟬脱して、新しい研究の立場から愛知縣を檢究し、その地域性を闡明せんとする處に本書の主旨がある。即ち愛知縣の地理的景觀を分析し對比し、或は

綜合し統一して、その有機的全體的なる特相を把握せんとするのである。

従つて記載の順序として、先づ地形、氣候に付いては縣を一單元として眺め、次に大名古屋を始めとして縣を八つの副單元に分つて夫々の地誌を詳にし、最後に産業、交通、商業、人口に付いて再び縣單元に總括した。處誌と産業とに特に多くの頁數を割いたのは人文地理に重點を置いたが爲である。尙人文に働きかける地文及びその他の人文との相關々係謂ゆる地人文の交互作用の理解に努力した。

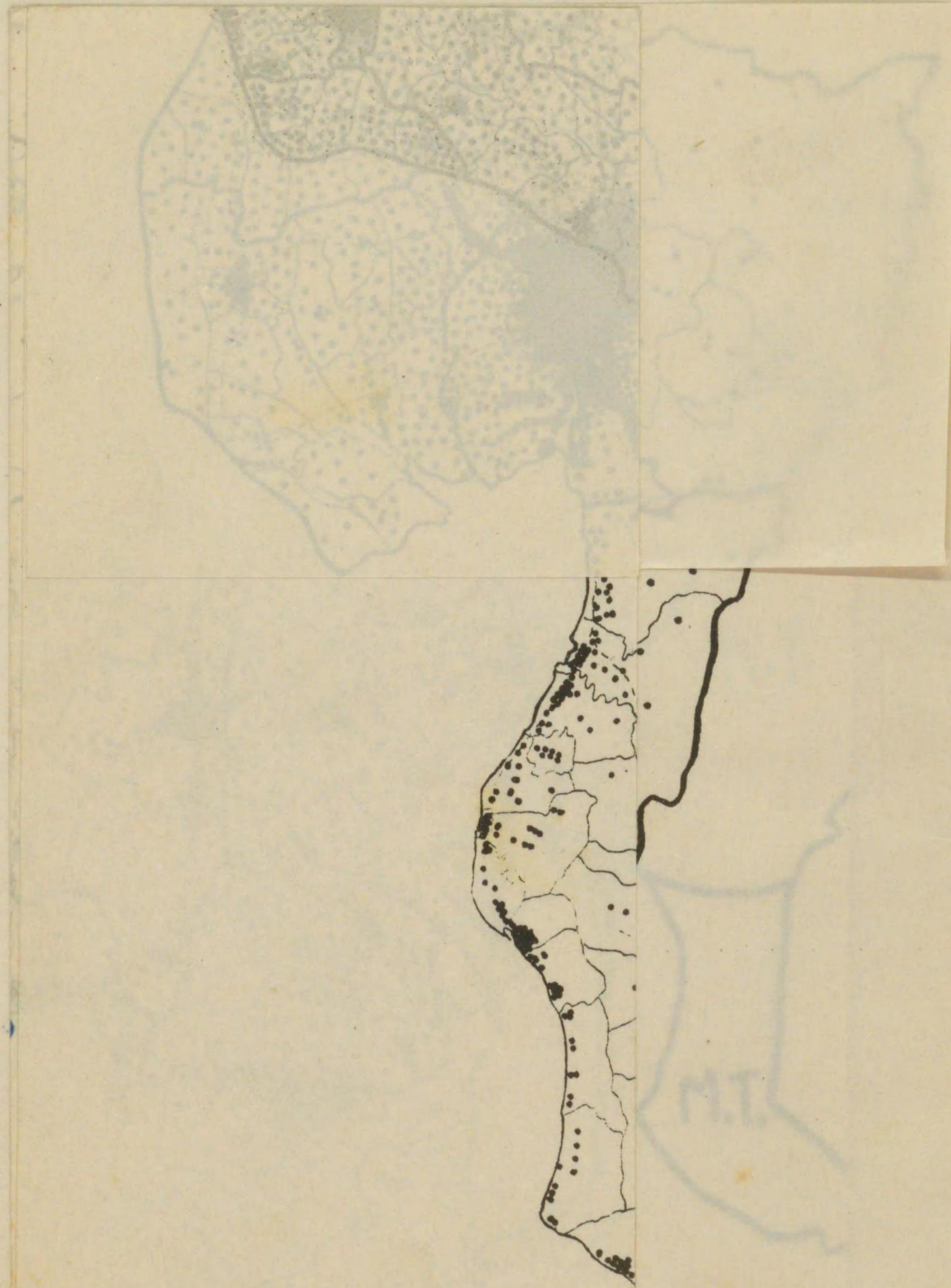
委員諸氏の多年の實地踏査を中心として築き上げられた研究の成果であること、ドット・マップ其の他分布圖・地域圖・圖表等數多の獨創性に富んだ直觀資料を挿入したこと、殊に市町村別の統計に依る微細な分布圖を作成して説明を援けてゐること等も本書の特色とする點である。

幸にも本書によつて伸び行く愛知縣の地域性が明かとなり、郷土研究の一指針ともなり、地方人士の郷土に對する認識を深め、以つて郷土の發展に寄與する所があれば本書の使命は十分に果される事と思ふ。

昭和十一年七月

愛知縣教育會

目次



目次

第一章 概論

第二章 地理的状況

第三章 地質

第四章 地質学的考察

第五章 地質学的考察の結論

第六章 地質学的考察の結論

第七章 地質学的考察の結論

第八章 地質学的考察の結論

第九章 地質学的考察の結論

第十章 地質学的考察の結論

参考文献

謝辞

索引

図表目録

表紙

巻頭

目次

第一章 概論

第二章 地理的状況

第三章 地質

第四章 地質学的考察

第五章 地質学的考察の結論

第六章 地質学的考察の結論

第七章 地質学的考察の結論

第八章 地質学的考察の結論

第九章 地質学的考察の結論

第十章 地質学的考察の結論

参考文献

謝辞

索引

図表目録

表紙

巻頭

人口分布

1 點 500人

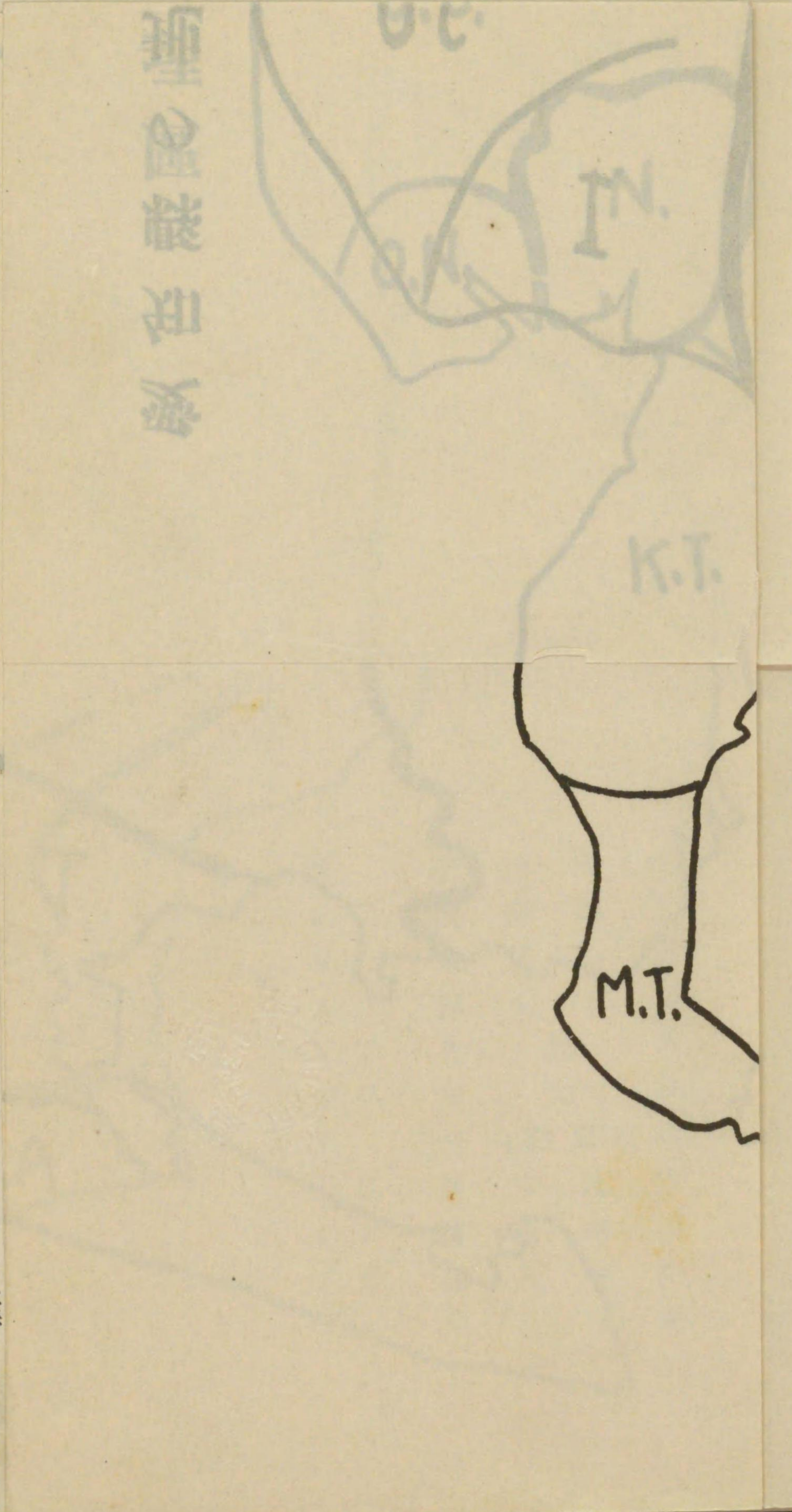


1 點 500人

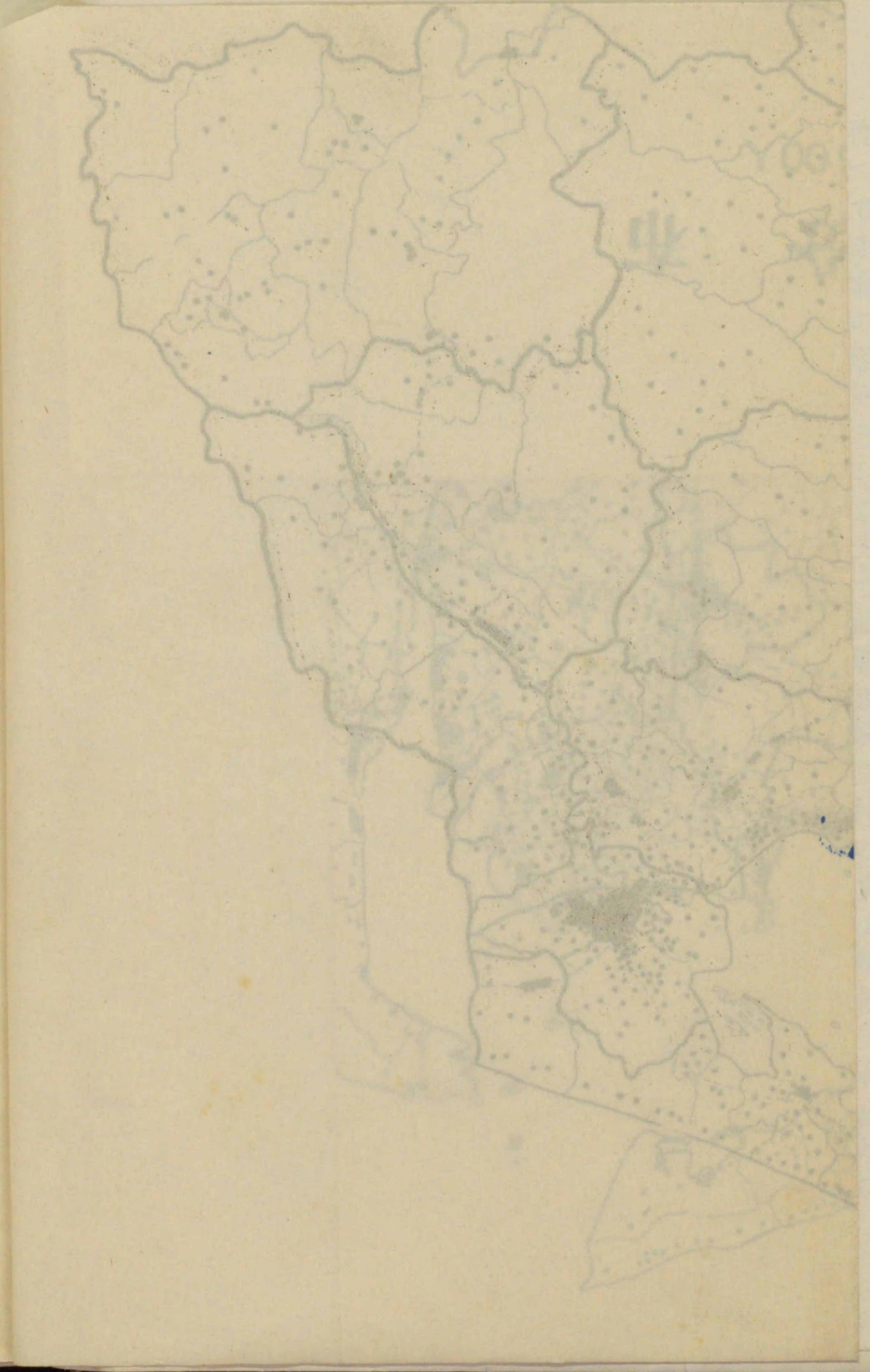


M.T.

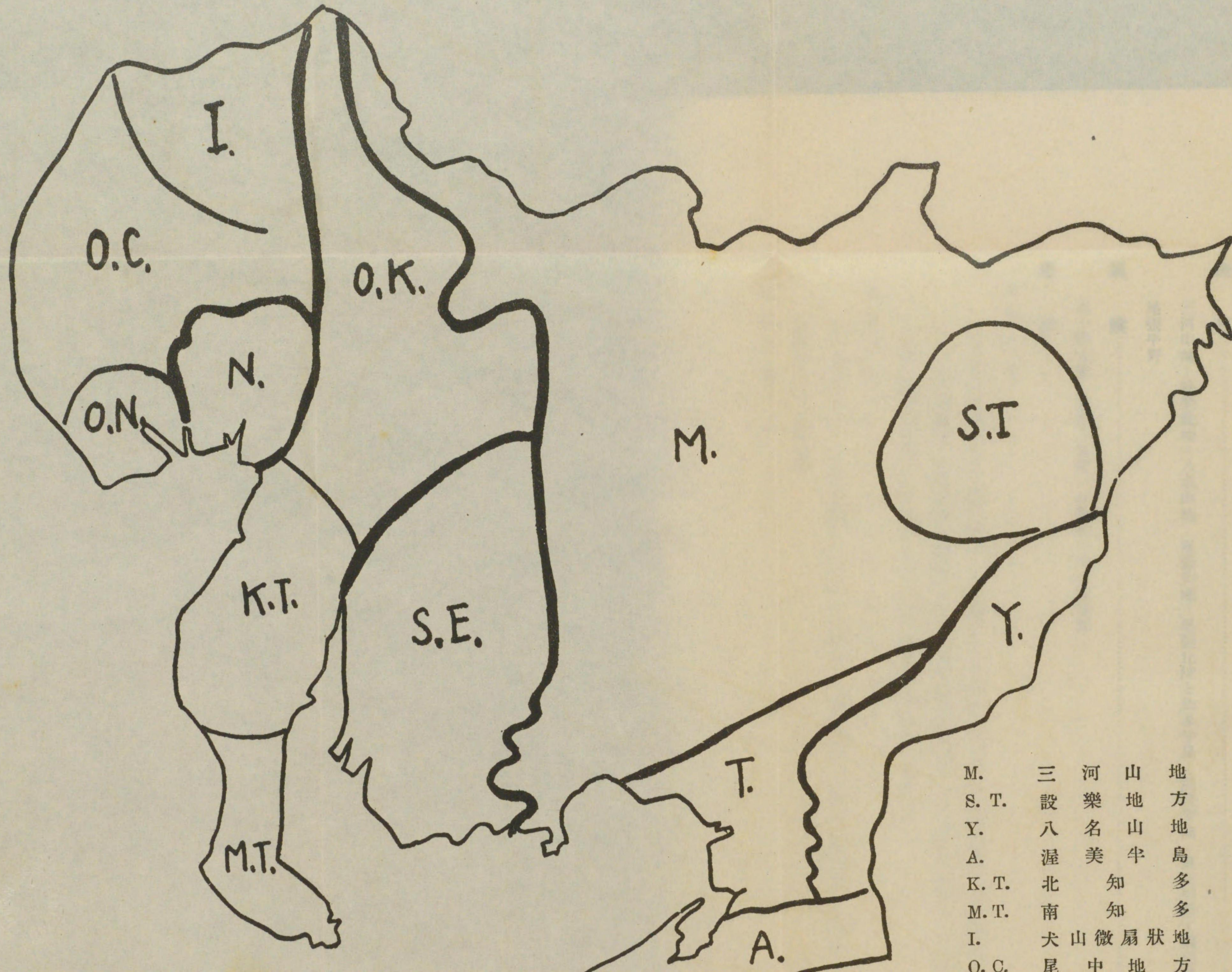
目次
尾張丘陵



尾張丘陵



愛知縣の地理區

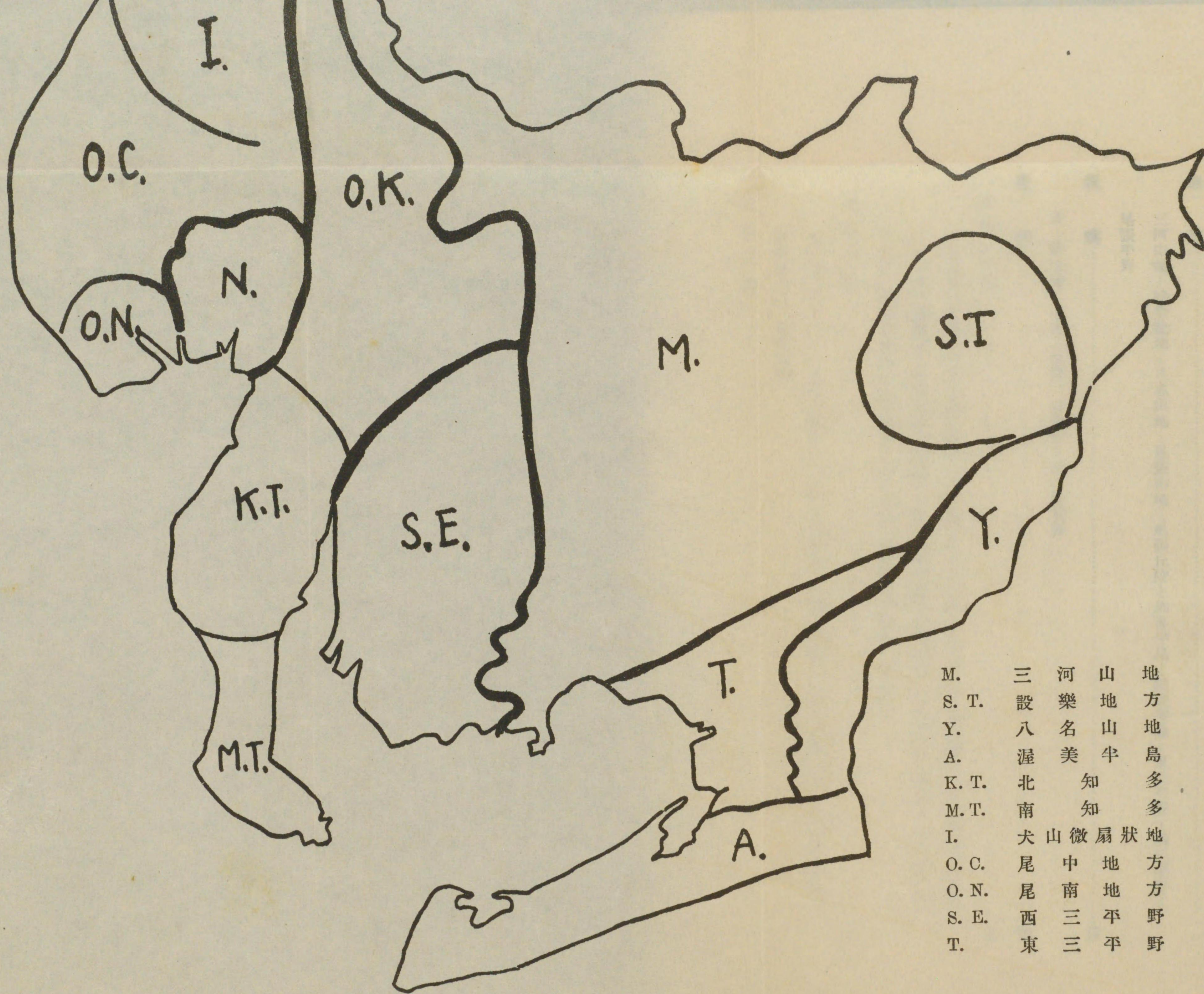


M.	三	河	山	地
S. T.	設	樂	地	方
Y.	八	名	山	地
A.	渥	美	半	島
K. T.	北	知		多
M. T.	南	知		多
I.	犬	山	微	扇
O. C.	尾	中	地	方

愛知縣地誌 目次



縣の地理區



- | | | | | |
|-------|---|---|---|---|
| M. | 三 | 河 | 山 | 地 |
| S. T. | 設 | 樂 | 地 | 方 |
| Y. | 八 | 名 | 山 | 地 |
| A. | 渥 | 美 | 半 | 島 |
| K. T. | 北 | | 知 | 多 |
| M. T. | 南 | | 知 | 多 |
| I. | 犬 | 山 | 微 | 扇 |
| O. C. | 尾 | 中 | 地 | 方 |
| O. N. | 尾 | 南 | 地 | 方 |
| S. E. | 西 | 三 | 平 | 野 |
| T. | 東 | 三 | 平 | 野 |

研究上愛知縣地理圖 日本



郷土研究 愛知縣地誌 目次

地形

三河山地—設樂盆地—八名山地—尾張山地—尾張丘陵と知多半島—渥美半島—東三平野—西三平野—尾張平野

氣候

風—降水量—氣溫—濕度—日較差—霜—氣候區

處誌

大名古屋

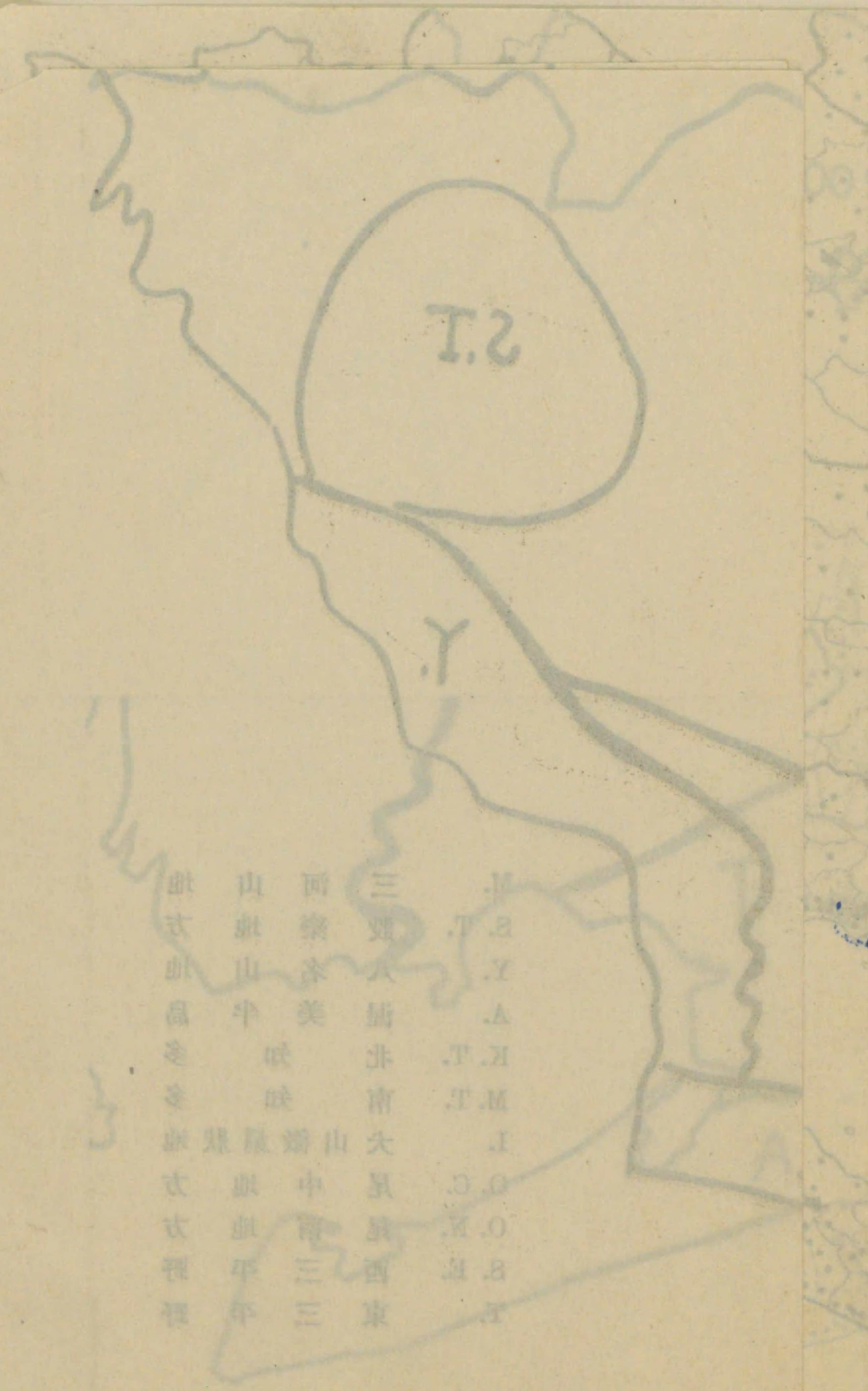
名古屋市の大觀—名古屋市の發達—名古屋市の工場分布—名古屋市工業の特色—名古屋市の材木業—名古屋の染織業—名古屋市の製陶業—名古屋市新道町製菓地帯—名古屋市の商店街—廣小路の植木夜店—熱田魚市場—名古屋港—名古屋市の商圏—名古屋市の都市計畫

尾張平野

名古屋市を中心とする近郊農業—枇杷島青果市場—一宮市概觀—尾西の毛織地帯—木曾川の風景と遊覽地—犬山—彌富金魚

尾張丘陵

目次



尾張丘陵の概観―瀬戸窯業地帯―尾張丘陵の亞炭鑛業
知多半島.....100

知多半島の概観―有松鳴海の絞染業―知多の白木綿と晒業―知多半島の醸造業―常滑窯業地帯―漁村・保養地としての篠島―新四國と三河三弘法

西三平野.....105

西三平野の概観―碧海農業の特色―吉濱の養鶏業―名古屋無線電信依佐美送信所―衣ヶ浦東岸窯業地帯―矢作川沿岸地方の蠶糸業―矢作川沿岸のガラ紡―矢作川下流に於ける農漁民活動の概観―猿投山麓地方の窯業原料―岡崎市概観―岡崎の石工業

渥美半島.....110

渥美半島の概観―半島の南部―半島西部の(冬季)温暖を利用せる諸栽培―半島北部の中心聚落―中山の風車について

東三平野.....113

東三平野の概観―耕地の分布―農産物其他―豊川下流の温室地帯―豊橋近郊の養鶏業―三河灣頭に於ける「アサクサノリ」養殖地帯―三河灣頭に於ける養鰻地帯―豊橋市の概観―東三平野の聚落―蒲郡低地

設樂地方.....115

設樂地方―鐵道開通前に於ける三河と伊那谷との交通―家屋の型式から見た設樂地方の聚落―豊根

の椎茸―伊奈街道に沿ふ申柿地帯

産業.....116

農業.....116

- 一、耕地面積比率を中心とした農業地域の設定―一、米作地域―三、麥作地域―四、雜穀作地域―
- 五、特用作物地域―六、蔬菜地域―七、促成栽培地域―八、露地促成栽培―九、花卉栽培地域―
- 一〇、果樹栽培地域―一一、果樹苗木地域―一二、養蠶地域―一三、農業經營の様式―一四、省線各驛を中心として見た農産物の移出入型

牧畜業.....122

- 一、概観―一二、牛と馬―一三、豚―一四、牧羊業不振の原因―一五、鶏

林業.....123

- 一、森林面積と木材生産地域―二、林相圖と森林の分布―三、分布を決定する諸條件―四、造林―
- 五、植栽位置―六、伐木と時期―七、製材と市場―八、輪移入量と需要量―九、木炭

鑛業.....124

- 一、採鑛と環境―一二、各種鑛産物と其利用

水産業.....126

- 一、縣の位置―二、漁場の地形―三、兩灣内の潮流と水溫・比重―四、漁場―五、漁法と漁船―六、灣内漁獲物―七、遠洋漁業―八、遠洋漁獲物―九、淡水漁業―一〇、淺海養殖地域―一一、淡水養

工業

殖

一、概観

八五

- 一、概観
- 二、織物
- 三、紡績
- 四、製絲業
- 五、染物業
- 六、メリヤス
- 七、機械器具工業
- 八、車輛製造工業
- 九、時計製造業
- 一〇、樂器製造業
- 一一、航空機及兵器製造業
- 一二、醸造業
- 一三、窯業
- 一四、食品工業
- 一五、木工業
- 一六、其他

交通

八三

- 一、交通網
- 二、道路
- 三、鐵道
- 四、自動車網
- 五、河川路
- 六、海路
- 七、運河
- 八、特殊交通線
- 九、交通機關
- 一〇、交通の諸相

商業

八六

- 一、伊勢海沿岸低地の都市分布
- 二、尾張平野に於ける都市の商圏
- 三、知多半島の商圏
- 四、西三河の商圏
- 五、東三河の商圏
- 六、デパートメントストア
- 七、定期市場

人口

八六

- 一、人口の構成
- 二、人口密度
- 三、人口の増減
- 四、人口の移動

(終)

郷土研究 愛知縣地誌

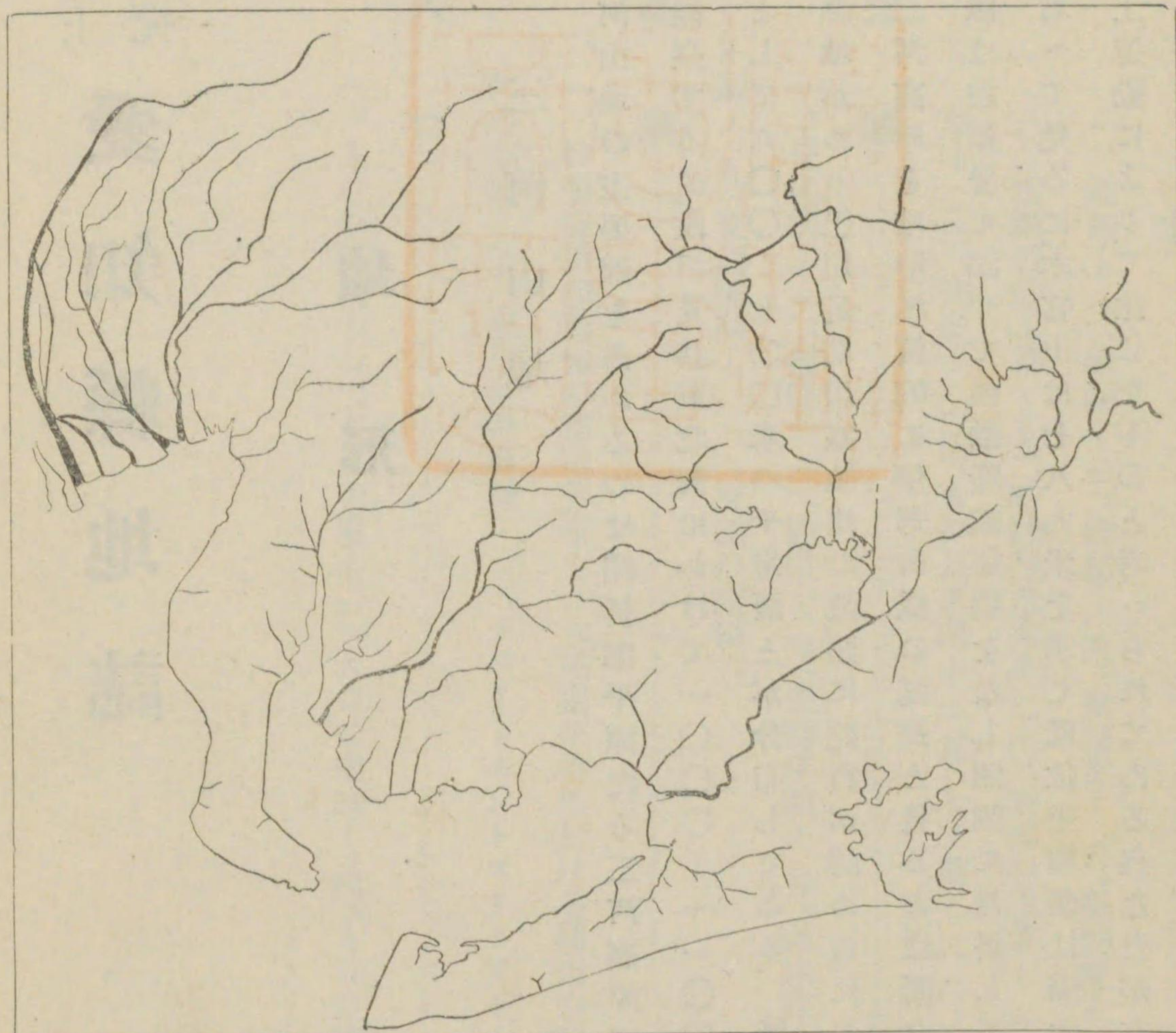
地形

三河山地の主要部を占めるのは開折準平原たる三河高原で、切峰面によつて其原始準平原の形を觀察するに段戸及其東北部にかけて一〇〇〇—一〇〇〇米に及ぶ平坦面と其の南部作手を中心として六〇〇—七〇〇米の平坦面とが分布してゐる。後者の平坦面には作手村田原附近の如き濕地があり、巴川、足助川、寒狭川の流路に蛇行が認められるのは前輪廻の名残りと思はれる。

この三河高原を地形地質的に伊那山脈の延長と見るのは面白い觀方で、西南日本中央線に沿ふ伊那山脈は逆斷層に添つて傾動隆起運動をなし西側に傾斜してゐる。これを南に延長し本宮山附近で考へて見るに、本宮山は七八九米を示し低位平原面は漸次西に傾斜してゐる事や、この斷層崖が衝上運動によりて生じたものと考へられてゐる点などが右の事實を裏書するゐる様である。この衝上運動は三河山地や伊那山脈のみでなく、糸魚川駿東線形成後新第三紀層が沈積し、後北又

愛知縣水系圖

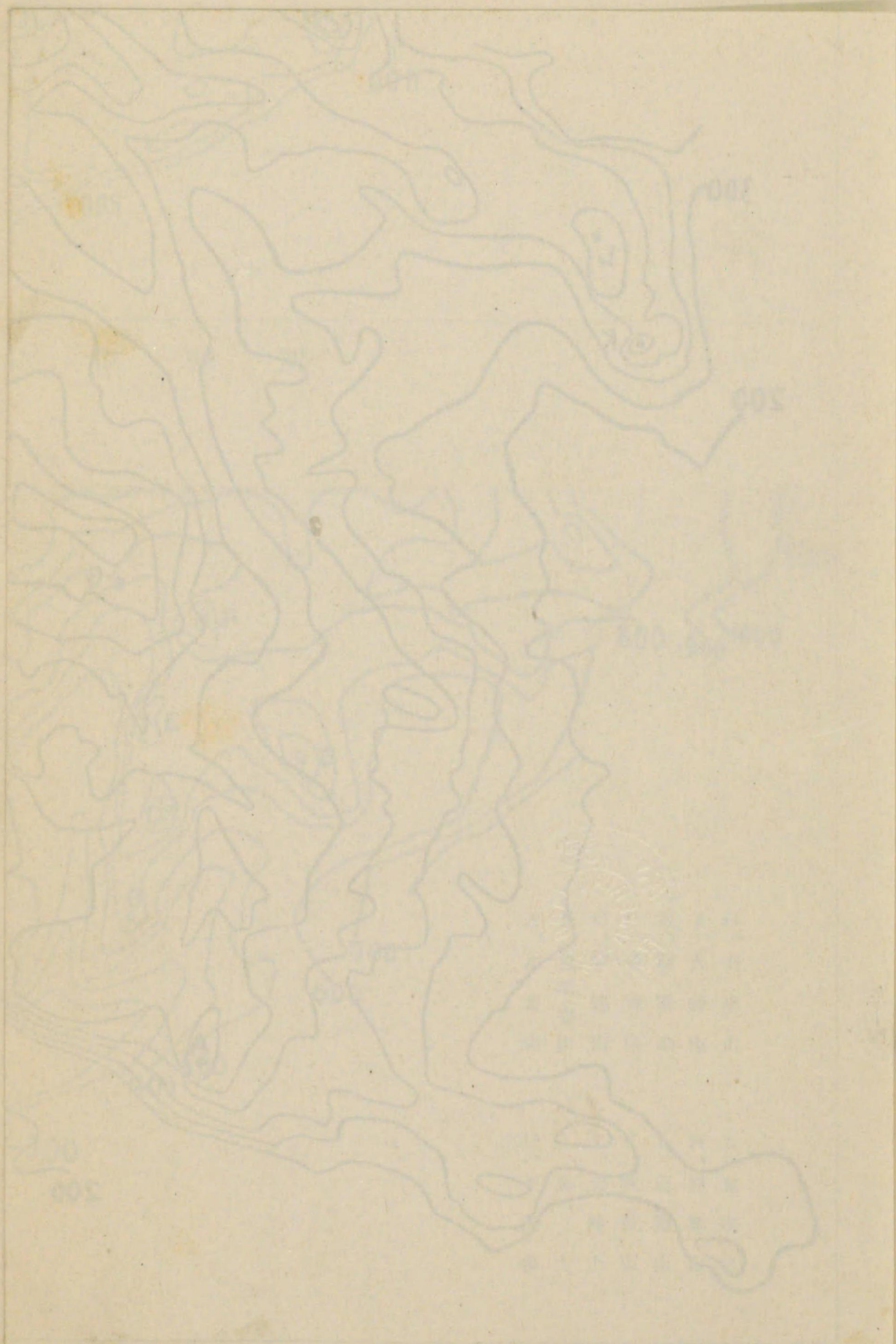
地形



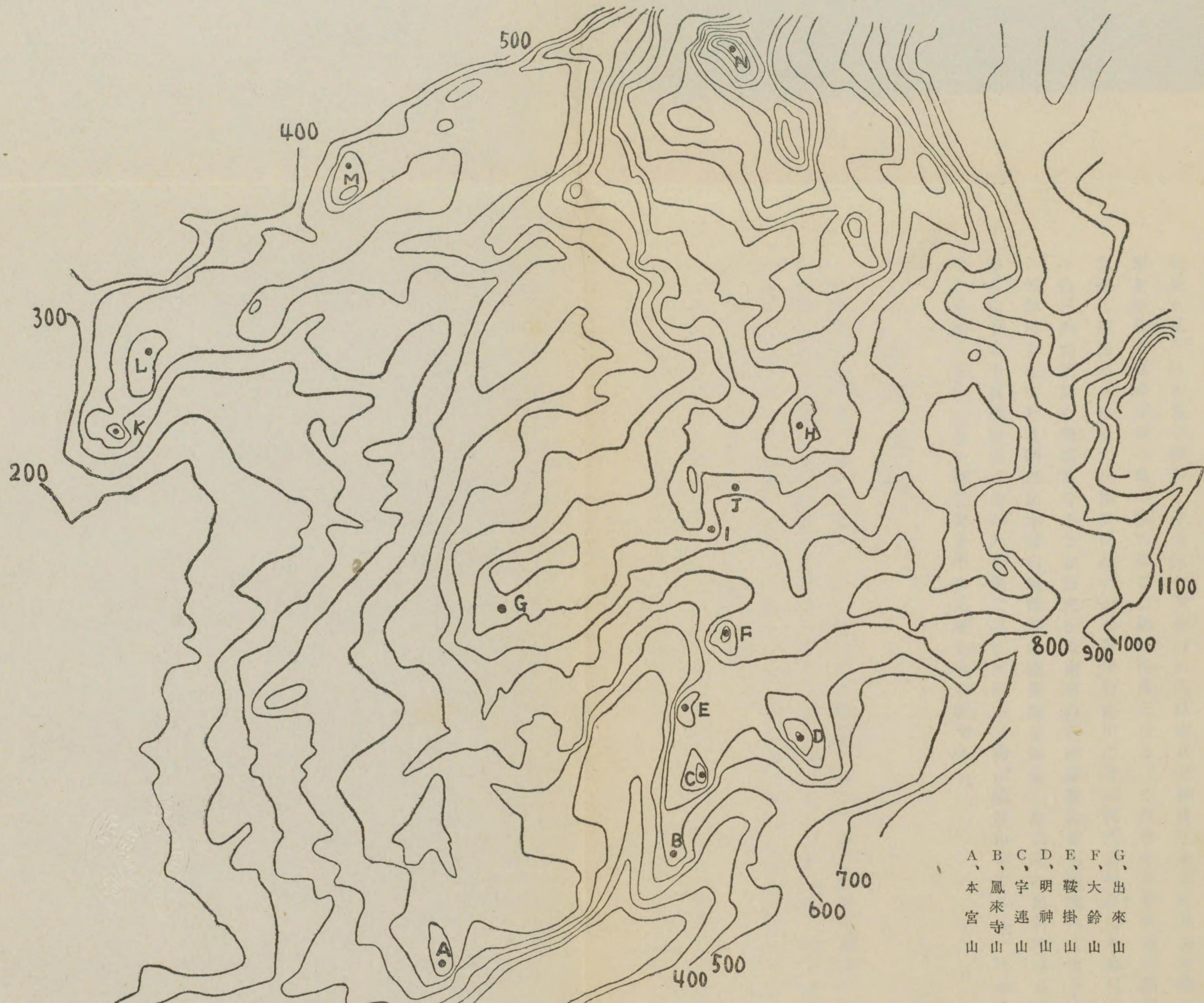
二
 は北西から横壓力をうけて木曾
 飛驒等は之つて現在の位置に移
 動し彎曲する事となり、この運動
 は外帯にも作用し赤石山地も傾
 動しつゝ、東方に移動し古き地層
 の上に乗る如き状態を示してゐ
 る。

この準平原の形成は第三紀で
 設樂層堆積期と同期と見れば中
 新期になるが正確な事は不明で
 ある。

この平坦面には西南日本中央
 線に平行せる斷層線やこれと斜
 交する斷層線を認める事が出來
 る。平行せる線で明瞭なものは
 遠山川に沿ふて下伊那郡神原村
 向方大川内に出でる線を津具に

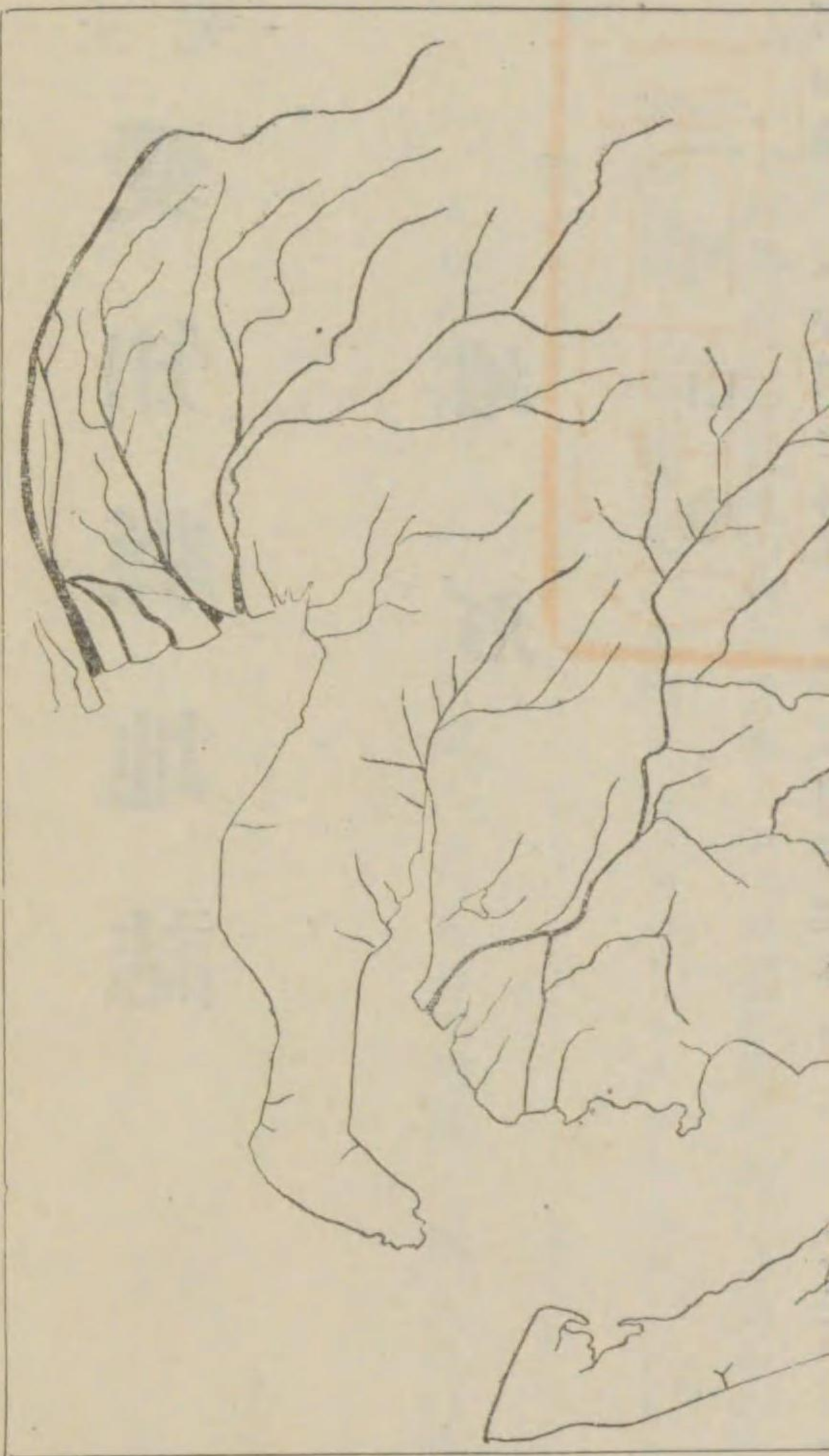


三河高原の切峰面

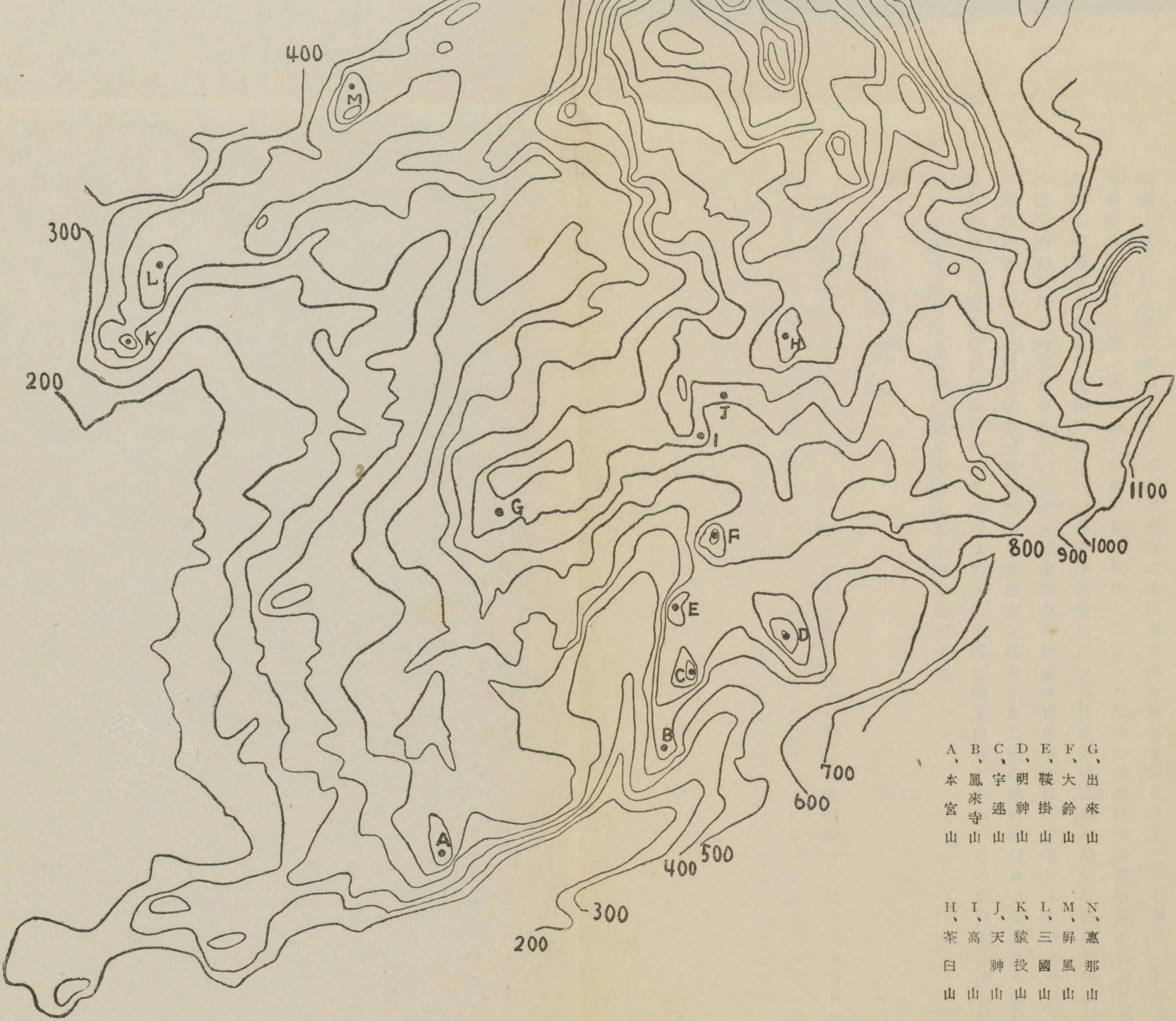


- A、本宮山
- B、鳳來寺山
- C、宇連山
- D、明神山
- E、鞍掛山
- F、大鈴山
- G、出来山

水系圖

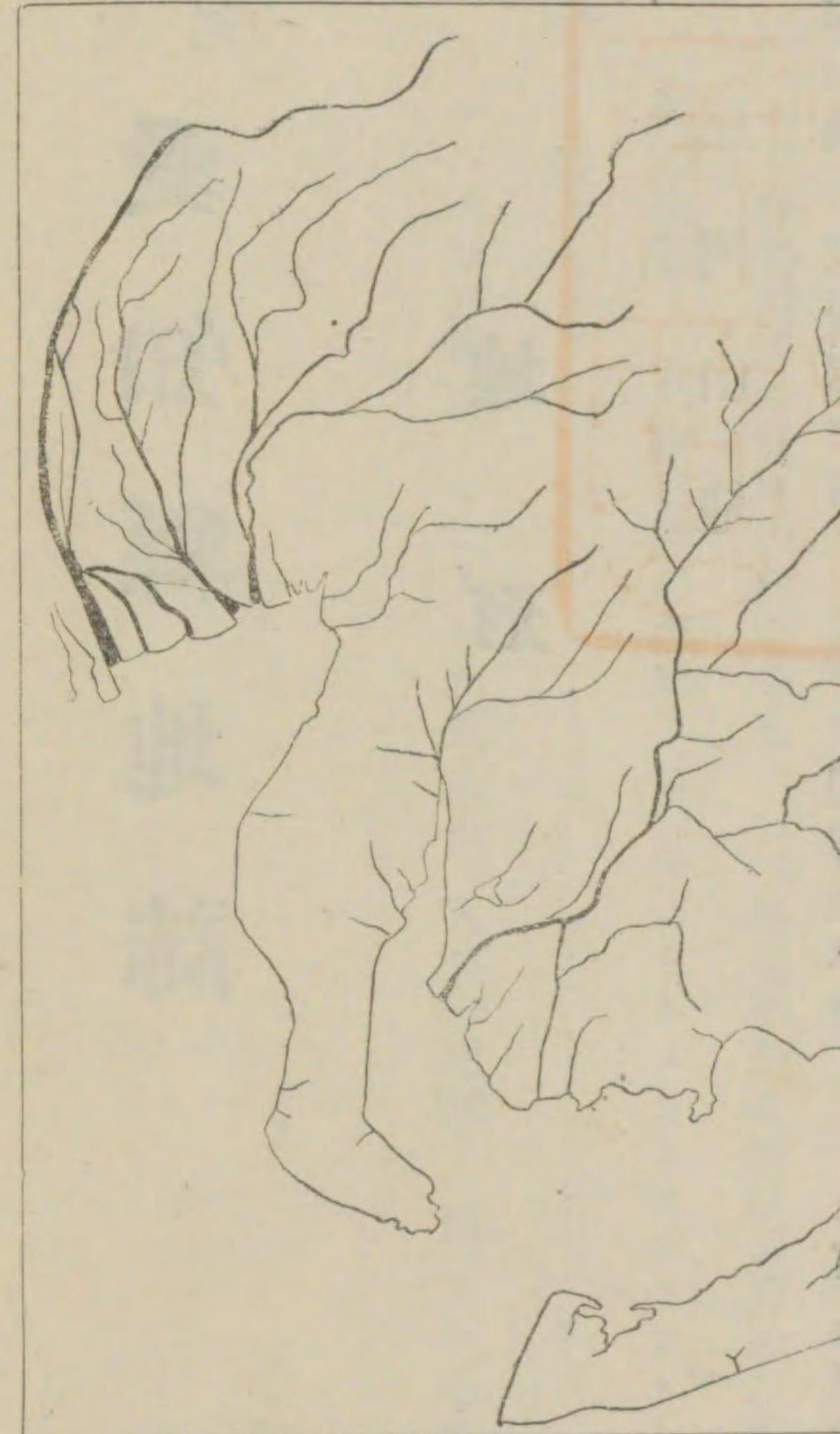


設樂層堆積期と新期になるが正確である。
この平坦面には線に平行せる断層交する断層線を認る。平行せる線で遠山川に沿ふて下方大川内に出で



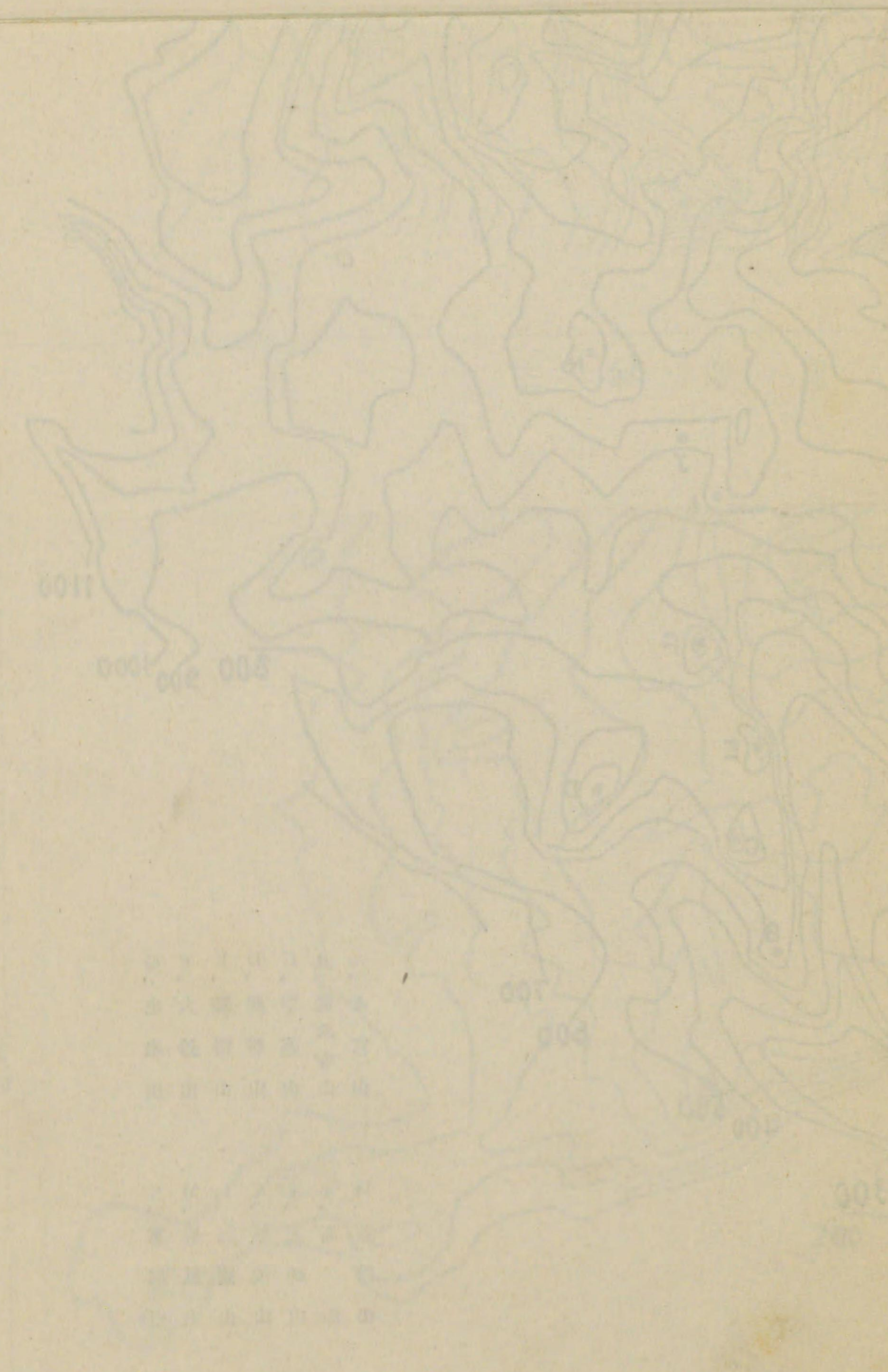
- | | | | | | | |
|----|----|----|----|----|----|----|
| A、 | B、 | C、 | D、 | E、 | F、 | G、 |
| 本 | 鳳 | 宇 | 明 | 鞍 | 大 | 出 |
| 宮 | 來 | 連 | 神 | 掛 | 鈴 | 來 |
| 山 | 山 | 山 | 山 | 山 | 山 | 山 |
| H、 | I、 | J、 | K、 | L、 | M、 | N、 |
| 茶 | 高 | 天 | 猿 | 三 | 屏 | 惠 |
| 白 | 山 | 神 | 投 | 國 | 風 | 那 |
| 山 | 山 | 山 | 山 | 山 | 山 | 山 |

水系圖



設樂層堆積期と同期と見れば中新期になるが正確な事は不明である。

この平坦面には西南日本中央線に平行せる断層線やこれと斜交する断層線を認める事が出来る。平行せる線で明瞭なものは遠山川に沿ふて下伊那郡神原村向方大川内に出でる線を津具に



結び田口と作手村の高松杉平に出る線と、今一つ田口より作手の守義善夫田原清岳を結ぶ線、足助川に沿ひ足助と恵那郡下原田村久武瀬を結ぶ線、(これは伊那街道に沿ふて南下する天龍斷層の延長と見られる)及び舉母より上流の矢作川に沿ひ恵那郡靜波村東方に及ぶ線等である。三河高原を伊那山脈の延長と見る場合はこの線が境界となる。これ等の北東西南の斷層線に斜交する北西―東南のものは大規模ではないが名倉川・武節川に沿ふ線、武節村高田木旭村小瀧野を結ぶ線、下山村内の巴川の流路等であるが、三河山地南部の御油斷層は最も規模の大きなものと云へよう。矢作川を距てた北西部に木曾山地西側の斷層崖を延長した二列の傾斜地塊がある。第一列は保古山・夕立山・屏風山・東谷山の列で、第二列は天狗山・三國山・猿投山等である。この走向も又西南日本中央線に並行し、若い第三紀層中にも辿り得る様である。

設 楽 盆 地

寒狭川・三輪川・大入川により境された地域に中新期に屬する第三紀層が雲母片岩や花崗岩を被覆し厚さ七〇〇米に及ぶ堆積が行はれてゐる。砂岩と頁岩の互層が最も廣く卓越し、田口町の東方和市に至る途中には頁岩が美事に露出してゐる。其他凝灰質砂岩・凝灰岩・集塊質凝灰岩等が分布して火山活動の盛んなりし事を物語つてゐる。

この第三紀層を基盤として數多の火山が噴出してゐる。即ち鳳來寺山・棚山・宇連山・明神山・鞍掛山・御殿山・大鈴山・大峠・金山等で石英粗面岩・松脂岩よりなるトロイデで、壯年の開折をうけ山頂に

は母岩が露出して怪異な地貌を呈してゐる。

高山天神山丸山は玄武岩の噴出によるもので、丸山は非常に美事なトロイデで殆ど侵蝕をうけてゐない。

三信國境の茶白山は玄武岩安山岩よりなるコニーデで頂上に小噴火口を有してゐる。

此種の火山岩は殆ど北帯の南界に近い所に限つて噴出したものゝ様で、中帯に連続する阿蘇火山の延長と見られてゐる。

この基岩たる第三紀層が海成である事は貝類や魚類の化石が得られる事で知られ、中新期末から鮮新層の初期と考へられてゐるが、其後著しく隆起を見六〇〇―八〇〇米の隆起をなしてゐる様である。三輪川の上流乳岩の石門は過去の溪流の侵蝕と解釋せられ、現河底より約五十米の高さにある事が知られる。

而してこの第三紀層中に發達する河川の侵蝕力は著しく、比較的軟弱と考へられる第三紀層中を流れる振草川と花崗岩雲母片岩の如き古期の比較的堅硬な地域を流れる大入川との間に河流争奪が行はれんとしてゐる。

寒狭川は一の弱線に沿ふと考へられるが、それ以上に第三紀層たる事がこの侵蝕谷を深からしめてゐる。

八 名 山 地

赤石山地の延長と見る事が出来る。地質は北部に御荷鉢層、南部は古生層で其の接觸部附近に吉祥山を構成する斑瀾岩が御荷鉢層を貫き岩株となつて逆入してゐる。分水嶺は七〇〇―一三〇〇米と西南に低下し、この前面に中央線に平行する山吉田・富岡線の斷層線を見出す事が出来る。この線に沿ふ山間盆地たる山吉田・富岡等が存在してその盆地より流出する黄柳川、宇利川は若い峡谷を作つて北東流し豊川に流入してゐる。この流路が侵蝕谷か斷層線かは未だ明瞭でない。又嵩山^{ハセ}北方の山地以南岩屋に及ぶまでに分水嶺より西方へスパーが出てゐるがこれは斷層線により構成されたものと考へる。

尾 張 山 地

尾張の北部は美濃山地南部古生層地塊群の一部で三〇〇米を平均とする地域である。黒平山・本宮山・尾張富士・犬山城址・伊木山等古生層山地であつて、美濃山地の南方部分は伊勢灣及濃尾平野に臨んで陥落し、壯年期に開折された山地の一部は低下して平野面の上に急聳する。以前には更に高い位置にあつた急な山腹及山脚が四〇〇米以下に高度を減じてゐる。小牧山はこの山地の低下せる一地塊である。古生代の岩石たる珪岩・角岩等は侵蝕風化に抗して急な峰を作り山腹斜面は一般に急傾斜をなしてゐる。

日本ラインとして知られてゐる木曾川の峡谷はこの山地の一部を侵蝕して流れてゐる部分であつて、且て太田附近(岐阜縣)に湖盆を生じ山地の峽隘より流出せる木曾川が下刻して形成せる侵蝕美と考へる。

尾張丘陵と知多半島

大部分は高度一〇〇米以下の低い丘陵地であつて、砂礫層で構成され壯年の開拆された三角洲と認められる。原表面は半島部では殆んど見出す事が出来ないが、母盆地の周縁にはやゝ完全な面が発見される。

半島の大部分は上部常滑層の砂礫粘土であるが、崩壊して所謂瀬戸内式なバツドランドを形成してゐる。これは地質と氣候の關係から解釋さるべきものである。

地層の緩かな向斜軸は略々半島の中央を通り東西兩海岸にケスタに近い景觀を有してゐる。

尙野間以南師崎に互つては新第三紀の師崎層群が露出し、野間師崎の海岸を斷層海岸と見て地層の北東への急な傾斜を説明せんとする見方がある。

何れにしても古期三角洲としてその一部分が狹長に残つてゐるのは其の成因に斷層線の存在を認めると都合がよい。殊に半島の緩かな向斜構造などから單なる減傾斜的隆起と見る譯には行かない。尾張丘陵は木曾山脈の延長と考へられ増傾斜的隆起をなし前者との境界は大府大高線と見られる。

前述の傾斜地塊列の延長が尾張丘陵、知多半島となつてゐるかとも考へられる。この点は尙充分考慮を要するのである。

知多半島の西岸は冬季西北風が卓越し各地に砂丘列の發達と見るが最もテイピカルなのは野間附近である。

半島南部の須佐小佐林ノ崎、片名大井等の鍋狀灣入は斷層によるものと解釋され、其他北東より西南への斷層線が初神岩屋内海の溪谷を走り長久手猪高炭田附近調査の結果からもこの方向のものが多く報告されてゐる。

渥美半島

渥美半島は海岸平野が減傾斜的隆起をなしたもので、最大隆起部が海面上に露出し、陸面が逆傾斜してゐる。濱名湖に接近する附近が最も隆起量が大きく七〇―八〇米を示し伊良湖岬に向つて緩かに傾斜してゐる。従つて必従谷の方向は北西北に決定される。然し開拆海岸平野面を流れる河川は、必ずしも必従河流でなく無従谷をなすもの、或は斷層線に沿ふものがある様に思はれる。白須賀附近での地層の觀察の場合、谷系に沿ふ斷層の存在を地層の傾斜から發見した。即ち西北から東南のもの、或は北東―南西々にかけてのものがある。半島北部の梅田川は後者の弱線に沿ふものと思はれる。

赤石山地はこの線で一度姿を消し、汐川以西に至つて出現する。即ち藏王山より衣笠山、七ツ山、

大山・城山・浅間山・骨山・古山等の古生層の地塊が縦走し島軸に平行又は直角の斷層で殆んど孤立丘陵となり隆起以前の島たるを思はせる。

天白原一帯に古生層の丘陵がなく、外濱にも對置海岸の發達を見ず、外帶山地の斷絶を見るのは一の疑問で、御油斷層を延長してこの不連續を解決するか、又は撓曲で解釋すべきかは明かでない。丘陵はないが天白原は上部にロームと河成の砂礫層をのせ、下部に半淡水の砂礫層が發達し多數の化石を埋藏する。その堆積状態は濱名湖畔(伊佐見村佐濱)の洪積層や志摩磯部村木場の洪積層と對比され、近似の層準にある事を示してゐる。従つて渥美半島の地盤運動が先志摩のそれに類似するものがある様に思はれる。即ち先志摩の海蝕臺地は、最初減傾斜的沈降後に生じた廣い海蝕面が後に減傾斜的隆起をうけた場合であり、渥美半島の海岸平野もその過去を経た様に考へられる。

渥美半島の洪積層は細かく分類されてゐるが、一色層は原形面がよく保存され、田原層の最上部たる杉山層は頂上部に平坦面を残し下部の豊島層はよく侵蝕されて壯年期を現はしてゐる。

天白原全体の侵蝕型は晩幼年期と云ふ事が出来る。

海蝕崖には地下水の溢出や雨水の集合による無從谷が刻まれてゐるが、分水界が海崖に接近してゐるので近い將來には争奪の行はれる事が豫想される。現にこれが行はれて逆從河流と見られる池尻川が赤羽根に發達してゐる。

一色以西の海岸平野は丘陵群が背後に聳え幅が著しくせばめられ對置海岸がよく發達してゐる。

角岩珪岩等よりなる顯礁や海洞が伊良湖岬地方に發達し日出の石門として知られてゐる。

この石門と云はれる海洞は多くは西北東南の斷層線に沿ふもので石門の上部に鏡肌が存在してゐるのを認め得る。

伊良湖岬近くの外濱では海崖は十米以下となり段丘と認めうべき洪積層が北部にかけて發達してゐる。この面は未だ殆ど侵蝕が行はれてゐない。その段丘と丘陵の間に狭長な沖積地即ち堀切附近と和名池邊が發達し近時まで陸化を見なかつた所と考へうる。特に和名池と呼ばれる邊では地下から舟の木片があらはれ、又東大寺の瓦を焼いた所が附近にあつて往時舟が此處まで入つたものらしい。一休伊良湖岬以北福江に及ぶ地域は若い洪積層の堆積層が隆起し、其後沖積紀初期の沈降を繼續してゐるのではないかと思はれる。其の一つの證據は砂嘴の存在である。伊良湖岬を基部とし東北部に延長し立馬岬より東方に曲り福江灣に砂嘴を形成する。伊良湖水道より注入する強力な潮流と西北の卓越風とによつて形成されたもので中山村の沿地、太田川及元豊島池は第一海岸線、長池は第二海岸線と見る事が出来る。この砂嘴の形成が可成古い事は海岸線近く藤原松附近に古墳群が分布してゐる事から想像される。

半島の北岸も十米内外の海崖を有し過去の隆起を物語つてゐるが其後多少沈降し今尙續いてゐるかに考へられる。福江灣や田原灣の存在及其れに流入する免々田川、汐川の川口が喇叭型をなしてゐる事は沈水海岸を證明するかと思はれる。

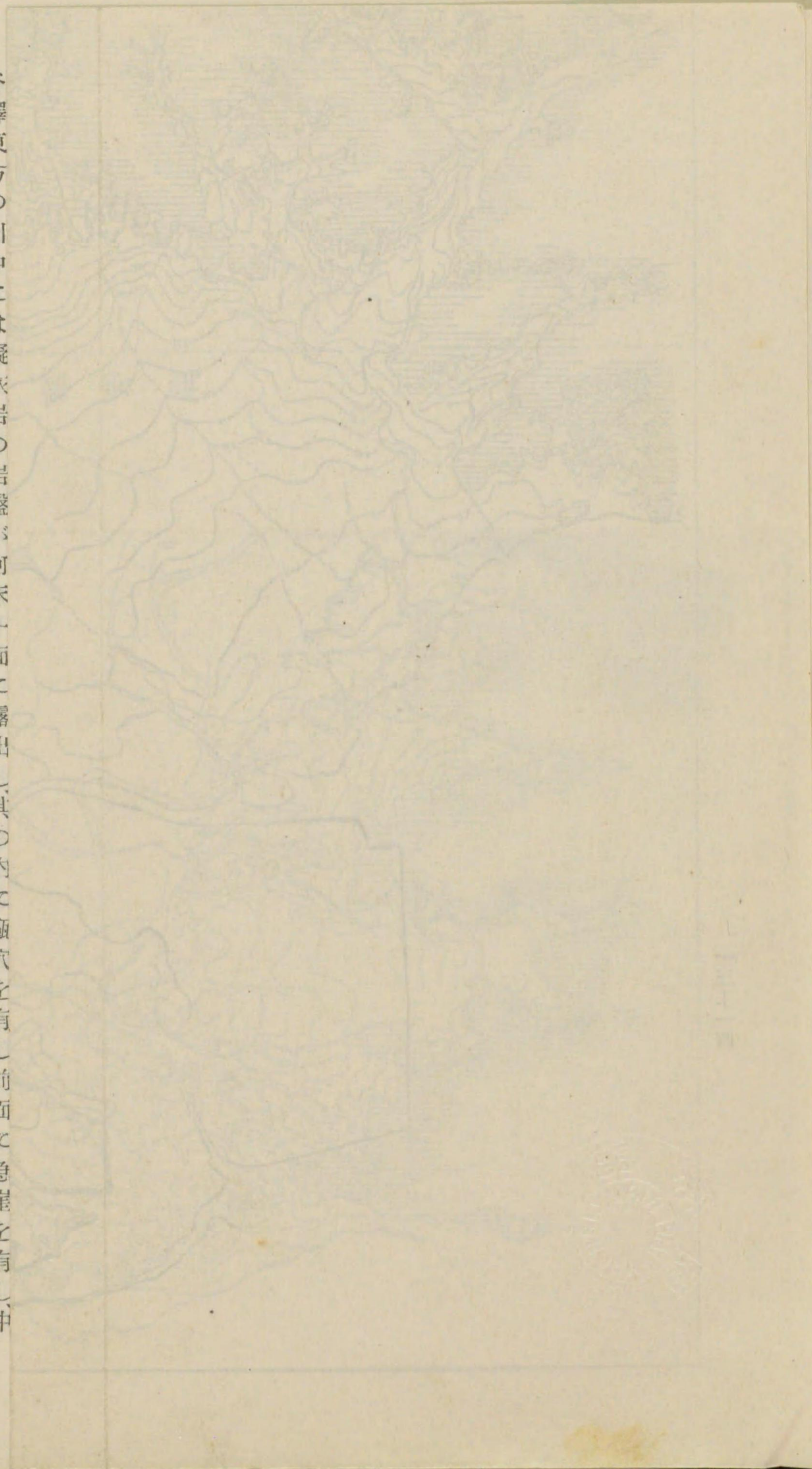
又七ツ山以東藏王山に及ぶ五丘陵の間は灣入して丘陵部がカスプをなして突出し海中に顯礁

を作つてゐる。又丘陵間の汐川が潮流中にカस्प形三角洲を作らないのもこの邊の消息を物語つてゐる様である。

田原灣口にのびる波瀾を基部とする大洲崎は沿岸漂流による砂嘴と見る事が出来様が、田原灣内に發達する長島佛島本島蟻島平島大島は夫々列をなして東北から西南に走り、大洲崎の北方神野新田三號地先より笠山北方まで前者と走向を同じうする淺堆が發達してゐて島軸に並行する岩盤の存在を暗示する。

東三平野

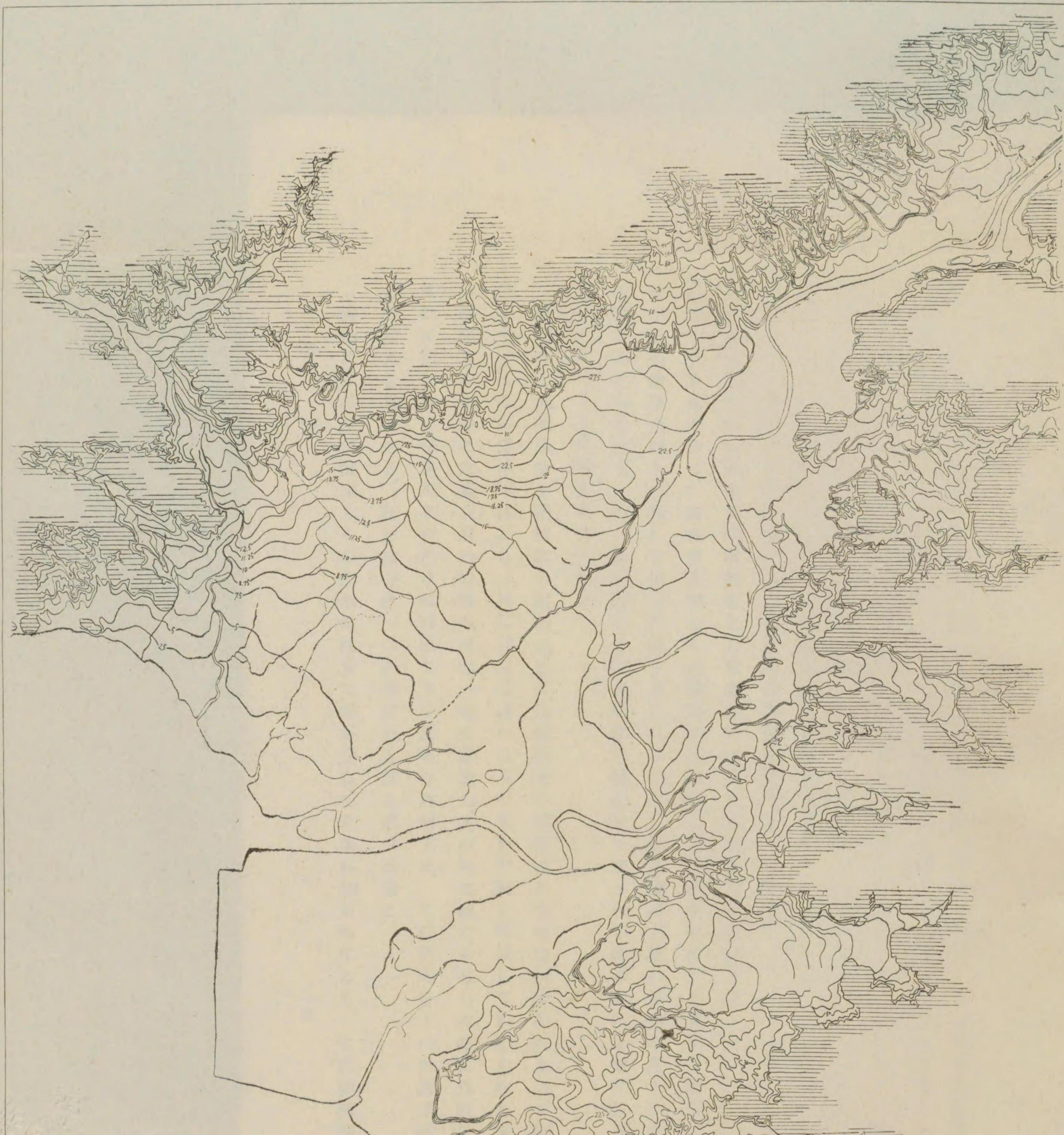
豊川がS字型に蛇行する沖積地域に於ては、流路に沿つて多量の堆積が行はれて自然堤防が發達し遠ざかるに従つて次第に低くなつて後背低濕地を形成してゐる。この自然堤防が發達して一連の平地となつて擬似三角洲面が形成され、更に堆積が進行すると微扇狀地面となるが、新城から大村邊に及ぶ低地はこれに該當するものと思はれる。この沖積地の兩側には新舊二段の美事な河岸段丘が發達してゐる。舊期のものは長篠を中心とする百米の丘陵で、これが形成時代の海岸平野が渥美半島を構成する田原層と思はれる。其後一色層堆積時代のものが、本宮山麓に發達する東上炭焼長山千兩の各段丘扇狀地と對比される様に思はれる。各段丘扇狀地は崖端侵蝕が發達し若い谷に刻まれ段丘崖は十米内外を示し、平坦面は未だよく保存されてゐる。左岸では段丘扇狀地の發達が見られない。



谷驛東方の川中には凝灰岩の岩盤が河床一面に露出し、其の内に竅穴を有し前面に急崖を有し、中央部に狭い深い谷が刻まれ河水は奔流して小瀑布を形成する。この岩床を下つた處は深淵で過去の瀧壺を思はせる。此の部分は一つの遷移点と見る事が出来る。

海岸には砂丘が發達し、その内部には曾て潟が存在した事が知られてゐる。この砂濱海岸に對

東三平野の微地形



を作つてゐる。又丘陵間の汐川が潮流中にカस्प形三角洲を作らないのもこの邊の消
つてゐる様である。

田原灣口にのびる波瀾を基部とする大洲崎は沿岸漂流による砂嘴と見る事が出来様
内に發達する長島佛島本島蟻島平島大島は夫々列をなして東北から西南に走り、大洲崎
野新田三號地先より笠山北方まで前者と走向を同じうする淺堆が發達してゐて島軸に
岩盤の存在を暗示する。

東三平野

豊川がS字型に蛇行する沖積地域に於ては流路に沿つて多量の堆積が行はれて自然
達し遠ざかるに従つて次第に低くなつて後背低濕地を形成してゐる。この自然堤防が
一連の平地となつて擬似三角洲面が形成され、更に堆積が進行すると微扇狀地面となる
ら大村邊に及ぶ低地はこれに該當するものと思はれる。この沖積地の兩側には新舊二
な河岸段丘が發達してゐる。舊期のものは長篠を中心とする百米の丘陵で、これが形成
岸平野が渥美半島を構成する田原層と思はれる。其後一色層堆積時代のものが、本宮山
する東上炭焼長山千兩の各段丘扇狀地と對比される様に思はれる。各段丘扇狀地は崖
發達し若い谷に刻まれ段丘崖は十米内外を示し、平坦面は未だよく保存されてゐる。左
丘扇狀地の發達が見られない。

を作つてゐる。又丘陵間の汐川が潮流中にカヌプ形三角洲を作らないのもこの邊の消息を物語つてゐる様である。

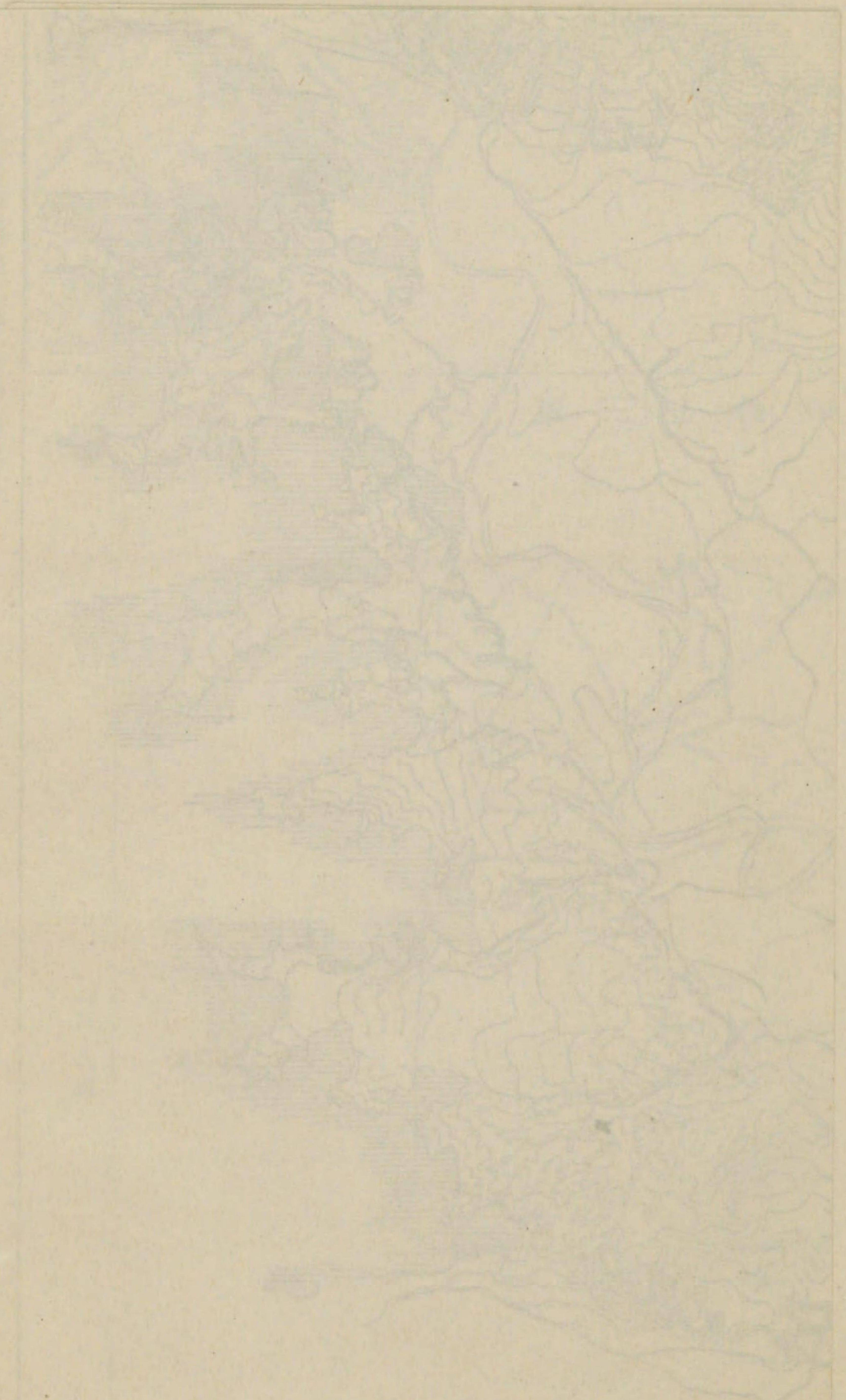
田原灣口にのびる波瀾を基部とする大洲崎は沿岸漂流による砂嘴と見る事が出来様が、田原灣内に發達する長島・佛島・本島・蟻島・平島・大島は夫々列をなして東北から西南に走り、大洲崎の北方新野新田三號地先より笠山北方まで前者と走向を同じうする淺堆が發達してゐて島軸に並行する岩盤の存在を暗示する。

東三平野

豊川がS字型に蛇行する沖積地域に於ては、流路に沿つて多量の堆積が行はれて自然堤防が發達し遠ざかるに従つて次第に低くなつて後背低濕地を形成してゐる。この自然堤防が發達して一連の平地となつて擬似三角洲面が形成され、更に堆積が進行すると微扇狀地面となるが、新城から大村邊に及ぶ低地はこれに該當するものと思はれる。この沖積地の兩側には新舊二段の美事な河岸段丘が發達してゐる。舊期のものは長篠を中心とする百米の丘陵で、これが形成時代の海岸平野が渥美半島を構成する田原層と思はれる。其後一色層堆積時代のものが、本宮山麓に發達する東上炭焼・長山・干兩の各段丘扇狀地と對比される様に思はれる。各段丘扇狀地は崖端侵蝕が發達し若い谷に刻まれ段丘崖は十米内外を示し平坦面は未だよく保存されてゐる。左岸では段丘扇狀地の發達が見られない。



を作つてゐる。又丘陵間の汐川が潮流中にカスプ形三角洲を作らないのもこの邊の消息を物語



この段丘扇状地の侵蝕谷の下流に新しい扇状地面が構成されてゐる。干兩長山市田國府野田・新城等の新期扇状地面が展開し、左岸でもこれと對比すべき扇状地は極く一部に發達する。この新期扇状地面をのせてゐるのが最新の段丘侵蝕面で右岸では一宮村大木を頂点とする隆起三角洲の形態をとり一段である。尤も新城邊では上下二段の段丘を認め得るが、左岸になると右岸に比較すべき下位段丘面は狭長で南に緩傾斜し豊橋の主要部をのせ、上位段丘面が市の東方に廣く發達する。豊橋第二中學校、東田小學校、工兵大隊教導學校の位置はすべて上位段丘面上にある。この上位段丘面は減傾斜的隆起をなし東南方に傾斜し、高師原の減傾斜運動と對應してゐるのは注目すべき点である。高師原と同じく北西面に逆傾斜し、飯村西山の丘陵も同様な運動をなし大池がその遷移点、即ち一種の下撓曲の軸にあつてゐる。段丘崖は上位のが約十米、下位のは豊橋市街で約七米、豊川邊で約十米、侵蝕は上位は崖端侵蝕がやゝすゝみ、下位のは極少部分に發達するのみでよく原形を保つてゐる。

豊川の上流風來峽と稱ばれる附近は、この新期段丘の形成による増傾斜隆起によつて侵蝕の復活を生じ、その影響が下流から上流に及んで現在こゝに峽谷急流を構成してゐるものと思ふ。湯谷驛東方の川中には凝灰岩の岩盤が河床一面に露出し、其の内に甌穴を有し、前面に急崖を有し、中央部に狭い深い谷が刻まれ、河水は奔流して小瀑布を形成する。この岩床を下つた處は深淵で過去の瀧壺を思はせる。此の部分は一つの遷移点と見る事が出来る。

海岸には砂丘が發達し、その内部には會て潟が存在した事が知られてゐる。この砂濱海岸に對

し西方の幡豆の地方は三河山地が沈水して岩石海岸を構成しよい對照をなしてゐる。

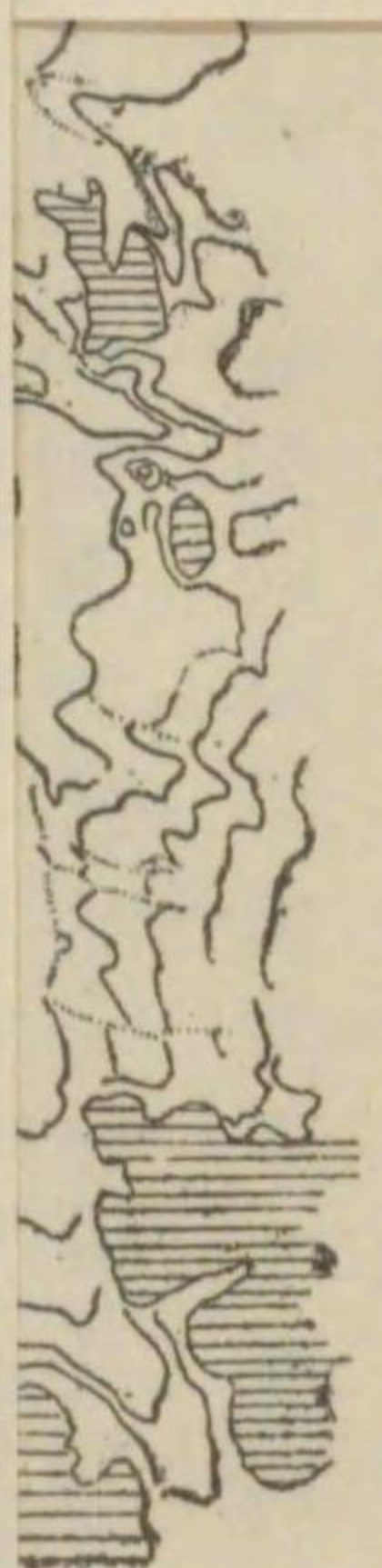
西三平野

矢作川の沖積地は幅約六料で帶狀をなし豊川程の蛇行を示さず荒川となつてゐる。矢作川の流路の變遷は次の様に考へて見る事が出来る。現在の流路の内藤井より米津に至る間は人工的開鑿によるものであつて、自然的な流路は矢作古川であり、それ以前は現在廣田川の流路にあたるものではないかと考へられる。

従つて矢作古川の河口附近は三角洲の發達よく、新しい時代の干拓も行はれてゐる。人工的に移された矢作川の河口も新期の三角洲が構成されつゝある。この沖積地の右岸に廣く圓形に過去の三角洲が段丘となつて展開してゐる。最高部二十米で西南に緩傾斜してゐる、多數の必從谷と其の支谷の頭部侵蝕によつて刻まれ、縁邊部では開析が進んでゐるが臺地面はまだ廣く残つてゐる。

この臺地の南部が少し沈降した結果油ヶ淵を形成したのではないかと考へられ、この点は三方原南部の地形と類似する。

油ヶ淵により境された西南の高濱新川の臺地と、矢作川南部の寺津臺地とは前記の安城原と相違した運動を行つてゐる様である。即ち安城原が増傾斜的隆起をせるに對し、他は豊川左岸上位段丘面と同様な減傾斜的隆起を行つてゐる油ヶ淵半場川の流路は豊橋の大池とよく似た遷移点



形地微の野平三西



矢作川の沖積地は幅約六料で帯状をなし豊川程の蛇行を示さず流路の變遷は次の様に考へて見る事が出来る。現在の流路の内藤井開鑿によるものであつて、自然的な流路は矢作古川であり、それ以前のものではないかと考へられる。

従つて矢作古川の河口附近は三角洲の發達よく、新しい時代の干拓移された矢作川の河口も新期の三角洲が構成されつゝある。この過去の三角洲が段丘となつて展開してゐる。最高部二十米で西南に緩と其の支谷の頭部侵蝕によつて刻まれ縁邊部では開析が進んでゐる。

この臺地の南部が少し沈降した結果油ヶ淵を形成したのではない、原南部の地形と類似する。

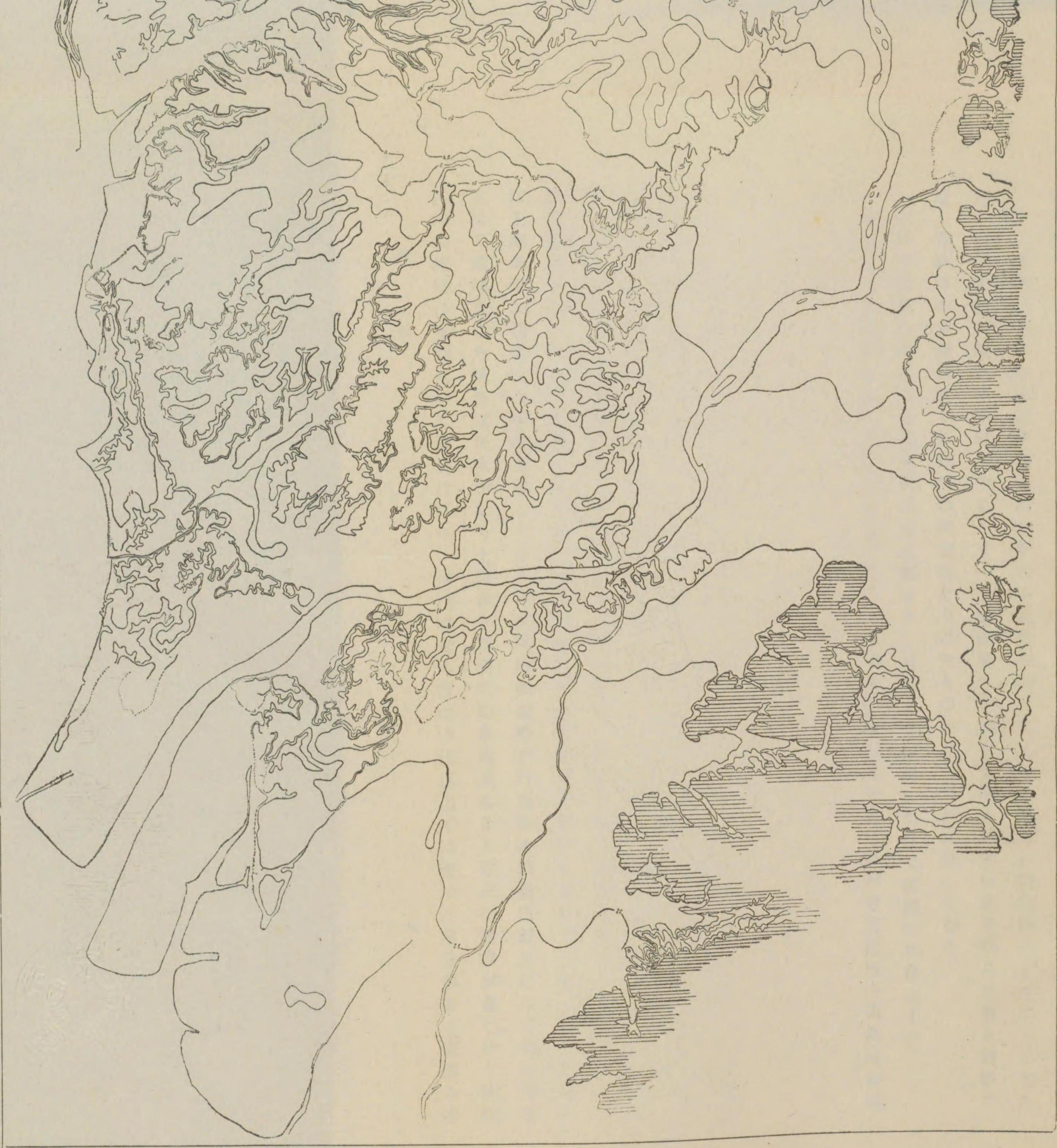
油ヶ淵により境された西南の高濱新川の臺地と矢作川南部の寺津達した運動を行つてゐる様である。即ち安城原が増傾斜的隆起をせ段丘面と同様な減傾斜的隆起を行つてゐる油ヶ淵半場川の流路は豊

矢作川の沖積地は幅約六料で帯状をなし豊川程の蛇行を示さず荒川となつてゐる。矢作川の流路の變遷は次の様に考へて見る事が出来る。現在の流路の内藤井より米津に至る間は人工的開鑿によるものであつて、自然的な流路は矢作古川であり、それ以前は現在廣田川の流路にあたるものではないかと考へられる。

従つて矢作古川の河口附近は三角洲の發達よく、新しい時代の干拓も行はれてゐる。人工的に移された矢作川の河口も新期の三角洲が構成されつゝある。この沖積地の右岸に廣く圓形に過去の三角洲が段丘となつて展開してゐる。最高部二十米で西南に緩傾斜してゐる、多數の必従谷と其の支谷の頭部侵蝕によつて刻まれ、縁邊部では開析が進んでゐるが臺地面はまだ廣く残つてゐる。

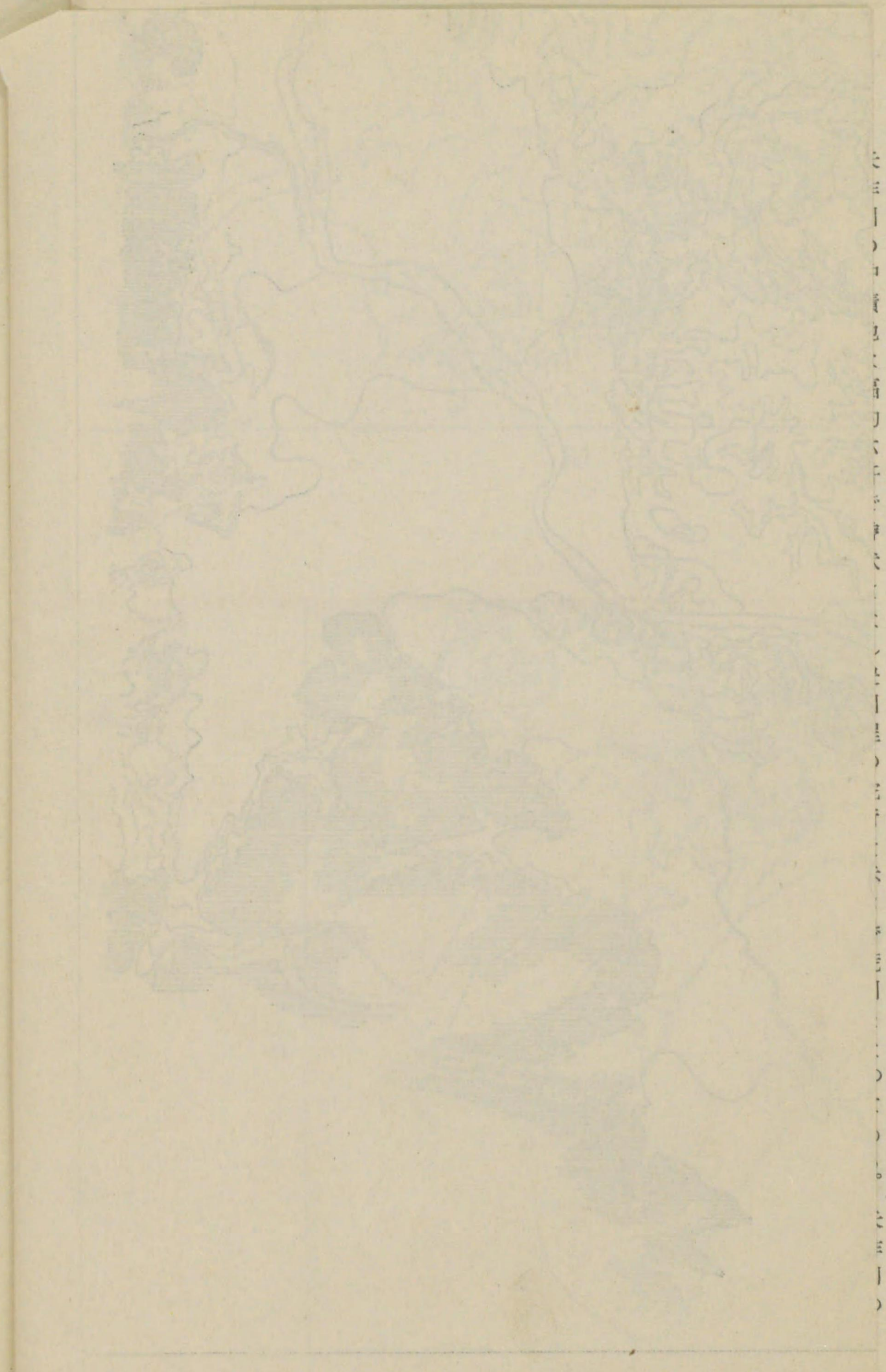
この臺地の南部が少し沈降した結果油ヶ淵を形成したのではないかと考へられ、この点は三方原南部の地形と類似する。

油ヶ淵により境された西南の高濱・新川の臺地と、矢作川南部の寺津臺地とは前記の安城原と相違した運動を行つてゐる様である。即ち安城原が増傾斜的隆起をせるに對し、他は豊川左岸上位段丘面と同様な減傾斜的隆起を行つてゐる油ヶ淵半場川の流路は豊橋の大池とよく似た遷移点



し西方の幡豆の地方は三河山地が沈水して岩石海岸を構成しよい對照をなしてゐる。

西三平野



にあたつてゐる。

この臺地の侵蝕型は幼年期にあたり知多渥美の兩半島につき、豊川の新时期段丘よりすゝんでゐる。この安城原の北に舉母を中心とせる古期礫層の臺地五十米―百米があり、知多半島と類似する。安城原の東面は曾て矢作川の側侵蝕をうけたものかカस्पが發達してゐる。

左岸の岡崎市街をのせる河岸段丘は幅せまく岩津より福岡にかけて斷續的に存立する。

幸田盆地は西面に若い斷層崖が發達してまだ扇狀地の形成を見ないが東面は複合扇狀地が發達してゐる。

尾張平野

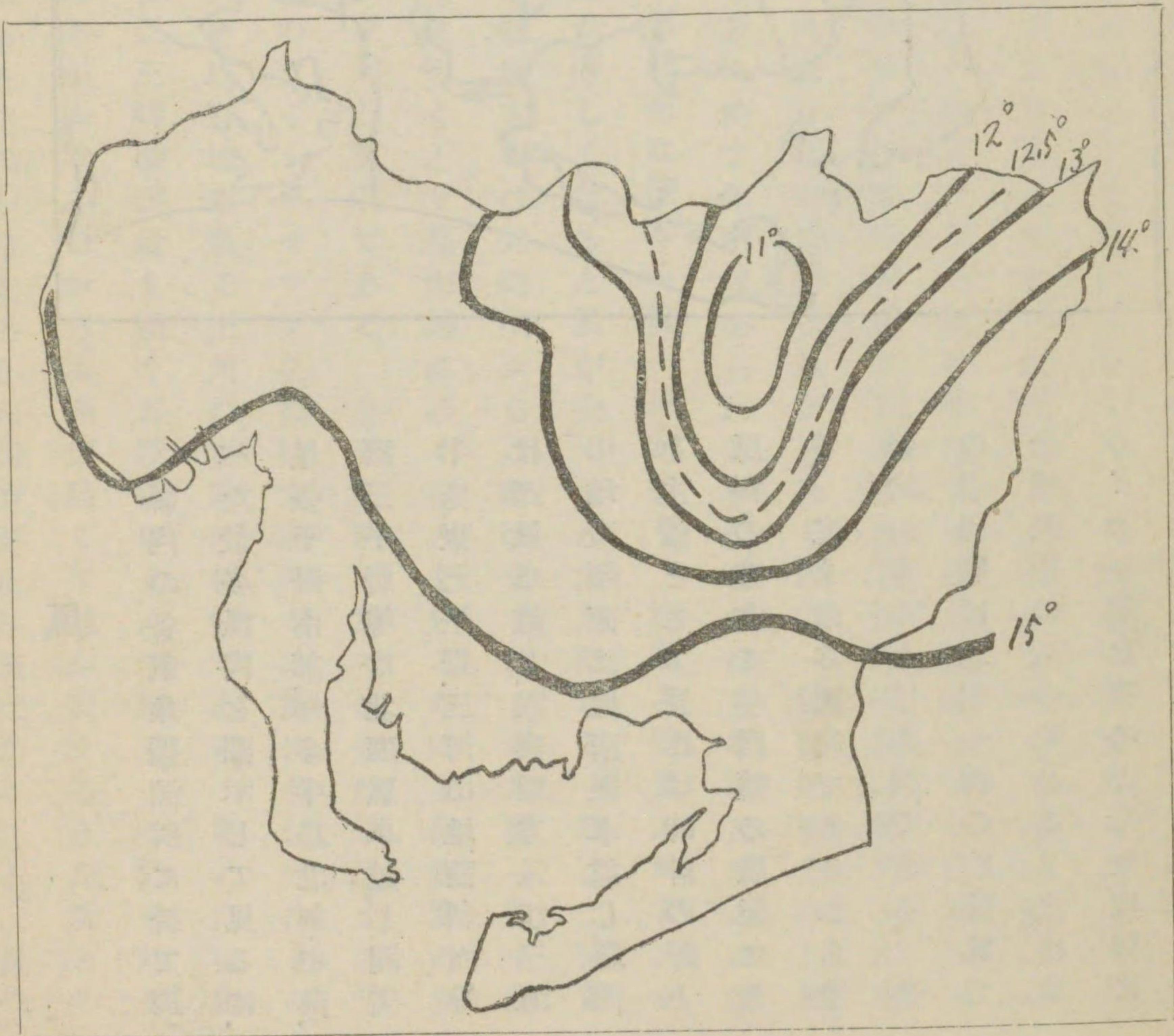
木曾川の沖積地は犬山を中心として西南方に扇狀地をなし、地形圖に於て一宮市附近まで其の形狀を追跡する事が出来る。又その面には放射狀に必從谷が發達して若い谷を作つてゐる。川の方角もこの扇狀地の走向に並行してゐるが、岐阜―一宮名古屋を結ぶ線以南では漸次その方向を變じ伊勢灣に注ぐ場合は西北―東南となる。標高に於ても岐阜名古屋線以南は極めて低く笠松で約十米、起町五米、清洲約六米、それ以南は二米以下の低地で大部分をしめてゐる。尙この地域は土地低平な爲流路の變遷が甚しく、又人工的河川の改修が行はれた結果、自然又は人工的に争奪されて裁頭された流路は、河水少なく土砂多き爲西北の卓越風により砂丘の發達が著しい。舊佐屋川の流路の東側に多く發見される。勿論木曾本流の中流以上では荒川の部分があり、東側の滑

走面には砂丘の發達が見られる。
 河岸段丘は東三、西三の兩平野に較べて平野面の割分に其の分布は少ない。尾張丘陵を侵蝕した木曾川が尾張平野に出で、北又は南に曲流して各務尾張の兩段丘を孤狀に侵蝕して伊木山、犬山の兩丘陵の間を西流し、再び各務及び尾張の段丘を側侵蝕してカस्पを作つてゐる。カस्पの頂点は丘陵にあたり、尾張の場合では小牧山がそれに當つてゐる。各務原段丘は西方に傾斜し、尾張段丘は南方に傾斜するが、尾張山地及尾張丘陵を侵蝕した各河川が扇狀地をのせてやゝ表面型が相違してゐる。名古屋市の主部はこの段丘上に發達してゐる。

氣候

我が愛知縣は東北部に三河山地、西南部に知多、南部に渥美の兩丘陵性の半島が相對し、その間に尾張平野、西三平野及び東三平野が發達し、伊勢、三河の兩灣が深く灣入して錯雜した地形を形成してゐるからその氣候も雜多である。平均氣温を中心として分けて見ると、段戸山一帯は一二五度以下で南溫帶に屬し、知多、渥美の兩半島と矢作下流平野とは一五度以上で南溫帶に屬し、其の中間に北溫帶が東西に延びる。次に風降水量、氣温等を中心として其特色を調べて見る。

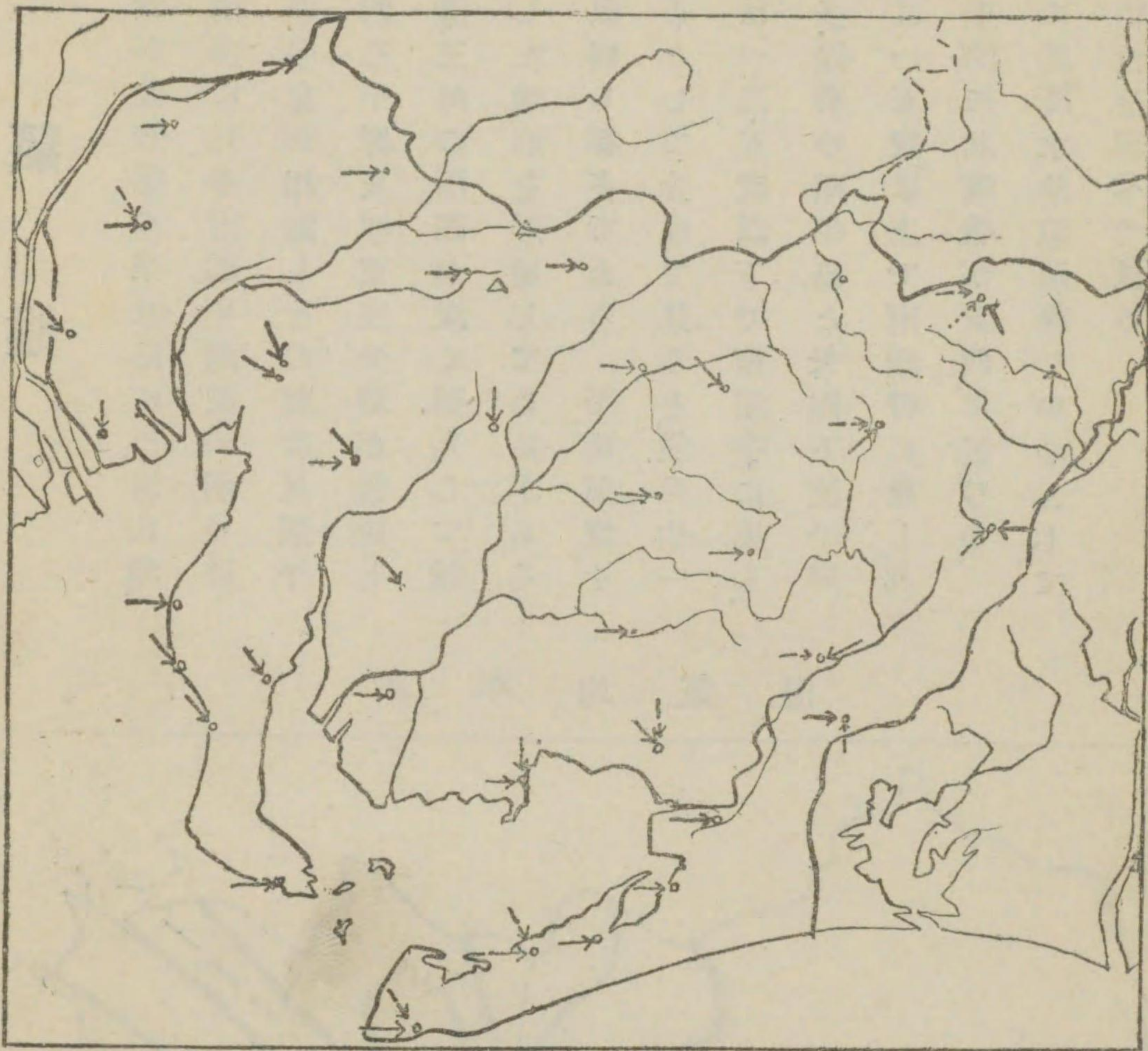
年平均氣温



風

縣内の各氣象觀測所に於て調べた最多風向を圖示して見るに、尾張平野南部、知多半島北部、中部、西三平野等は北西風卓越し、渥美半島、東三平野、三河山地西斜面等は西風卓越し、設樂地方及び三河山地東斜面は偏南風卓越し、縣内を主體として見れば時計の針と反對の方向に半回轉の状態にある。尤も最多風向であるから季節的のものとは亦別である。冬の卓越風は北西—西の季節風で全國共通のものである。之れはバイカル湖を中心とした地域に大高氣壓が発生し、北太平洋の

最多風向

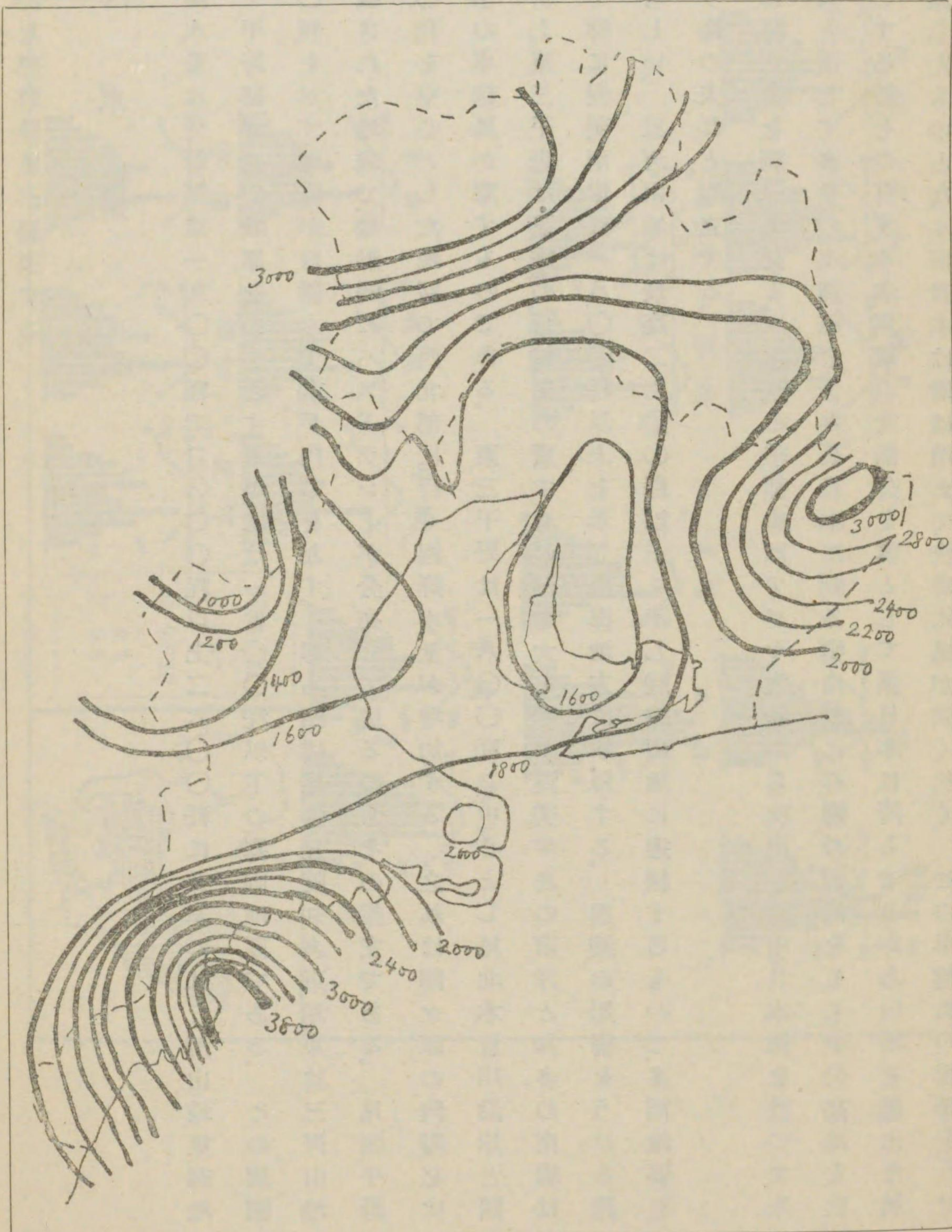


レウト列島附近の大低氣壓に氣流を吹き込む爲に生ずる順旋風系の季節風である。之に對し夏は南—南東の季節風が卓越する。之れは蒙古の沙漠を中心とする一大低氣壓が発生し北太平洋の中央、即ちハワイ群島より小笠原諸島に亘る大高氣壓から前記地方に氣流を吹き込む爲に生ずる風系である。風勢は冬季のものより著しく微弱で、且つ連日吹續する様なことが少い。従つて最多風向中、偏南風は偏西風の防がれた設樂地方と豊川溪谷とで他は冬季の季節風の風向を示す事によつて理解される。地方的なものでは海岸地方で海陸風が認められる。特に明瞭なのは西浦半島西岸地方である。海陸風は熱帯地方に於て年中認められるが、温帯では夏季に於てのみ認められる。夏に海岸地方では海から涼風來り、夜は陸から海へ風が吹く。海風と陸風とは方向が反對である。この過渡期に陸と海の溫度が等しくなると風が全く止んで風になる。朝夕二回起る。殊に蒸暑くて堪え難いのは夕風で豊橋地方では六時頃から八時頃まで續く。木葉一枚も動かなく戸外に出ても蒸暑い。海水浴地域に行くと夕暮海邊に多くの人を見るのは夕風現象のためである。瀬戸内では阿波の夕風、讃岐の夕風が有名である。冬季に吹く風では伊吹風とか本宮風とか呼ぶものがある。伊吹風は關ヶ原のウィンドヤツプを抜けた北西の寒風に名付けたもの。本宮風は三河山地を越えて東三平野に吹き込む地方風で上州の空風に相似である。朝の内は無風であるが、九時—十時頃から吹き出して二、三時頃が最も強く五時頃に止んで終る。これは地形に依るものである。東三平野は北西、東三方が山であるから、太陽が出て平地が暖まると山地との間に對流が出來て空風になる。日が没すると平地が冷えるから對流が止み風はなくなる。従つ

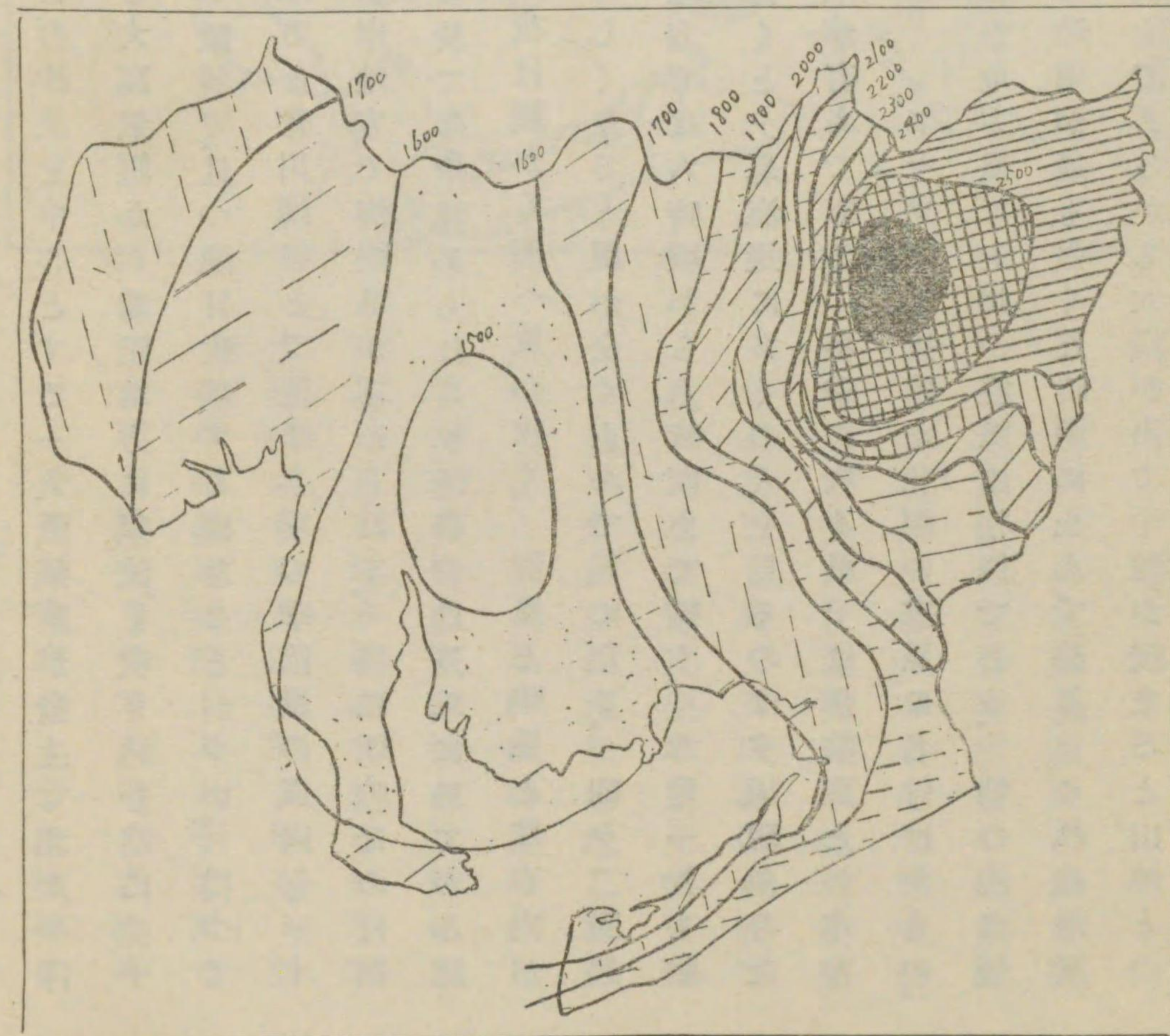
て天氣の好い時に吹く。冬の卓越風が地形の影響をうけて空風を強めてゐる。此の外卓越風の方向に開いた峽隘の存在する地方では冬に寒さが著るしい。北設の名倉は其一例である。

冬及び夏の季節風の過渡期に當る春と秋の風向について調べて見るに何れも定風がなく風と同様である。春は氣層の傾斜が緩慢である。夫故に地方的の高低氣壓の發生も多く、夫等の往來も頻繁であるから天候が安定しない。秋も春に類似するが冬の季節風が割合に早くから發達し、十月には純然たる冬の季節風下に置かれて天空清澄となり雲量少く所謂月見の季節となる。只九月と十月は颱風

伊勢灣周縁の降水量



年降水量圖



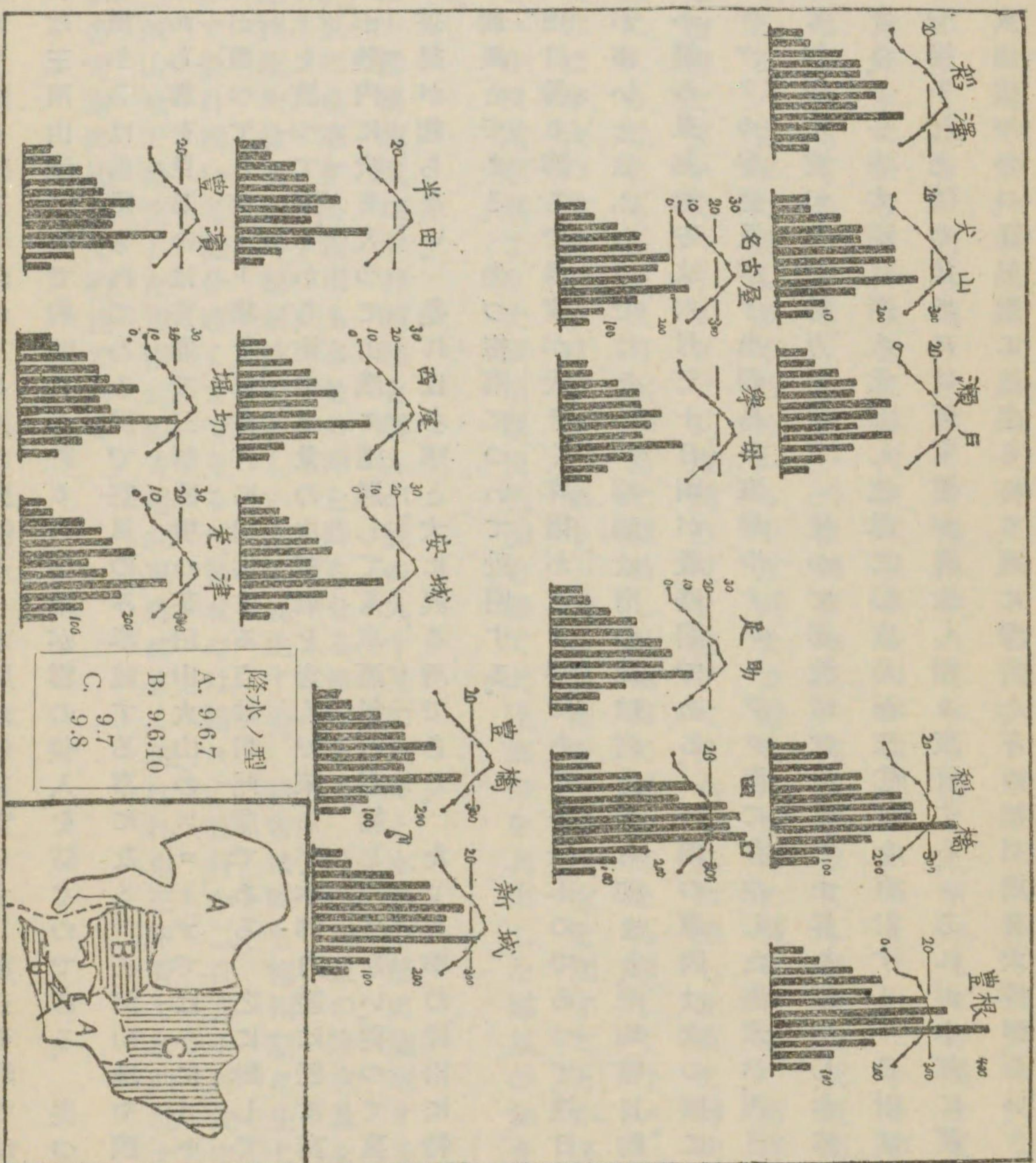
季節で猛烈な熱帯暴風が襲来する。

降水量

縣内の降水量は平野部は一九〇〇耗で、二〇〇〇耗以上二六〇〇耗に及ぶのは三河山地東部地域である。平野部でも安城原を中心とする地域は一五〇〇耗以下の寡雨地域である。この周圍に一六〇〇耗を示す地區が取圍んで瀬戸内型をなす。即ち西は尾張丘陵、知多東岸、東は三河山地に依つて境された地域で、地形的にパツドランドが分布して居るのもその證左である。尾張平野は一七〇〇耗を中心とした地區で、西北部に行く程降水量が増加する。之れは關ヶ原の狹隘を吹き込む冬季の卓越風が齎すものである。東三平野は一八〇〇耗を中心とし、尾北木曾川沿岸と類似する。併し、東三平野は夏季の卓越風の齎すものが増大を示す。渥美半島の南岸と知多の南端は降水量多く殊に渥美南岸は一八〇〇耗以上を示し、南海地方に類似する。黒潮の影響をうける譯で夏季に著しい。三河山地は最高二六〇〇耗以上を示し、駿遠山地に連続するもので多雨地區をなし、紀伊半島の夫れと對立する。

季節別に降水量を調べて見る。冬季の季節風はアジヤ大陸から吹出し、途中日本海を渡つて來るから、海面と接して多量の水蒸氣を含み、裏日本に到る頃は既に昇騰の傾向をもち、中央高地を吹き越えんとする時、その有する水蒸氣の大部分を雪として裏日本に降らせるから、山地を越えた風は頗る乾燥したものとなり、表日本は雪は消えて快晴寒風が強く吹く。この卓越風の影響をうけ

降水量分布圖



るのは濃尾平野と西三平野で、關ヶ原の狹隘から寒風が雪を齎らす。東三平野では殆ど雪を見ない。これは三河山地の陽で約四百米許りの山地が雪の侵入を防ぐのである。従つて東三平野は冬の卓越風からは保護されてゐる譯で、空風のみ卓越する事になる。三河山地や設楽盆地は山間部であるから雪を見るのは普通で、三信國境の茶臼山(火山)のスロープでは冬にスキー場となり、下津具の池が凍つてスケート場を都會人に提供する点は信州型である。之に對して夏季の季節風は太平洋上を渡つて來るから、途中多量の水蒸氣を含んで來るが、本邦内陸は既に高温に達してゐるから、風が陸内に吹き入つて山脈に遭遇しても水蒸氣の凝結を起さない。従つて裏日本に於て格別氣候の差異が起らない。是れは冬季と大に異なる所である。たゞ夏季の降雨に特徴付けるものは梅雨と颱風とである。先づ梅雨について説明する。

梅雨は連日曇り勝ちで湿度が大きく、降雨があり勝であると云ふのであつて、連日雨が降り續くとか、雨量が多いと云ふわけではない。梅雨は南の琉球列島から初まり、平均毎日約三十軒位の速さで北方へ進み、東海地方は六月三十日頃が最盛期である。梅雨の原因は次の様に考へらる。冬の間カムチャツカ半島及び千島列島の海岸やオホーツク海に存在した海水が、四月頃になると漸次融解して親潮寒流がその勢力を増す。従つて其流域は氣壓の上昇を來たし、本邦東海岸に高氣壓が蟠居する。一方太陽は漸次北上し北緯二〇度乃至三〇度を直射する。日射は強大であるから、南支那や揚子江上流の盆地には低氣壓が発生し續々東行する。これが本邦に渡來し、西部に雨を齎すが、東海岸沖合の高氣壓に遮ぎられて、茲に滞留し、その結果連日天候が悪い。七月中旬以後

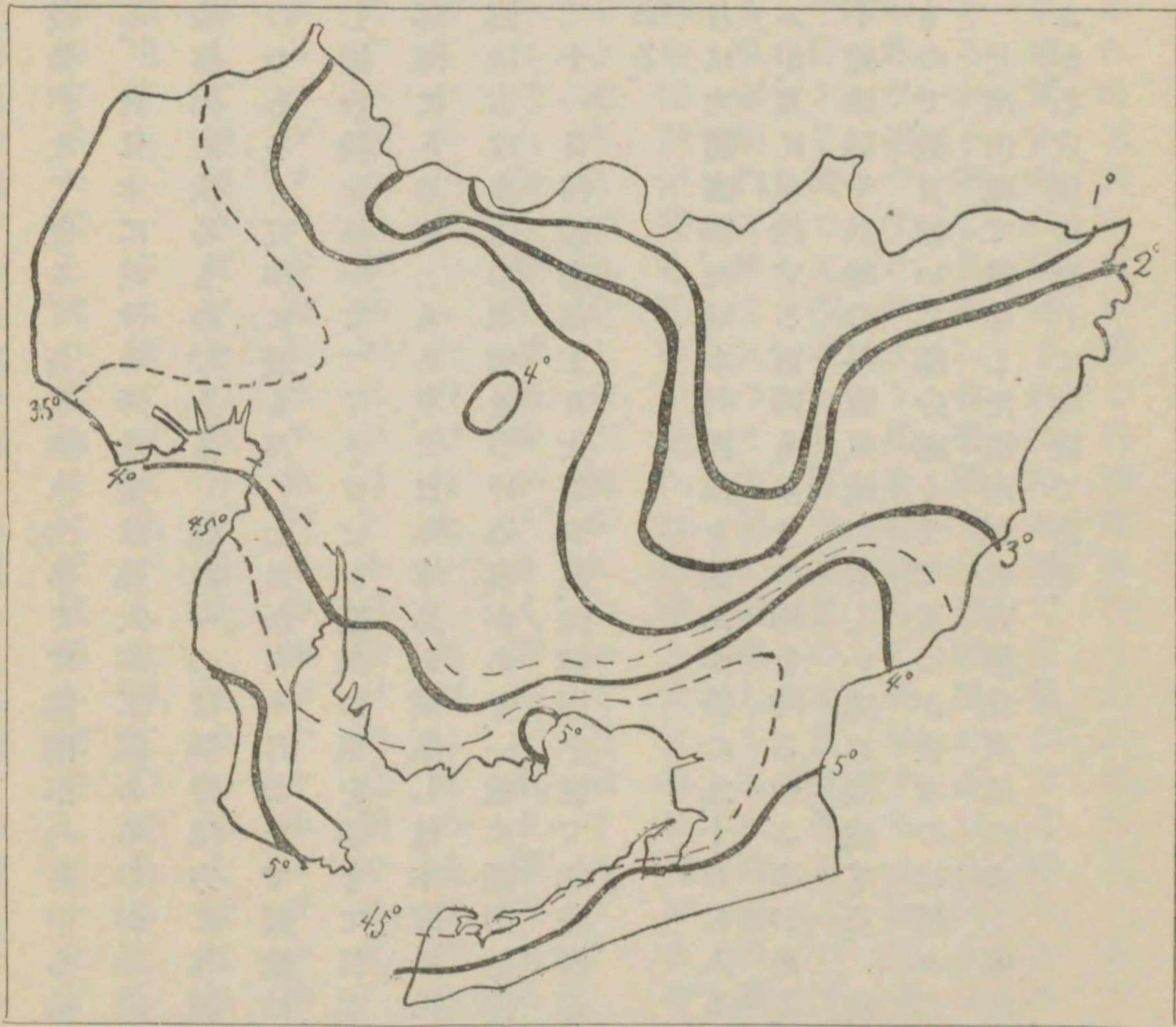
は融氷の水も漸く切れ、高氣壓も太陽と共に南下し西から來る低氣壓も遮斷されなくなるので梅雨の現象がなくなる。若し融氷が多くて梅雨が八月中も續くと、昭和九年の様な東北凶作が惹起される。表日本に於ける降水量は極大が二箇あるのが通例で六月と九月であるが、六月に多いのは勿論梅雨に依るものである。他の一つは熱帯地方に其源を發する顯著な低氣壓即ち颱風に依るものである。夏季に最も多く七月から十月頃まで頻繁に本邦に襲來する。南洋群島の洋上に發生し、拋物線を描いてフィリッピン、臺灣の東を過ぎて日本本島に達し、北東に轉向するが、時には南支那海に入ることあり、又日本本島を横斷し日本海に出ることも珍しくない。此の爲臺灣、九州南海地方は多大の風害をうける事があり、一般に豪雨を伴ひ洪水を起すことが多い。昭和九年九月二十一日四國南部より大阪、京都、琵琶湖を経て北陸海岸を北上した颱風の如き猛威を振つたのもある。

七、八月は大體臺灣、琉球、本邦西部を襲ふが、後の九、十月に入ると本州中部に襲來する。颱風は豪雨を伴ふが、夏に卓越する雷雨も多量の雨を降らせる事がある。これが夏の降水量を助長する。雷雨は不連続線や盆地の昇騰氣流の著しい處に發生する。前者は即ち梅雨期に生じた旋風に附隨したもので、數日續いて随分遠くまで互るが、後者のは精々二百軒か二百五十軒位で遠くへは行かない。三河山地で發生した雷雨が名古屋北東郊に多く現はれ、東三平野では西北(ナラヒ)から雷雨が襲ふが、名古屋に比して軽度である。

氣 溫

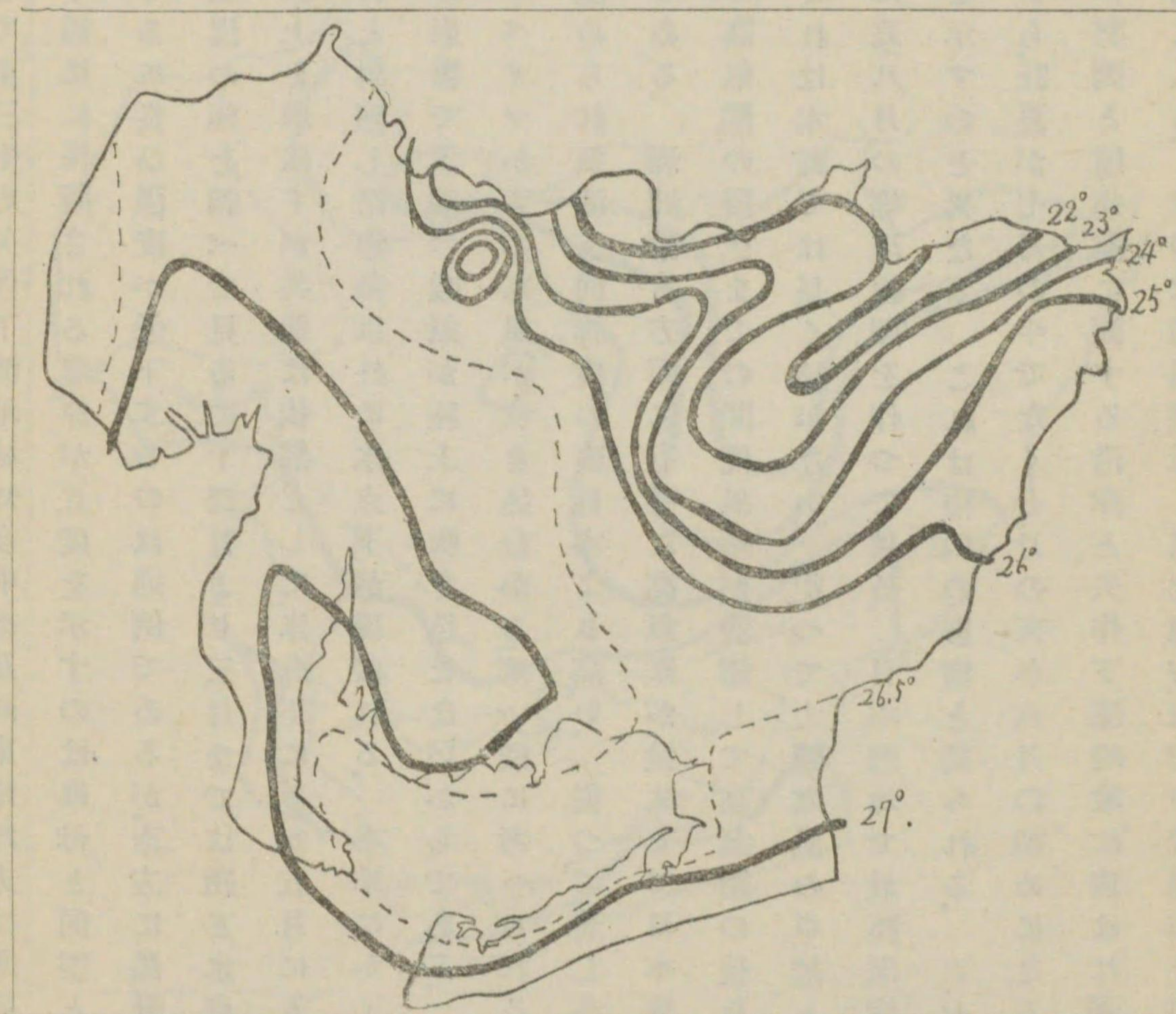
冬(一月)の等温線圖を見るに平均五度の線は渥美の南岸と知多南西端を走り縣内で冬に最も暖い地方である。等温線は緯度の高くなるに従つて低下するのは通則であるが、三河山地は二度以下氷点下に及ぶ寒冷地方で、中央高地の南端を示し、尾張丘陵の北部と設楽地方は二度—三度の間に存在し、尾張平野と西三平野は三度—四度の間に有るが、尾張平野の北西部が三—五度以上を示して尾張丘陵地より稍温度が高い。たゞ尾張丘陵の風下なる谷盆地の舉母は四度を示してゐる。之

一月の等温線圖



に對して東三平野、矢作下流地域、知多中部及同東岸地方は四度以上で高温である。此地域にも冬季の卓越風に保護される形原が五度を示すのは舉母と同型と云へる。海岸地域が温暖で山地に接近するに従ひ温度が低下するのは通例であるが、南方に黒潮が流るゝ割合に冬の温度が低い。最低氣温の極を調べて見るに十二月より三月までは殆ど氷点下を示し、四月に入ると沿海地方は零度以上を現はすが、其他は依然として氷点下に入りて零度以上となる。十一月が丁度四月と對應し沿海部以外に氷点下が現はれる。冬季にかゝる低温を示す事があるのは全く季節風の影響で黒潮の暖氣が陸上に吹き込まないからである。この点で日本海沿岸は恵まれてゐる。シベリヤからの寒風が吹き込むから寒い様に考へられるが、對島暖流を越へて渡來する爲幾分か溫暖められ氣温も同緯度の表日本より高い。従つて若し冬季南東風が表日本に訪れゝば暖かい譯である。滿洲、蒙古方面に有勢な高氣壓が発生して日本海から本邦に張出して太平洋に去ると、次の高氣壓の發生までの間、低氣壓が発達して高氣壓の後を追ふ、この時は偏南風が卓越して暖い。これは本邦では長く續かない。従つて大體寒風の卓越となるのである。次に夏(八月)の等温線圖を作つて見る。日本内地で最高温度を示すのは八月で、諸外國の場合に七月を示すのと異なる。これは梅雨の影響と見られる。六、七月に於て氣温の上昇を著しく鈍らせるから、旺夏が七月の半でなく七月の末か八月の初めになると考へられる。先づ二七度の等温線は伊勢灣と遠州灘に面する沿岸と矢作下流地域に現はれ、瀬戸内型をなす。尾南地方、名古屋がこの内に入る。豊橋は稍温度低く、尾北地方、矢作中流地方、三河灣沿岸部と共に二六、五度以上二七

八月の等温線圖



平均	十二月	十一月	十月	九月	八月	七月	六月	五月	四月	三月	二月	一月	名古屋	濱松
七五・四	七六	七六	七六	八二	七六	七九	七七	七三	七三	六九	七二	七五	七五	六五
七四・五	七六	七三	七七	八三	八三	八五	八三	七七	七四	六六	七三	六五	七五	六五

度以下に存在する。尾北地方が緯度の割合に高温を示してゐる。冬の場合と比較して見るに東三平野は平均冬四・五度、尾張平野は約三・五度、夏は前者も後者も略同様で後者の方が変化が大きい。三河山地は高度を増すに従ひ温度が低下してゐる。たゞ瀬戸は谷盆地たる爲高温二・八度以上を示し、其他猿投山を取圍む谷盆地が高温で等温線を北部に壓迫してゐる。夏季は高温な上に水蒸氣を多量に含んだ南東風がき吹こんで湿度を高くし蒸暑くする。

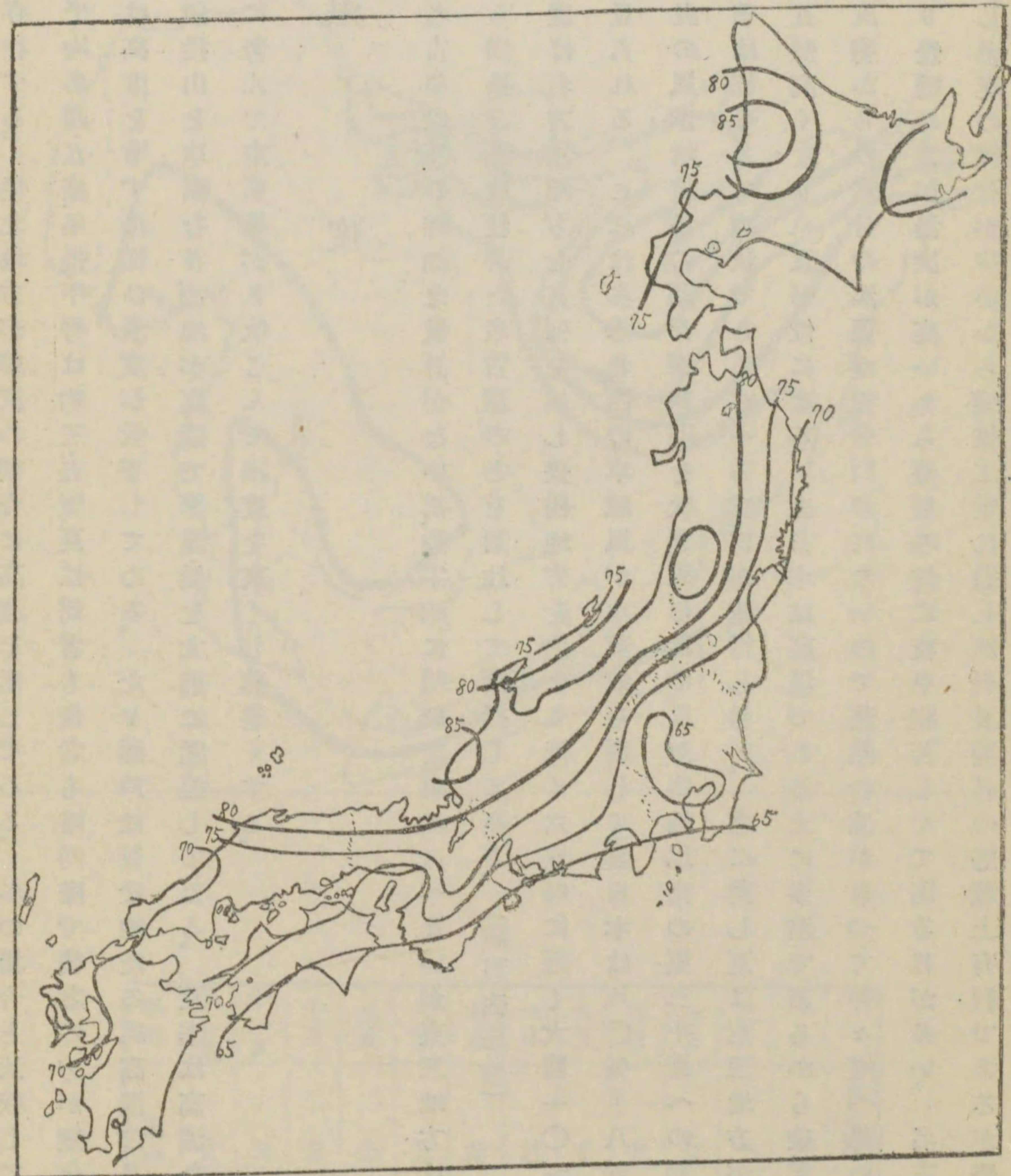
湿度

湿度は名古屋以外の詳細な統計がない爲、數字的に明確な事は云へないが東三地方は濱松と類似するから濱松の湿度統計と名古屋のとを對比して概括してみる。(前頁表参照)
 冬の湿度は名古屋地方七・五%を示し、豊橋地方を之より低く六・五%に近く、大體一〇%の差があるものと見られる。これは冬季北西の卓越風が水蒸氣を齎して、裏日本は八〇%―八五%を示し、湿度高く、此の風が地峽部の關ヶ原狹隘を吹き來る爲で、三河山地以南の東三平野への影響は少い。従つて冬季は乾燥して爽快であるが、一方感冒が流行し易い。之に對し夏は東三地方が名古屋に比して約五%高くなり八五%位になる。表日本は高温である上に多湿であるから、凌ぎ難い。潤であるとして皮膚からの水分の蒸發が充分行はれないので蒸熱の感があつて、仲々堪へ難い。名古屋は潤ち、名古屋より豊橋の方が湿度が高いから、盛夏の候に夜中寝苦しくて困る日が多い。名古屋地方は一年を通じ湿度の變化が少いから、纖維工業に適し、原料及製品の貯藏上有利であるが、豊橋は冬と



等 濕 度 線 圖

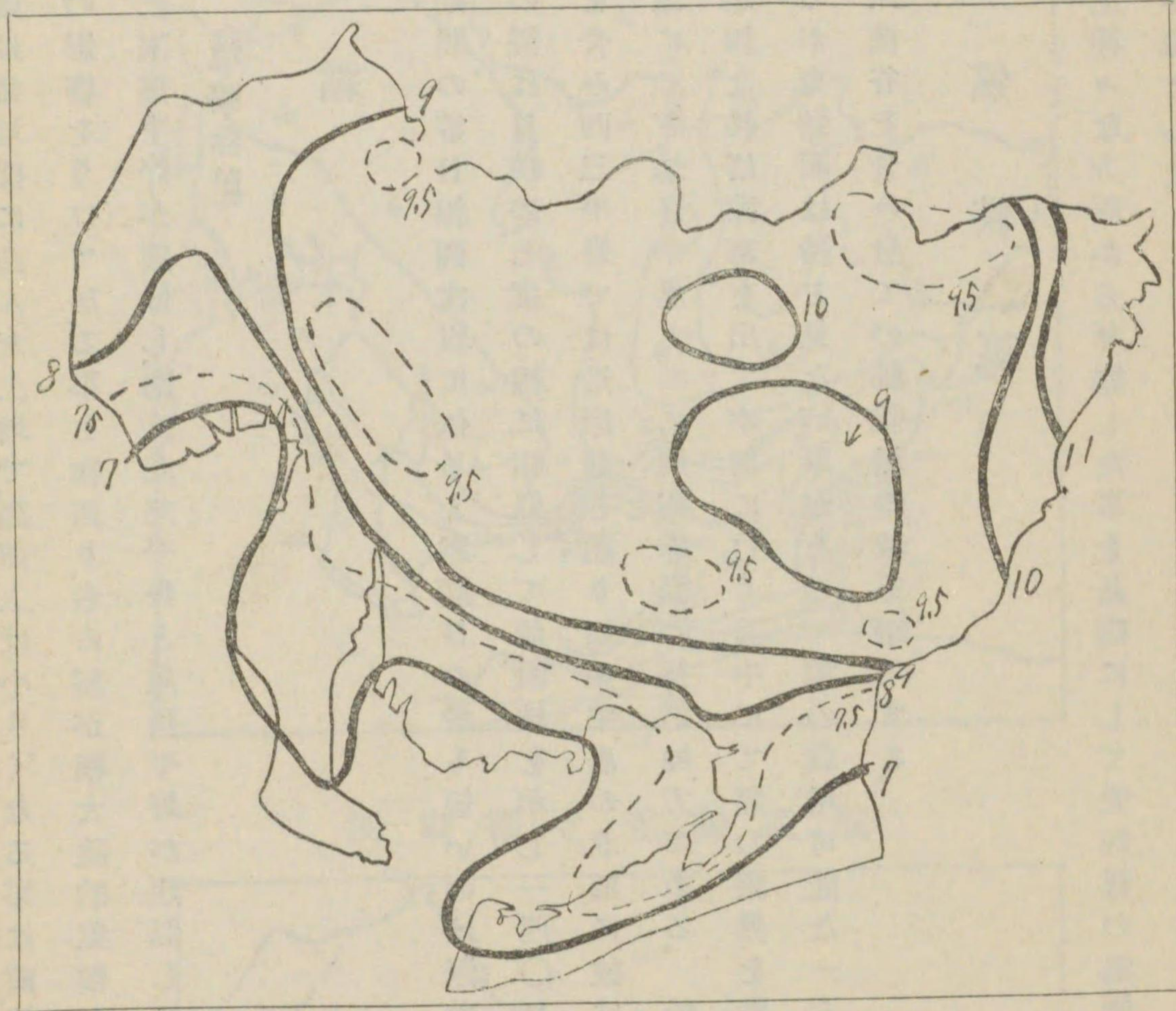
(一 月 平 均)



氣 候

三六

日 較 差



氣 候

夏の差が稍大で不利な條件に置かれる。(等濕度線圖參照)

日 較 差

平均最高氣溫と平均最低氣溫の差即ち日較差を求めて圖に描いて見ると、七度の線が海岸部を走り、八度の線が沿岸部を含み、尾北部は八度と九度の間に入り、豊川溪谷、西三平野、北部尾張丘陵、三河山地は九度を越える。たゞ九度線の沿線に谷盆地たる富岡、豊富坂下と並んで名古屋が九・五度圏に入つて大陸度を高め、三河山地中には反對に九度を下る處があるが、大體盆地は高度で北東部に向つて高くなる。日較差の大

三七

きい處は盆地様に凹んだ土地で、高原上は小さくなる事は前述の通りである。海岸附近に低い事は海の影響をうけて居る事を物語り、名古屋が稍大陸的氣候を示す事も認められる。亦東三平野と西三南部平野が類似し、西三北部平野と尾張平野が類似して後者が稍大陸度を示す事も認められる。(地圖参照)

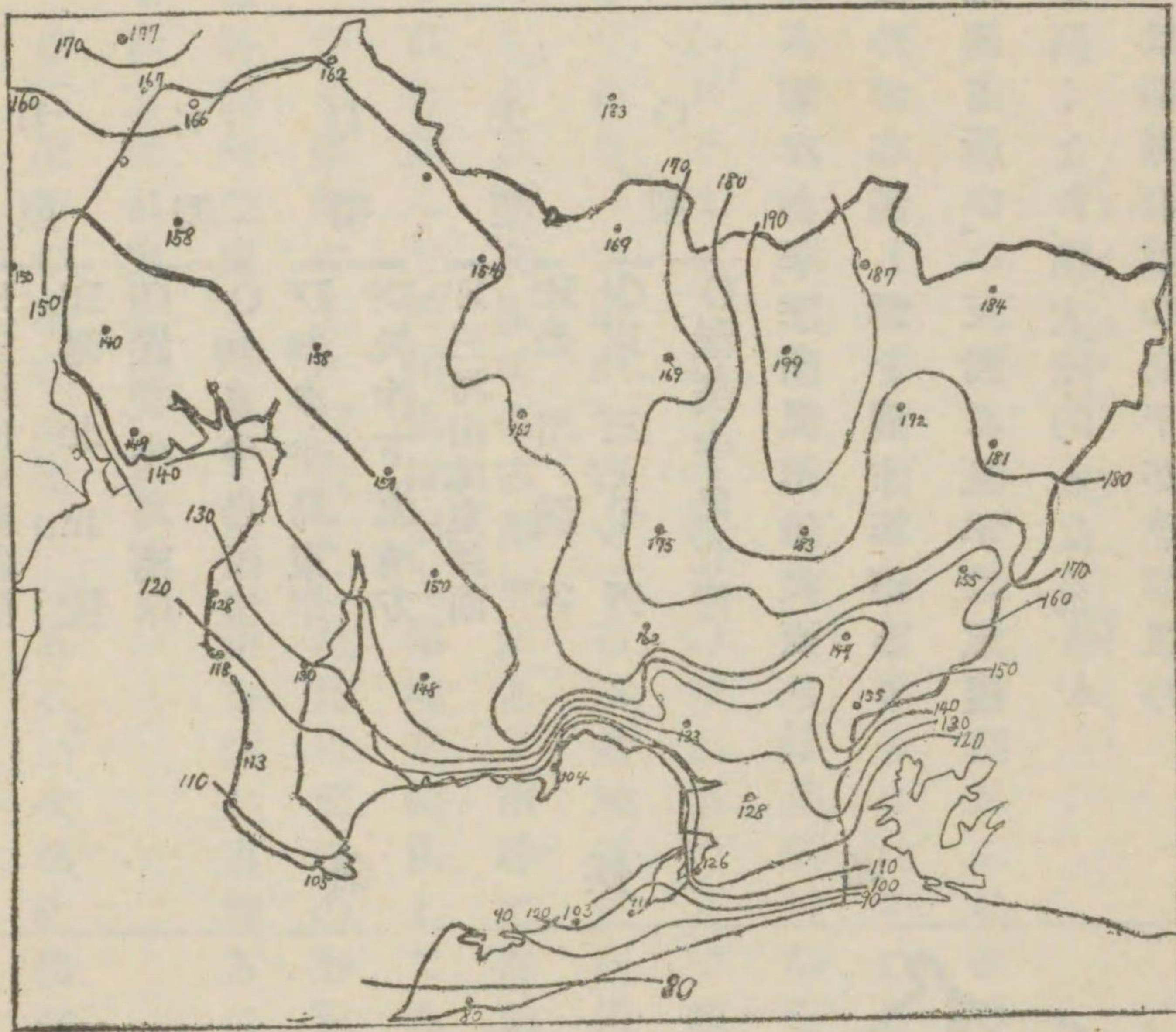
霜

霜期間の等日線圖次頁に依ると霜期日の最も短いのは渥美半島で尖端部は八〇日を示す。一日の線は日較差七度の線に相似して最暖地を示し一四〇日線平均氣温十五度線に相似は東三平野を含み西三平野では沿岸部を通り知多半島の北部に抜ける。これに依つても東三平野は渥美半島につき、知多半島と共に無霜季節の長い地方である。愛電で三河山地を横斷すれば山中邊東海道線なれば蒲郡を出て幸田に行く途中にて霜の限界を發見する。山地の西斜面で夥しい霜を見るが東斜面は殆ど見ない事がある。棉の栽培可能な一六〇日線は尾張平野、尾張丘陵、西三平野、豊川溪谷を含み會ての棉栽培地域を暗示する。

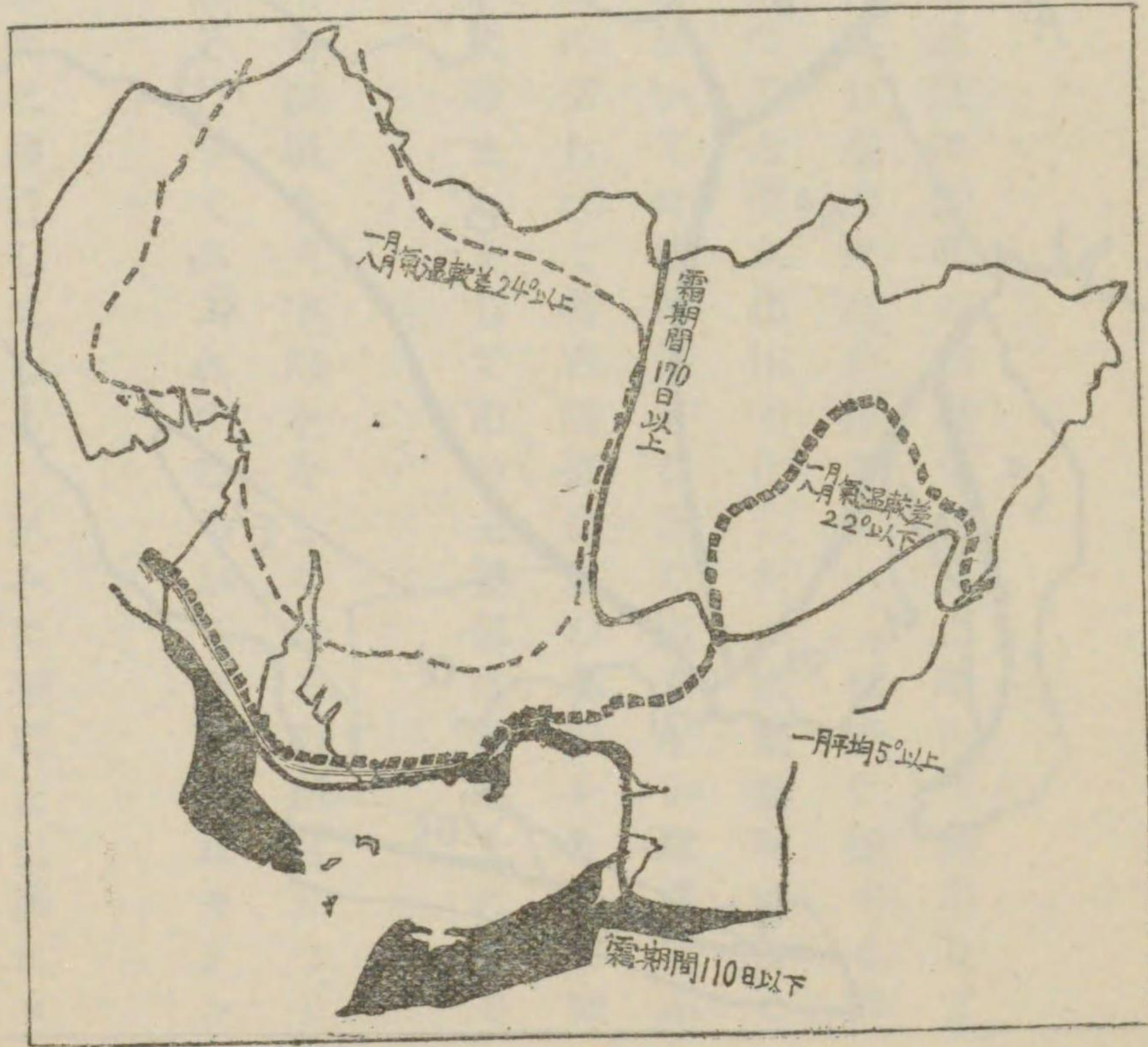
氣候區

以上種々な方面から考察した事を基礎にして愛知縣の氣候を區分する。三河山地を以て氣候の境界線とした。

霜期(初霜終霜)間等日線圖



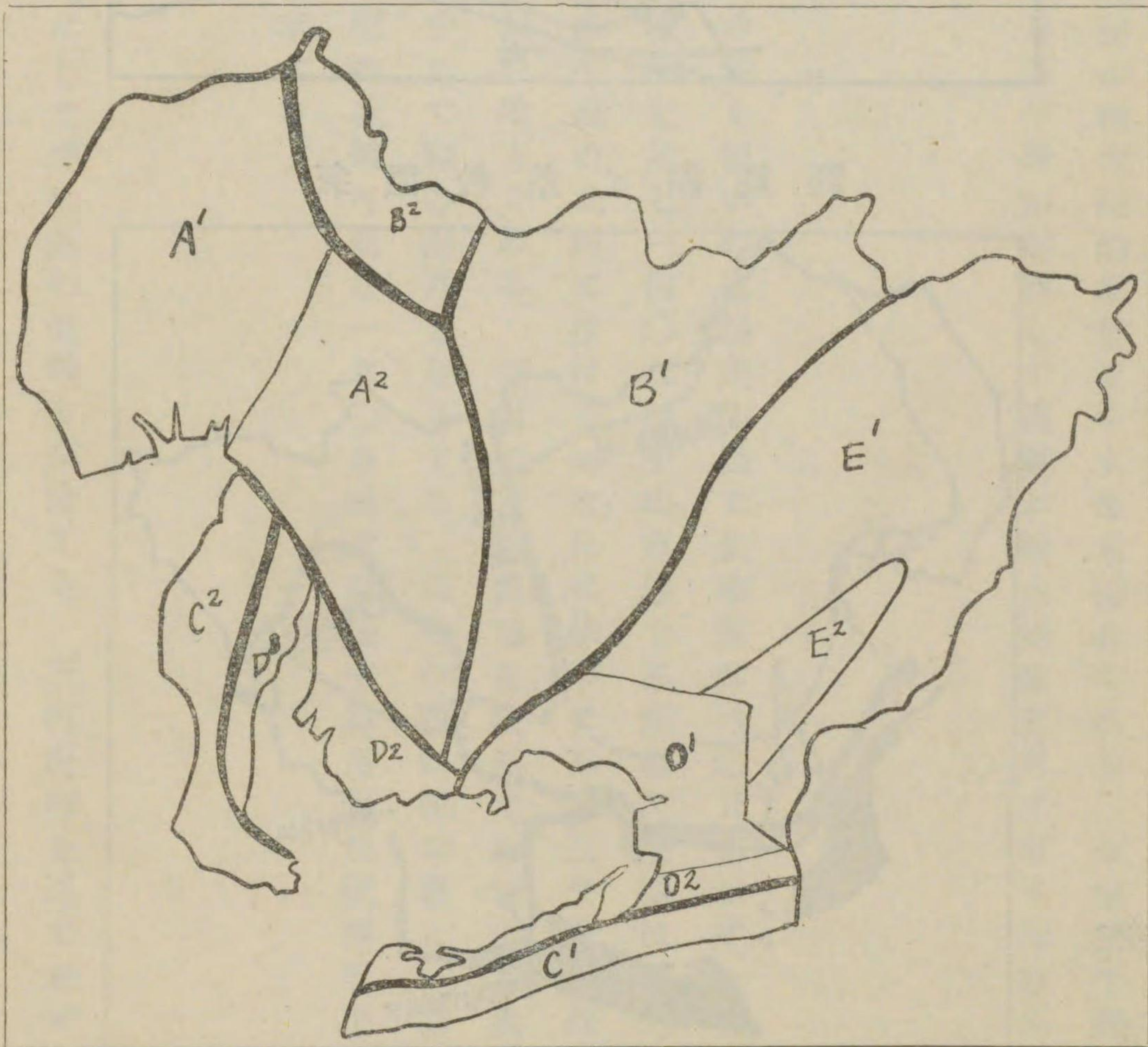
氣候差較と霜期間



A 型	A ¹ 尾張平野
	A ² 西三平野
B 型	B ¹ 三河山地西斜面
	B ² 尾北丘陵
C 型	C ¹ 渥美半島南岸
	C ² 知多半島西岸
D 型	D ¹ 知多半島東岸
	D ² 矢作下流地方
E 型	E ¹ 三河山地東斜面
	E ² 豊川溪谷
O 型	O ¹ 東三平野
	O ² 渥美半島北岸

A型は冬季季節風が伊吹風となつて卓越し雪を齎す事があり気温も低い。反對に夏季は気温が高くなり、稍大陸的となる。A¹では稻澤附近の切干が季節風の卓越期を利用し、七五%—八〇%の湿度を有する事が尾北、尾西の

氣候區



纖維工業地帯を發達せしめる。A²は湿度の点はA¹に劣り、冬季卓越風の吹く時、絲の切れる事がある。

B型は西風が卓越し冬季は寒氣強い。夏季は谷盆地の気温が高くなるが高原地は冷涼である。花崗岩や第三紀層の分布する地方だからバッドランドに成易く、猛烈な西南風が卓越すると崖崩れを生じ洪水を生ずる事がある。西風の卓越する場所だから植林は進まず雜木地帯となつてゐる。

C型 海洋の影響をうけて縣内で最も氣候の溫暖な地域である。O¹は黒潮に洗はるゝ、暖國氣分を示して居て、椿の花咲き促成栽培の行はるゝ地方である。殊に背後に丘陵を有する地方は年中雪を見ず、冬の温度も水点下を示さない。O²は冬は卓越風に曝さるゝ爲砂丘が發達し港は發達しないが、常滑の陶器窯の乾燥を助ける。夏は南風となる爲休養地帯として利用される。

D型 知多灣沿岸地域で冬季の卓越風が知多丘陵に遮ぎられて溫暖、夏は南風を正面からうけて涼しく四季型である。

O型 D型と類似の地域である。沿岸では製鹽業が行はれ、古くはD型、O型の氣候區内のボケツト、ビーチに鹽田が分布して居たが今は一部分に之れを見る。又蜜柑や茶の栽培が行はれる点は遠州型の延長と見る事が出来る。O¹は周圍が山地である爲空風が卓越し夏季には高原上に入道雲が現はれる。當地方ではこれを本宮太郎と呼び、伊勢路方面のを伊勢次郎と云ふ。又盆状の地形である事から低氣壓の襲來する時は風向が明瞭でナラヒ(東北、又はフジオロシ)から吹き初め

ると暴風になると云ふが、旋風の場合で云ふのと同じである。風はナラヒからコチ(東風)、イナサ(東南風、又はタツミ)、マゼ(南風)、ヤマゼ(西南風)となりて天氣になる。O²の尖端中山附近では東南の卓越風を利用して風車に依り地下水を汲み上げる。又西端の砂丘は冬の卓越風の形成せるものである。

E型 豊川の谷が東南に開き三河山地の分水嶺が西部にある爲冬の卓越風から保護され、夏の卓越風が吹き込むから山間溪谷は杉の美林地帯となる。たゞ量が大い時は洪水を生じ豊川低地は浸水する。E²は一宮以北の谷盆地に屬し、夏冬の變化は下のO¹より稍大である。E¹は信州型に近く各戸に爐を有し石をのせた家根の家が卓越するのも、氣候上瓦の使用の不利な地域で、縣内で最も冷涼な地域である。津具盆地は夏の避暑地として理想的に近い。

處誌

大名古屋

名古屋市の大觀

名古屋市の大觀は先づ圖上觀察から始める。八事丘陵は隆起の結果、矢田川、山崎川、天白川などの侵蝕が進んで平坦面は餘程縮少され、その谷頭を利用した用水池が頗る多い。丘陵に接する御器所臺地は區劃整理が進行した結果、農村から足を洗つて大半文化住宅化した。區劃整理はここばかりではなく郊外の約六〇%が進行して我が國に於いては他に見ることの出来ない結果を示してゐる。犬山から續いてゐる臺地は庄内川、矢田川に切られて名古屋臺は象の鼻形をなして突出し、その西北崖に名古屋城があり、南端に熱田神宮が鎮座ましまして市の主要部は臺地上にある。これを圍んで沖積低地が工場地を提供してゐる。

かく臺地の上に建設された爲に都市の形態も堀川も、鐵道もY字形をなしてゐるのが目立つ。近時鶴舞公園を中心として新市街が東南方になだれを打つてあふれてゐるから、東郊にはモダンな新市街が出來つゝある。

名古屋市の都心は榮町であるが次第に鶴舞公園方面に移行してゐる。試みに榮町と公園にコンパスを立てて圓を描いて見るとその中間が中心になる。

都市の觀察は先づ高所から瞰下するのが原則である。名古屋は平原都市であるから京都や神

戸のやうに眺望のきく山がなく、歐洲の或市長が山から自分の市を見下して、我が市を如何に生長せしめんかと、思を凝らしたといふ様な事が出来ないのは非常に遺憾に思ふが、名古屋城や松坂屋があるから、大觀する事が出来る。松坂屋よりの大觀

1. 北には松に圍まれた金鯨城廓を中心として市街は殆ど平家か二階建の低平家屋で、如何にも水平的に發達する大膨張都市の感がある。

2. 廣小路通は高層建築が並立して幹線道路と直觀され、熱田大會根方面は煙突が群立して工場地帯の所在を示し、大きな屋根を持つ寺院は西と東北との二箇所密集して江戸時代の寺町、場末帯が想像される。

3. 一般に樹木に富み空氣が清澄で明るい感じの如何にも健康地と看取される。

4. 目を轉じて四周の遠山を眺めると雪の消えやらぬ頃の眺は一入よく西は伊吹鈴鹿の連山、北はるかに白山、乗鞍岳、御岳、惠那山、東は遠く丸味を帯び赤肌を出した花崗岩地帯、近くは愛知郡から知多半島に續く丘陵などが指摘されて其の姿の種々相をつくづく眺めると興味深いものがある。

次は特色ある地域を選んで實地踏査をする。

- (一) 黒川染色地帯→新道製菓地帯→堀川材木業地帯→倉庫地帯→材木業地帯→魚市場→造船地帯→築港食料品店地帯
- (二) 東區製陶業地帯→名古屋城廓内兵營官衙街→問屋町(御幸本町通)→廣小路→大須→新堀川工場地帯→御器所文化地帯

の如きコースをとれば名古屋市に於ける地域性が明になり同時に市の輪廓をつかむ事が出来やう。

名古屋市の發達

(一) 遷府前

城で持つ尾張名古屋は今川氏豊の築城に創り、後織田氏の居城となつたが古渡城(今の東本願寺別院の地)が出来てからは廢墟となり名古屋臺と稱して葦芦の繁る所となつた。慶長十二年義直清洲に封ぜられ、その臣山下氏勝の建議家康の決裁によつて名古屋に遷府した。

遷府の理由は

1. 清洲は五條川に添ひ大水の際木曾川の水逆流して屢、汎濫の憂がある。

2. 井水の便に乏しい。

3. 水攻にせられる憂がある。

右は表面の理由であるが尙重要な理由がある。蓋し

4. 清洲は大兵を駐屯せしむるに適せぬ。

5. 且つ關ヶ原役後徳川幕府の威令はよく諸侯を壓する事が出来たけれ共豊臣秀頼尙大阪の金城鐵壁により秀吉恩顧の臣亦少くない。他日有事の時に豊臣の軍勢を東海の要衝に扼止するには、東海東山兩道の集る尾張平野より外にない。初め家康は關ヶ原役以來千賀氏を船奉

行として師崎に置いた。

蓋し、海陸の聯絡を保ち、警備の完成を期するには名古屋築城にしくはないと考へた様である。而して家康は南は古渡城、東は矢田川、西は枇杷島を劃して總廓とする計畫であつたが、幾何もなく豊臣氏滅亡し次で家康卒して終に成らず、城は未完成のまま今日に及んだものである。

(二) 市井の成立

清洲より名古屋に移轉するのを當時は名古屋越と呼んだが移轉後は清洲越と呼んだ。其の早きは慶長十五年九月築城落成と殆同時に移つた様である。以前は四五ヶ町に過ぎない寒村が同十七年檢地町割が出来初めて碁盤割の市區が出来大發展の礎が据ゑられた。即ち碁盤式唐式ともいふべき都市計畫が實現せられて今日の名古屋の主要部を形成した。

(三) 熱田

熱田は神宮町として創立古く、國道東海道の宿場として又桑名への渡場として早く發達し、元祿以前の熱田舊記によれば既に人口一萬三千九百九十九人あり。

(四) 宗春の積極政策

藩主七世宗春は名古屋に取りては一時期を劃した人である。政治上には開放主義をとり、積極政策を實行した。江戸の屋敷に遊藝音曲が行はれ、諸士に芝居見物の自由を與へ、曾て見なかつた遊女町を起した。歌謡流行して一時商業地として京阪と相拮抗し得るに到つた。宗春は奢侈淫逸の弊風の助長者たると共に膨脹的名古屋の恩主である。

(五) 人口増加の趨勢

承應三年	五四、九三二人
萬治二年	五五、一二七
寛文四年	五四、九九八
同九年	五五、八四九
延寶二年	五六、六三六
元祿二年	五七、八四三
同七年	五五、六六五
享保六年	四二、一三五
同一年	五〇、三七五
天明一年	七五、七七九
天保一年	七三、九六二
慶應元年	七一、六九八
明治四年	

(萬治三年大火アリ人口減少ス)

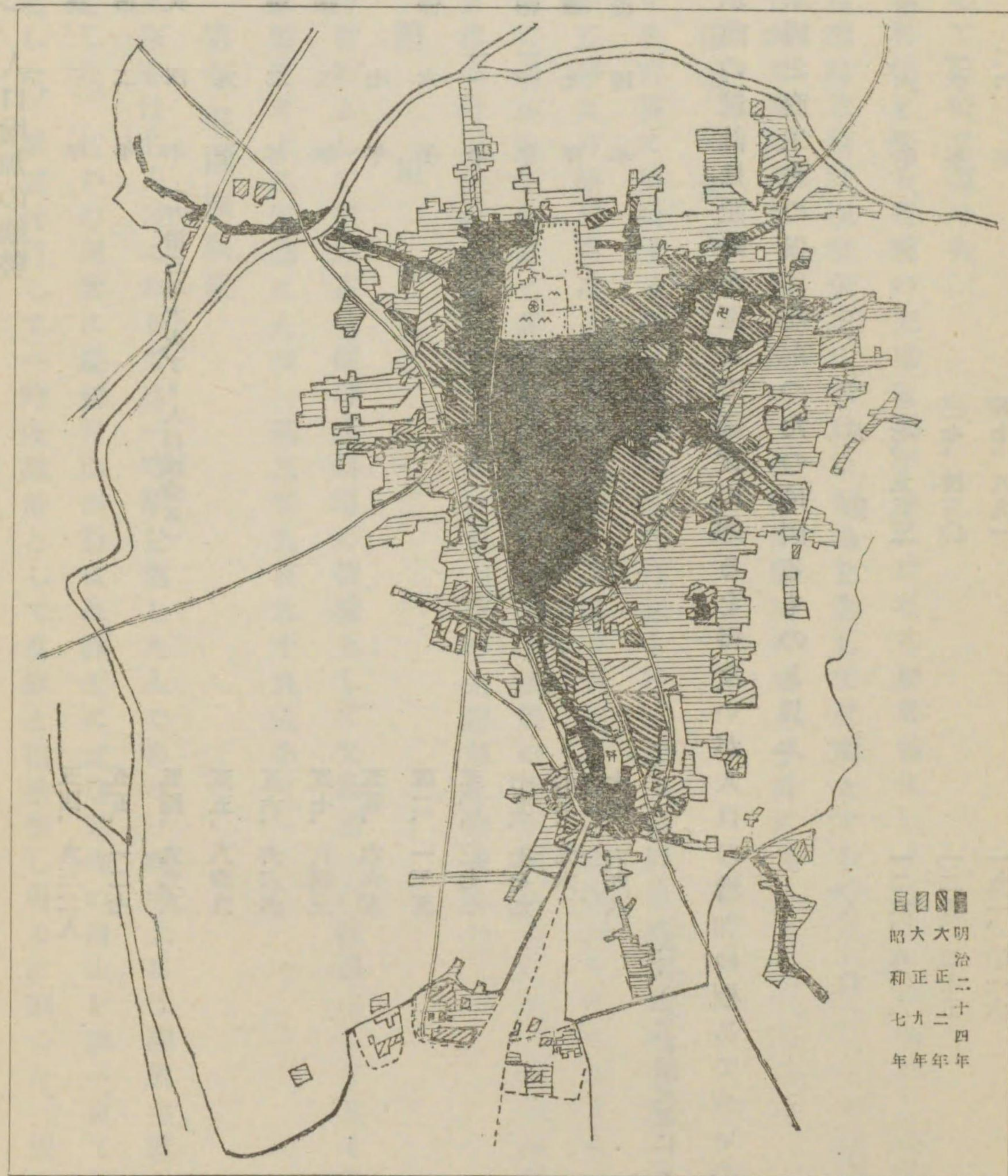
(人口は名古屋史要による)

明治以前の統計は記録が區々で確實に知るを得ないが人口の増加の極めて少いのは封建制度による原因と商工業の振はなかつたのに因るものと思ふ。

明治六年	戸數	人口
同一年	三七、九五三	一二六、八〇八
同一年	三七、四三〇	一二五、二七五
同一年	四七、八九一	一九一、〇一六

處誌 四七

名古屋街發達圖



明治二十四年
 大正二年
 昭和七年

大正二年	九七、一一四(一二四、九九二)	四四七、九五一(五八八、二一九)
大正十二年	一四一、三六八(一四五、三一五)	六九五、九四二(七一六、七六四)
昭和五年(國調)	一九〇、三七九(一九五、七五八)	九〇七、四〇四(九三四、〇七六)

(括弧内は都市計畫區域内の戸口)

明治十六年を單位とすれば十五年後には二倍、二十五年後に三倍、四十年後には約五倍八分に膨脹してゐる。

都市計畫區域内の人口は明治三十一年の三五萬に對し大正十二年には七一萬になつて居るか、名古屋は二十五年で人口が倍となつて居る。すばらしい膨脹都市である。

(六) 市の膨脹と形態

名古屋は洪積層の北端に城を築きその周圍に町が建設された中、南面は商業町として而も市區井然たる碁盤割が造られた。土地は高燥で交通はよく國道は熱田に走つて居るので町は南方へ伸びて行つた。これが上町である。大體洪積層の形に近い形態をとつた。それを中心として東海道岐阜街道、犬山街道、瀬戸街道、飯田街道等の國縣道に沿ふてアミイバ狀に手を伸した。當時は洞の瘠せた市街であつたが次に述べる様な鐵道や新堀川の開通、工業の發達等に伴ひ東西兩部に著しい發達をして洞が餘程肥滿した。

明治十九年東海道線開通の際名古屋驛を西端に設けて南面の名古屋を轉じて西面に發達せしめんとした事は注意を要する。從來商業中心であつた本町通(南北線)は次第に寂れ、驛に直通した

廣小路通(東西街)に中心が移動して廣小路は買物町として榮え、銀行會社が集りて、商業中心となり、又名古屋の都心シビツセンターとなつた。明治三十三年東方への發展を促すべく中央線の開通した結果は鐵道沿線に多くの工場住宅が建設され、今や中央線は市東方發展の妨害物として高架又は路線變更の計畫を促す様になつた。

熱田港は明治二十七年以來築港を計畫せられ、四十年名古屋市に編入されて名古屋港と改稱し以來貿易港として築港の完成を圖りつゝ名古屋の工業交通上に一大進歩を來さしめた。明治四十三年に成つた新堀川精進川運河は東南部に多くの工場を誘致し、明治四十三年の共進會は名古屋を全國に紹介すると同時に會場跡は鶴舞公園として東南發展の基礎を造つた。かくて世界大戰は益々本市の商工業を發展せしめて眞に中京の名に背かざるに至つた。市街地は東部及東南部の發達最も目覺ましく北部及西南部低地は工場地として將來の發展を期待されてゐる。

(七) 面積の膨脹

明治二二年	市制實施	〇、八八方里
明治三一年	東西に膨脹す	一、〇六ク
明治四二年	熱田併合	二、四二ク
大正一〇年	大名古屋建設	九、六〇ク

(一四八、二二方軒)

名古屋市の工場分布

名古屋市の工場分布を大觀すれば、自然の發達に放任した爲極めて雜然と散在してゐる。然しながら種々の地理的關係から數個の Group を作つてゐる事が認められる。

(一) 名古屋城北より大會根附近に至る地帯 (纖維染色業地帯)

犬山方面より帶狀をなして名古屋に續く洪積層が名古屋城の北部に至つて矢田川庄内川に開析された低地で、後に人工的に北に迂廻土地低平、且つ矢田川の水を大會根方面に、庄内川の水を城北城西方面に引いてゐるからその水質水量を利用して水を多量に要する纖維染色工場が出現した。城西江川沿線に御幸毛織その他の織物染色工場、城北黒川沿線に帝國撚糸堀尾捺染原製糸を初め上宿方面に染色工場群がある。大會根方面では東京モスリン製絨工場、東洋紡績大會根工場、矢田川染工場、小松製糸等、その他陶三引佐治等の製陶工場もあつて大會根工業地帯を現出している。

(二) 城東より千種驛方面

大會根方面は瀬戸多治見兩街道の會合地で製品を取扱ふ問屋のあつた處、地の利を得てゐた爲に貿易商が密集して半成品の繪附工場地帯が出現した。それから以西師團方面に亘る一帯は舊士族屋敷で町割が大き過ぎた爲裏に多くの空地を有し、商業に適せず地價が比較的安價であつた爲火を使用する輸出向の繪附工場地帯となつた。窯業地帯の南方に續いた鍋屋町は昔鍋屋のあ

つた處で近年迄場末で附近は器械器具工業その他の工場がある。千種驛方面は鐵道の便と郊外地を利用して名古屋製陶・松村硬質陶器・アサヒビール織物工場等がある。

(三) 名古屋驛を中心とする地帯

驛を中心とする低地は日本陶器・清日製粉・豊田織機を代表とする數多の工場が建こめてゐる。交通の利便多き爲重量貨物の運搬を要する大工場が多い。この地帯に續いて北に新道町中心の製菓地帯がある。

(四) 堀川製材地帯

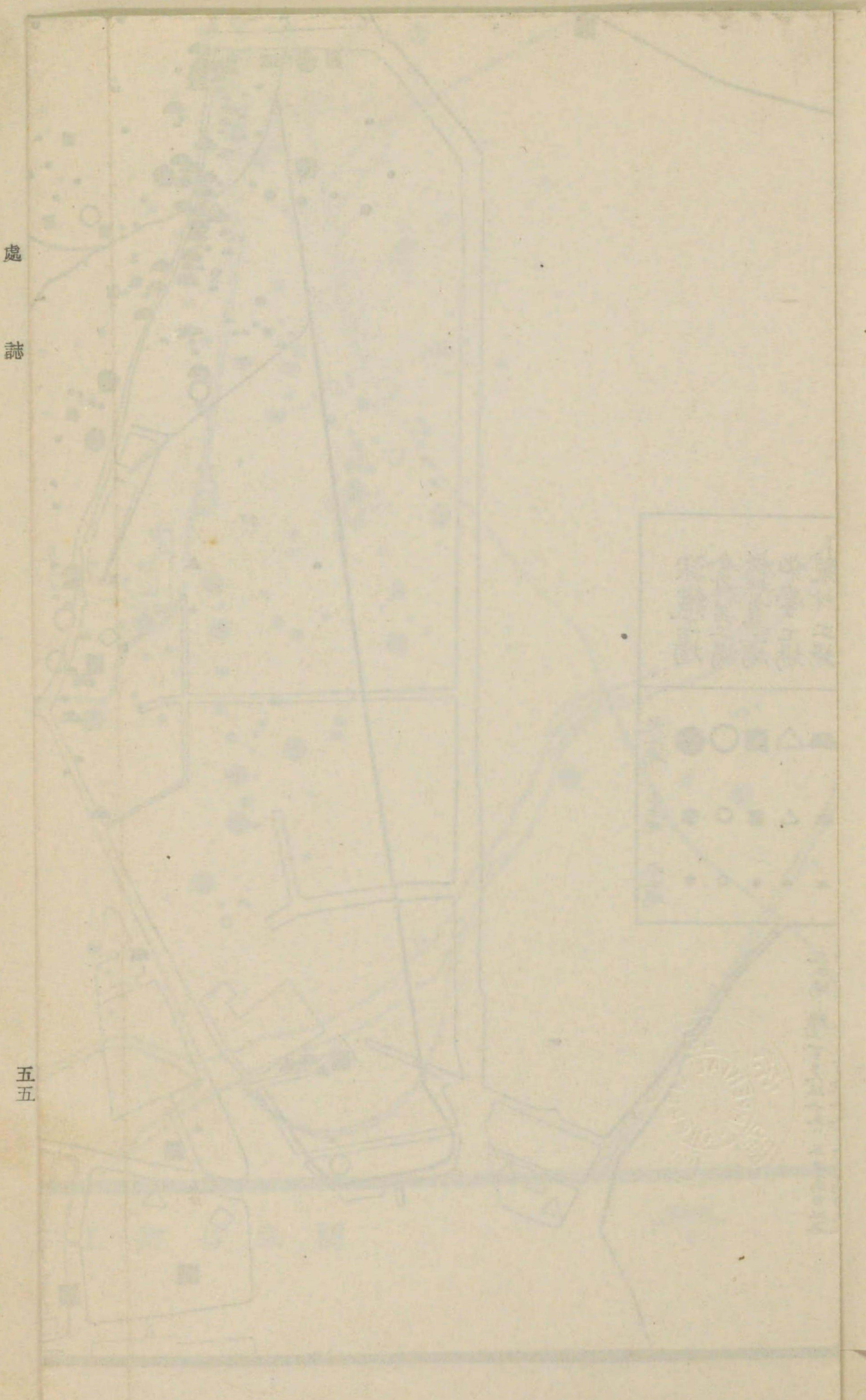
名古屋は木會材・飛驒材の大集散地として古來著名である。近來位置の良好なると交通の便利なるにより遠く北海道・樺太・沿海洲・北米・加州等の木材集散益々多く關東震災以來急激の發達をなし我國屈指の大市場となり貯木場も築港及び堀川方面に完備してこれに北接する瓶屋橋より岩井橋間に製材工場群をなしてゐる。又熱田・白鳥橋附近にも一群がある。

(五) 新堀川地帯

新堀川沿岸中央線以南には東邦ガス・日本硝子・大正精糖・名古屋工廠・日本車輛服部紡績・大同製鋼・小野田セメント等の大工場群があり、ガス會社附近には鐵工業沿線一帯には製材業が發達してゐる。

(六) 築港方面

築港方面は水運を利用した近代的大工場の設立を見る。三菱航空會社・東邦電力火力發電所・豊



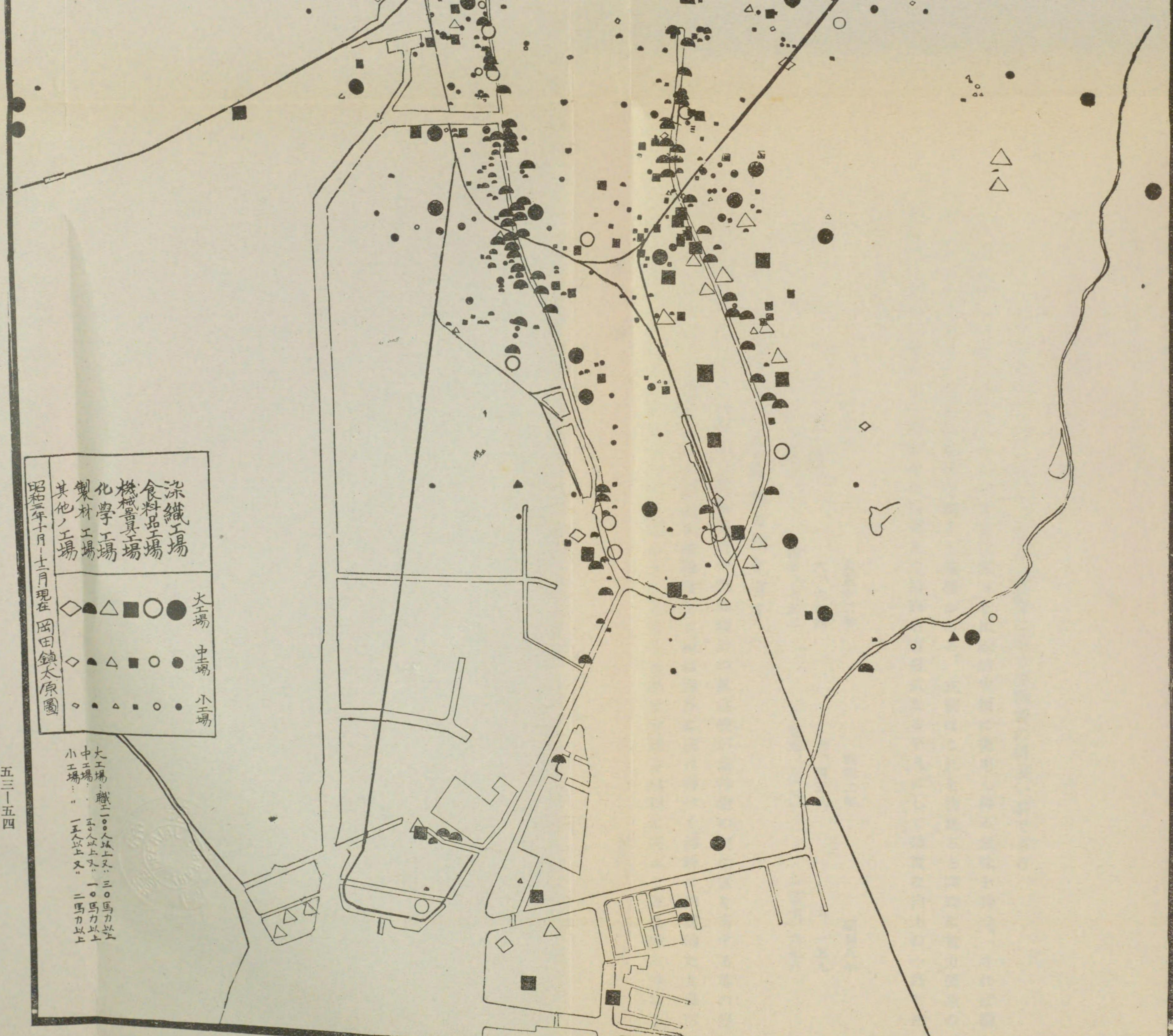
1
80000

名古屋工場分佈圖



(六) 築港方面

築港方面は水運を利用した近代的大工場の設立を見る。三菱航空會社東邦電力火力發電所豊

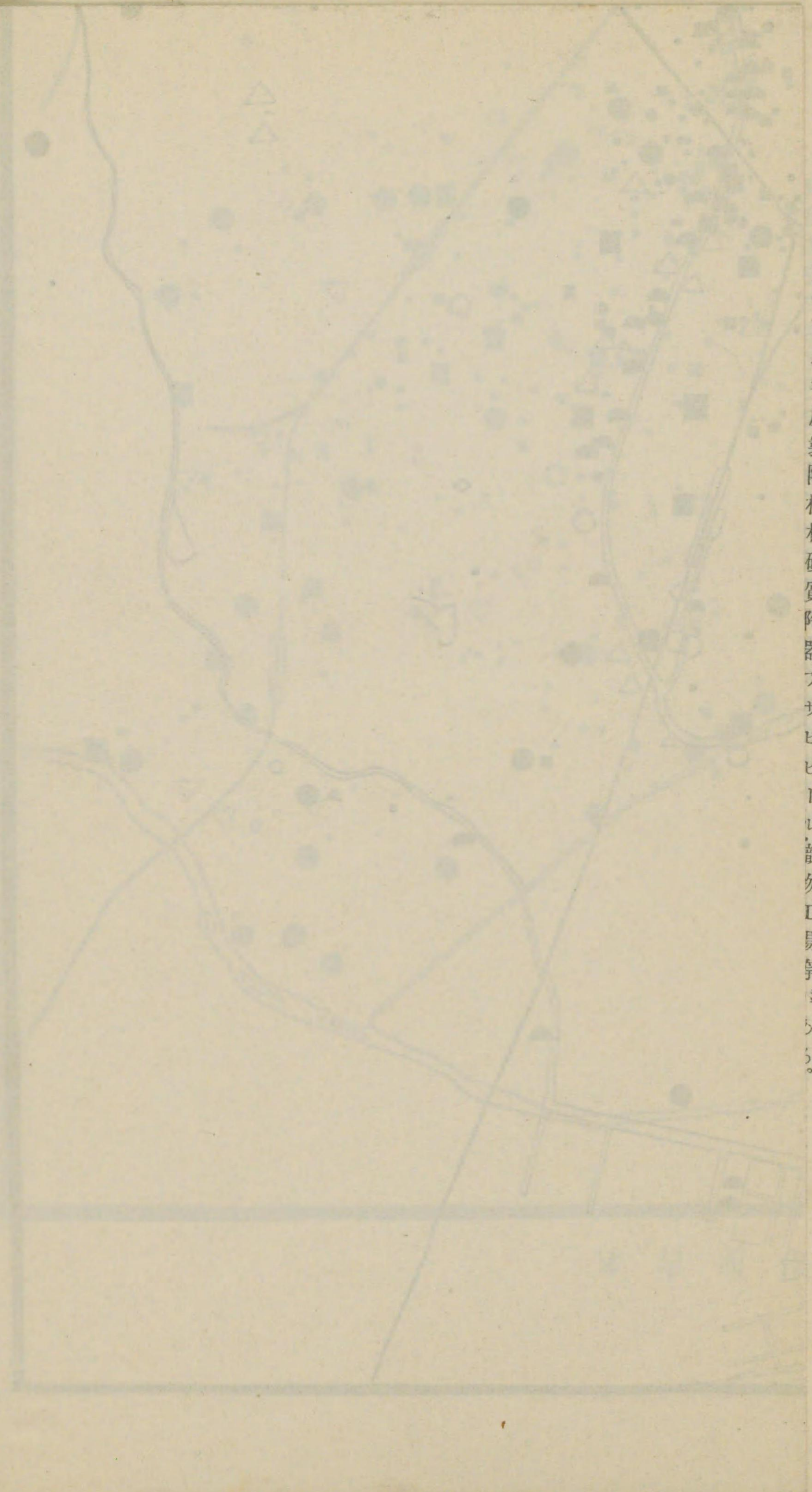


深織工場	大工場
食品工場	中工場
機械器具工場	小工場
化学工場	
製材工場	
其他ノ工場	

昭和三年十月十五日現在 岡田鎮太郎圖

大工場：職二〇人以上又三〇馬力以上
 中工場：職一〇人以上又一〇馬力以上
 小工場：職一人以上又二馬力以上

つた處で近年迄場末で附近は器械器具工業その他の工場がある。千種驛方面は鐵道の便と郊外地を利用して名古屋製陶・松村硬質陶器・アサヒビール・誠勿工易等がある。



國セメント・人造肥料・曹達製粉等の工場が港頭を飾つてゐる。要するに工場地帯は明治二三十年頃の市郊外即ち低地價帯に、東海道線中央線及び兩堀川の交通を利用してY字形に現はれてゐる。

名古屋市工業の特色

(一) 名古屋工業の大なる強味は電力の豊富な事と労働者の得易い事である。石炭の産地に遠い弱味はあるが豊富な電力を比較的安價に使用し得る強味を持つ。されば動力の使用は蒸氣より電氣に漸次移動する趨勢がある。左表はこれを物語ると同時に電力使用の増加率は何等の無理なく何等の不自然なく、所謂名古屋式なる平凡にして確實な向上の一路を迎れることを示す。

	大正八年	大正十二年	昭和二年
蒸氣	一八、一四六馬力	八、六六四	五、一五九
電力	八、四八六馬力	四五、七五二	一〇七、六七八

(二) 名古屋工業は甚敷弾力性を有す

日本陶器の主として米國向、三菱航空機や愛知時計の航空機が或特定の契約者を有する等の幾多の除外例はあるも概観すれば商品には國境なく、或は海外に向け得べく、同時に内國的たり得べく西に行詰れば東北が不景氣なれば南必ずしも所に拘泥せず、到る處利に向ふて流れ得る特質を

比較的多く帯ぶる特色を有する。

名古屋品の低廉なれど粗悪なるは生活費の安價なるによれど又一面大阪商人の名古屋工業者に對する無理な注文を請けるによる。

(三) 名古屋工業品は多種多様

比較的重要なる品種を拾ひ集めたる市の統計に其數二百數種あり。大は飛行機、客車、電車より小は鼻緒、マツチ、扇子、玩具に至るまで、殆ど作らざるものなくその大部分は實用品で、藝術品は至つて少く。

(四) 生産組織より見たる名古屋の工業は中小工業・家内工業が頗る多い

五人以上	三〇人以上	五〇人以上	三〇〇人以上
昭和三年工場數	一、五四七	一〇一	一〇九
			三九

右表で明な如く五人以上五十人未満の小中工場が如何に多數を占めて居るかを知らる。尙此外に家内工業、手内職あり、零細なる勞力を集めたる力の斯界に貢献せる所亦些少でない。雜工業中荷造箱、ヴァイオリン等を除ける約三千萬圓、之に菓子(六八〇萬圓)蒲團(四二五)足袋(二〇〇)刺繡(一〇〇)ス紐等合せ約千五百萬圓、合計四千五百萬圓は家内工業及家庭内職の所産である。

(五) 名古屋の中小工場はその外觀のチグハグにして不揃なると分工場は所々に散在する

先づ小工場を起し次で増築し、餘地あらば更に増築し餘地なければ他に分工場を設ける。されば其内容の充實せるに不拘其外觀の頗るチグハグにして堂々たらざるのである。能率上經濟上

の不便は免れる事は出来ないが事業發展の經路を物語るもので茲にも名古屋式經營の堅實味を現してゐる。

(六) 名古屋に労働争議は極めて少い

こは工業經營上最有利な点である、名古屋商工會議所の調査によると調査職工 四二八六九人中名古屋市内に原籍を有するもの九七九二、名古屋市外の愛知縣に原籍を有するもの九六九八、合計一九四九〇。總數の約半數は本縣人である。之に次で殆ど郷里と選ばない三重、岐阜、兩縣人を加算すれば、殆ど七割に達する。而も當地方人が緻密と聰明な頭腦を以て大勢を支配してゐるから労働争議は極めて少ない。この緻密な頭腦が亦精密なる技能を要する工業を助長してゐること、は本地方工業の強味であり又特色でもある。先年三菱電機株式會社が名古屋に大工場を設立した趣旨の一つはこゝにあると稱せられてゐる。

名古屋市労働者調(原籍別)

	女工數	纖維工業者數	男女總計
愛知縣	六、三三二	八、九一一	一九、四九〇
内名古屋	一、三一四	二、四七〇	九、七九二
内名古屋市以外	五、〇一八	六、四四一	九、六九八
三重縣	三、四六四	四、二三〇	五、五五二
岐阜縣	二、一〇九	二、七三二	三、八九三
新潟縣	二、四八〇	二、七四四	二、七九七
處誌			五七

靜岡縣	一、三一四	二、二一七	二、四六一
富山縣	九七〇	一、一一四	一、二〇六
長野縣	四九七	六六六	七九九
石川縣	三二八	四二〇	五八五
鹿兒島縣	四三七	五〇〇	五四九
福井縣	三三一	四一七	五〇八

右表によつて三重岐阜縣人が如何に多く流入するかを想はしめる。由來濃尾三勢の平野は地勢氣候産業交通等の上より一つの地理的地域 Geographical Region をなして居るが人口動態の上にも亦 Geographical Region をなして居る事が明である。北陸地方が冬季寒冷と深雪の爲名古屋方面に出稼する者多く(東京京阪信州方面にも多く来る)而もその大部分は女工であり、繊維工業従事者であることも明瞭である。他縣より來る者は繊維工業約八割を占め、女工亦殆これに近い數字を示す。名古屋市の女工纖維工業従事者少きは他の多くの家内工業、手内職等に従事する者多きによる。

名古屋市の材木業

名古屋は横濱大阪神戸と共に木材の四大市場として著しく發達し、殊に木會材及北洋材に於ては獨歩の地位を獲得して中部日本に於ける中心市場であるばかりでなく、印度海峽植民地アフリカ・マレー群島等に進出して、北歐の林業國瑞典と覇を争つてゐる。

名古屋が材木の大市场となるに到つたのは天下の美林木會山を背景とし、木會谷と市場とを結ぶ木會川の交通路がよく利用されたことが誘因となつてゐる。よつて木會御料林から述べて見よう。

(一) 木會御料林

木會御料林は長野縣西筑摩郡にあつて面積十萬五千七百町歩、大部分は天然林で林相は針葉樹林又は針潤混合林である。檜サツラ・榎ネ・樺カシ・羅漢柏カシノキ・金松カシノキの木會五木を初め多くの樹種があつて、榎は最低所に、檜は一五〇〇米限界線以下に育ち、一三〇〇米以上は五木次第に減じ、樺カシの林となる。産額は檜を第一とし、榎之に次ぐ。土質は石英斑岩が分解して多量に石英を含有する砂質壤土が檜の生育に最も適し、花崗岩の分解土砂も亦適すると云はれてゐる。木會は花崗岩・石英斑岩等の風化した土砂が多くて、檜の生育には理想的な所である。

木會御料林は元徳川將軍家の領有で代官が管轄してゐたが、元和元年尾張藩領となり、寛文五年尾藩の役人の手に收められると諸制度を改革し山林經營方針を確立し、木一つに首一つといふ嚴罰を設けて保護をした。それ以後出材量は三分の一に減じたがそれによつて今日の木會の美林を見ることが出來たのである。實に寛文に於ける尾藩の制度の賜と云はねばならぬ。建築用材としての需要は萬治寛文延寶以後の事で、京都の著名な社寺、江戸城本丸から出雲大社までも進出した。當時の四年間の出材量は一七一萬餘本の多數に上つてゐる。

(二) 運材

伐木した材木は山落し(作業)といつて山の下方の溪谷に滑走させる運材線路を組立て一本づつ送る。溪谷に集積された材は小溪流による運搬方法、即ち小谷狩によつて搬出する。それから更に大川狩といつてばらくのまゝ川を流し錦織(ミシオリ)下麻生(マツボ)に到つて判別(ハンワケ)をして筏に組む。

錦織から筏一枚(四十五石乃至五十石)を二人で流す。兼山で二枚を合せて二人で下し、犬山迄約六時間を要する。こゝで筏乗は交代する。犬山から四枚二人で北方まで六七時間、北方からは八人一組になつて一人六枚乗、普通四十二枚を一小屋といつて一二艘の宿船がついて下る。北方から白鳥貯木場まで六日を要した。今廢川となつてゐる筏川はその近道である。

この筏流しは古來最重要な運輸方法として専ら行はれたが中央線開通發電所建設により漸減し、更に大井ダムの建設は筏流しを不可能ならしめ木曾谷は鐵道輸送に變り、裏木曾の材木が下麻生の綱場まで大川狩により、以下桑名貯木場まで筏流しを現存して昔の悌を存してゐるに過ぎぬ。

(三) 維新前後の材木業

かうして木曾川を流した木曾飛驒材を取扱ふ名古屋の材木業者は明治維新前後に五十四軒あつた。その中三十五軒は堀川に沿ふ今の木挽町、材木町、昔の上材木町、下材木町、元材木町の三ヶ町に密集してゐた。この三ヶ町は材木屋の淵源で、江戸時代には材摠を始め八軒の材木屋が尾張藩へ運上金を納めて直接木曾材の拂下を受ける権利を持つてゐた、これを株といふ。他の材木屋はこの八軒から買ったのである。この三ヶ町に住む者以外には材木屋といふ名稱をつける事も出

來す、又當時材木置場木場であつた正木町方面に木場を持つことが出来なかつた。明治六年白鳥貯木場の殘木を拂下げて小賣したり、明治九年御料局熱田出張所が材木を公賣する様になると、木場であつた正木町、古渡方面が材木町として開け始めた。

(四) 木挽から製材工場へ

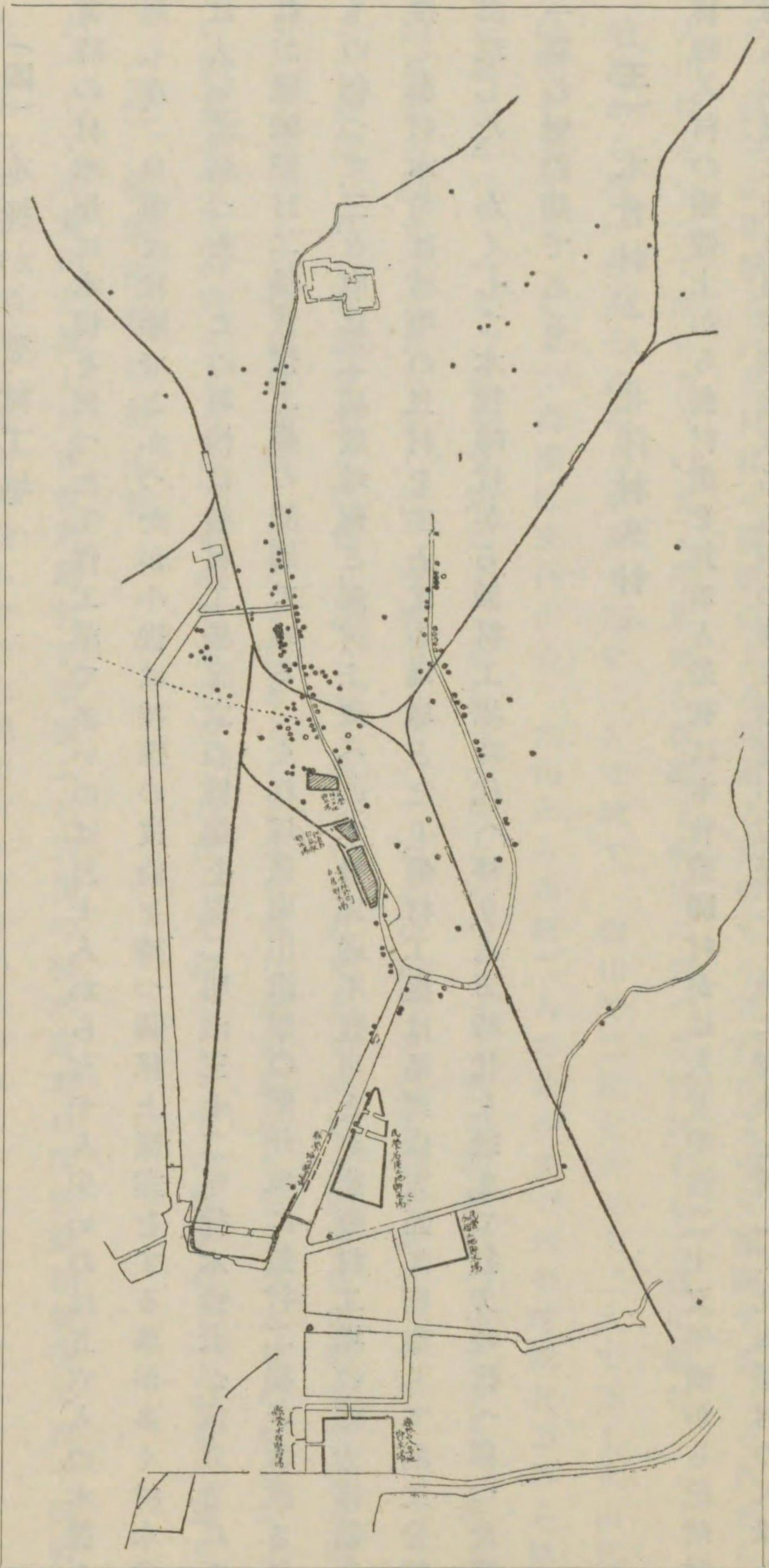
當時の材木屋は木挽を使つた手挽工業で多いのは三十人から五十人、少いのは五六人の木挽を使用した。日傭は従順でよかつたが小挽は特殊の技能を持つ關係上罷業をする事が多く材木業者は大いに弱つた。この事情は製材工場設立の機運を促し明治三十二年挽木會社が創立された。これが機械製材工場、賃挽工場の濫觴である。それ以後堀川沿岸の郊外地に製材工場の新設されるもの相つぎ、三ヶ町は工場敷地難と、運河上流への木材通過不許可とが、愈製材工場の南方移動を促進し、舊材木町は檜等の良材を主とする地域となり、製材工場は尾頭橋方面に密集して商工分離を出現した。かくして木挽時代から製材工場時代へ移り、人力時代を過ぎて動力時代へ移つた譯第一期の變動期である。

(五) 木曾材より北洋材米材へ

移輸入材の變遷上から製材業を見ると、最初は木曾飛驒材が入り、明治二十五年頃から紀州材の搬入が盛になり、日露戦後は名古屋の膨脹發達が目覺しく、俄に需要を増して北海道材の入津を必要とするに至つた。しかし名古屋は築港未だ成らず、金融機關としての倉庫、貯木場もなかつたので北海道材の入津は甚少かつた。この所材木市場としても築港の大成は急務であつた。築港

製材製函工場圖

●製材製函工場
○製材工場ニテ木工ヲ兼業セル工場
昭和八年十二月末現在組合加入者



貯木場等の建設に次で共進會の催されるに及んで北海道材時代現れ、次で樺太材沿海州材米材等の大量移輸入時代を誘致した。名古屋港入津の材木は大正三年の歐洲開戦をエボツクとして北海道材激増による躍進を示し、更に大正十一年頃の大戦後の船舶過剰による運賃安に乗じて米材

沿海州材樺太材が何れも躍進的に増加して北洋材米材の大市場となつた。これが第二期變動期である。

(六) 製材工場

築港には入つた材木船の傍には多數の仲仕が飛口を持つて船から落す材木をきやり歌ものどかに筏に組んでゐる。港に添へる一景趣である。材木を取扱ふ仲仕は二十九組、約六百人ある。取引のすまないものや、製材を急がないものは貯木場や繋留場へ入れ、製材するものは堀川新堀川の工場へ押し上げる。大工場では陸揚げの起重機が働いて工場内へ運ばれ、皮を剥ぐ、もう鋸にかゝつてゐる。堅鋸で板に挽く、製板の仕事はこれで終る。製函工場ではその板を野積して乾燥し更にカンナの働をする機械にかけて削り、小丸鋸で寸法を合せて切る。狭いものは繼ぐ、これで工程を終る。堀川沿岸には製材製函工場が水主町から瓶屋橋邊まで密集し、堀川兩岸には材木が繋留されて船の通路さへ十分でない。新堀川方面は中央線を中心に製材工場が密集してゐる。かくて二大製材地帯を出現する。この工場の分布を明治二十四年陸側の地形圖と比較すると全く郊外に建設された事が明である。今日では堀川沿岸の敷地難の爲尾頭橋を中心として西郊へ展延しつゝある。市内全工場は一五二、昭和七年で縣内工場の三分の一に當るが、馬力數は六四%を占めてゐる。

名古屋の工場は四分六分の薄板、函板、ベニヤ板などに特に長じてゐる。これは清水港の貫垂木類、大阪の米材の敷居、鴨居に長じてゐるに對比される。名古屋は薄板の技術が次第に進んだ事と

一面安價な板の要求があつた爲に四分板は特に著しく厚さを減じて次表に示す様に明治初年から内地松杉材は約十年毎に薄くなつて來て最近四分板が一分八厘九毛までになつたのであつた。それでは取引上問屋が困るといふので二分と二分二厘のみに限ることとなり、検査を行ふことゝなつた。

年 號	明治1年	10	20	27,8	37,8—45
四分板(厚さ)	0.035	0.032	0.030	0.027	0.025
尺	0.035	0.032	0.030	0.027	0.025

かやうに技術が上達してゐる上に工賃安の爲に板、函等は海外迄も進出する事が出来るのである。製函工場は運輸上の便の爲に築港方面に動くを得策とする。

(七) 貯 木 場

貯木場は材木業者の金融機關として重要な任務を帯びて居るものであるから斯業の發達上欠くべからざるものである。貯木場は木會御料材の貯木の目的で早く白鳥に設けられた。しかし民間には、久しく設けられず、多くは大正以後の設置である。大正元年大暴風雨があつて流材が甚しく爲に堤防を破壊したり、其他の被害が多かつた。その上海岸低地は小作争議の爲に土地利用が考慮されてゐた矢先であり且、北洋材の入港の多い六月から十一月の候が最暴風の襲來し易い時であるから北洋材の入港の多くなるにつれて貯木場設置の要望が益々高まつた。そして當時の名港貯木場のみでは到底收容しきれないので次第に設置されて約四百萬石を收容するに到つた。

	水面面積	陸面積	計	最大貯木量
縣營八號地貯木場	一、二八、〇〇〇坪	一、〇〇〇坪	一、三九、〇〇〇坪	一四〇萬石
民營名港土地貯木場	一〇九、一一〇	二八、〇五二	一三七、〇〇〇	一三〇
民營加福土地貯木場	八五、五四八	二〇、七四三	一〇六、二九一	一〇〇
民營堀川土地貯木場	一〇、〇〇〇	一五、〇〇〇	二五、〇〇〇	三〇
鐵道省白鳥驛貯木場	六、五〇〇	三、五〇〇	一〇、〇〇〇	一七
縣營木材整理場	五五、〇〇〇	一	五五、〇〇〇	一六
堀川口筏繫留場	一一、三〇〇	一	一一、三〇〇	四

白鳥貯木場は塩水と淡水との混合の割合が適當であるので、ブクがよくぬけて、質がよくなると云はれてゐる。一般に貯木場は水面を多くして水面に没せしめる様にする方がよく、深さは少くとも四尺位にしないと貯木の効が少い。

縣營八號地の貯木場を設置する際貯木場には適せぬだらうとの非難もあつたが、現在の五號地の貯木場で實驗した結果自信が出来たので、天水のみの貯木場を設けた。所が海虫も這入らず、介藻も附着せず、好成绩を示して居る。かくして貯木場が堀川沿岸から次第に南下して築港附近に新設され、現在の如く筏が中川運河を通過出來ぬ状態が續けば將來の製材製函業地帯はこれら築港附近の貯木場を中心として出現するであらう。

(八) 木材の集散

ト名古屋市場は、木會材の六〇%約百萬石を集散する。

2. 構太材の入港は我國第一位で、二一%を占める。このエゾ松、トド松を四分板六分板に薄く挽くのが得意で東京大阪方面へ盛に積出し、又函の材料として消費し遠く海外迄も輸出する。製函業は我國第一位で殊に輸出向は全國輸出の大部分を占め品質の優良にして統一なることを誇つてゐる。しかしながら内地向製函は最近大阪和歌山清水方面でも相當出来る様になつたので運賃の關係上従來の商圏を維持することが至難となり名古屋の内地向製函は將來相當困難な立場にありはしないかと考へられてゐる。

3. 米材の入港は横濱大阪に次いで第三位を占め、神戸を加へた四港の合計は全國總輸入量の八五%に當る。横濱、大阪の二大市場の中間に立つて中京の材木商圏を確保してゐる。

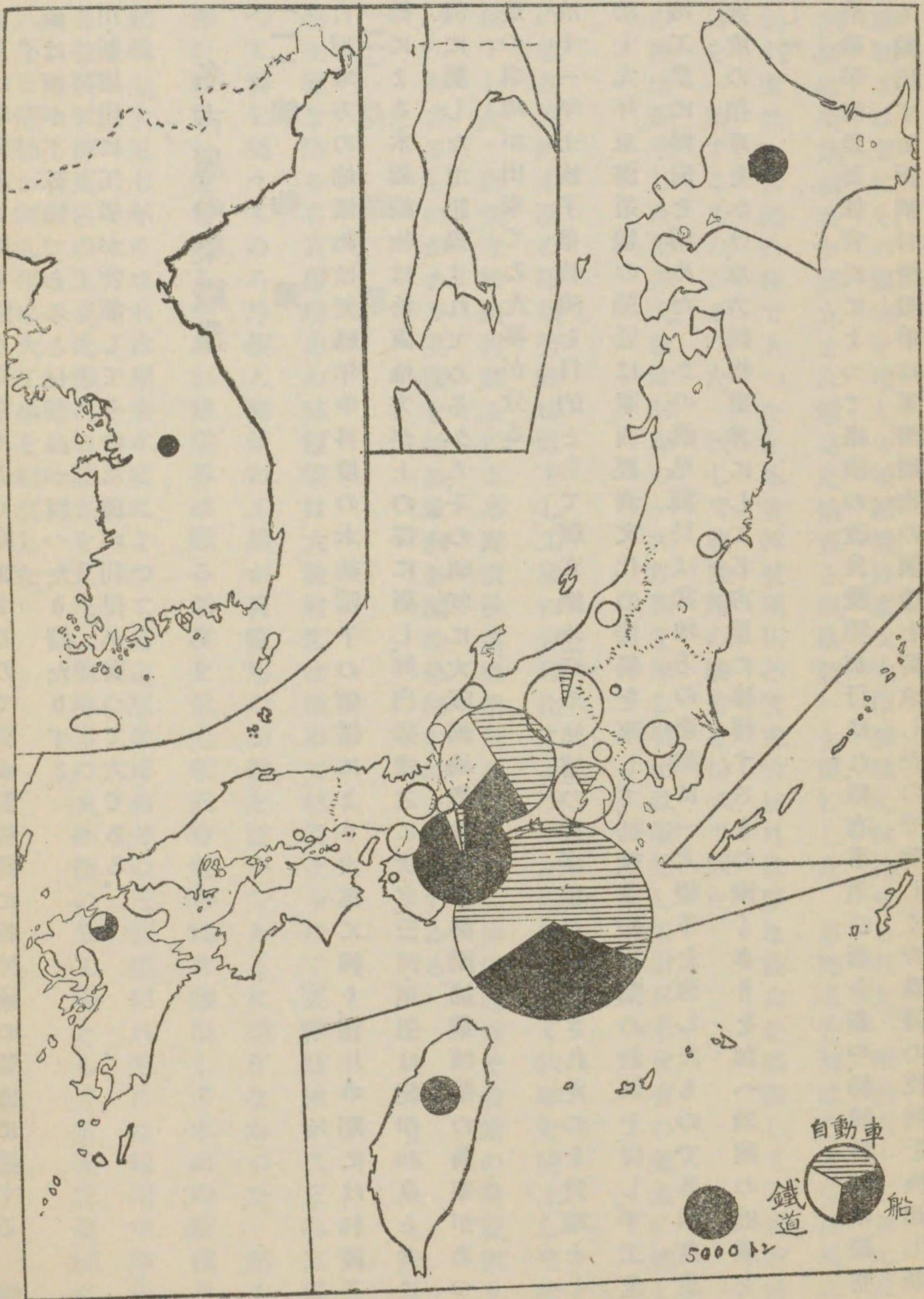
4. 名古屋の木材の商圏は愛知縣、岐阜縣三重縣及遠州を第一商圏とし中部地方近畿の中央低地を第二商圏としてゐる。中津須原の各製紙工場及木材市場として活躍する岐阜、豊橋、濱松へは特に多く積出す。

5. 名古屋で消費するものは函材四〇%、板材三五%、丸太一五%と推算される。

(九) 發達原因

1. 木曾の檜樅等の良材を集散して市場の基礎を作つた。
2. 木曾川の筏流は材質を良くし良材の名を世に示した。
3. 工賃安く、製板製函等特殊の技術(職工の訓練、工作技術の優秀)を持つ。
4. 築港貯木場の設備よく、原木の輸入、製品の輸出も極めて便利で諸経費も安い。

布分別縣府の材木送發市屋古名 (年四和昭)



5.名古屋は晴天多く風も強く非常に乾燥するので製函製板殊に輸出函の製造に適する。輸出函は板が不乾燥であると包装品が腐つたり錆たりする。
6.堀川新堀川に工場が密集してその水運の利便が與つて大である。

名古屋の染織業

(一) 織物業

名古屋地方の綿織物は元禄年中再度の木綿種子の傳播により次第に興り、徳川中期には和漢三才圖繪による木綿織物は松阪地方が上の部に屬し、河内・攝津之に次ぎ、三河・尾張は紀伊・和泉と共に下の部に屬した由記録されてゐるから、その頃既に大阪灣綿業地帯・伊勢灣綿業地帯の萌芽があつて發達の素地が出来てゐた事が分る。

明治十一年、士族子弟救済を目的として縣立織物(烟草塗箸)の授産場が設立されたのを發端として、明治十九年東海道線の開通は東西經濟文化の接觸を來して、紡績業織物業の勃興を促し、手工業は機械工業に轉向を始めた。かの濃尾震災は當地方の産業に一大變革を來したもので各種産業に急速度の拍車をかけ、地方織物業者にして名古屋に移轉するもの漸く多きを加へ勃興の機運を醸成した。

日清戦争前豊田佐吉氏によつて織機の改良發明が行はれ、織布事業の新企劃や、紡績會社の織布兼業も續出する折柄、日清戦争は軍需織物の製造を要求したので著しく力織機の使用を喚起し新

設擴張が盛に行はれた。

日露戦争は更にその要求を増し、小巾織機は漸次大巾織機に改造せられた。明治四十二年には名古屋織物同業組合が設立され嚴格な検査と規格統一を勵行した。當時名古屋は石炭の産地に遠く燃料費は一苦痛の種であつたが、木曾・揖斐・兩川の發電完成は低廉な動力を供給して工場設備に面目を一新するものがあつた。而して愈飛躍の機會を待つて居た。

その機は到來した、世界大戰は財界の一大好調を來し輸出は激増して財界未曾有の極点に達した。

その後世界的不況の結果勞銀は低下し、工場の合理化によつて工場は著しく能率を向上し生産費を低下した。折柄金輸出再禁止による圓價暴落、綿業活況等により、輸出旺盛で前途の發展測り知るべからざるものがあり、英國を始め歐洲各國の恐怖の的となつてゐる。

(二) 紡績業

織物王國を誇る名古屋地方の紡績業は大戦前迄は極めて幼稚なもので、東洋紡績が二三の工場を持つて覇を唱へてゐる外個人經營の工場が自家用の紡績を紡いでゐるに過ぎなかつた。然るに歐洲の風雲一度卷起るや我が綿業界は頗る活況を呈し新設會社各地に續出して本市の紡績界をも刺戟し、大正七年には名古屋資本家によつて、名古屋豊田・菊井の三紡績、同八年には協同中華内外の各紡績、服部商店の工場、近藤紡の設立を見た。他地方の大紡績の分工場として、富士瓦斯紡が大正八年、日清紡が同九年に大工場を建設した。

現在綿糸紡績十五工場、紡機六十五萬錠、織機九千臺あつて一宮、津島、半田、刈谷、岡崎等の八工場を合すれば、紡機百萬錠、織機一萬二千臺に達し、大阪に次ぐ紡績都市で全國の紡織會社總錠八百萬錠、織機八萬臺に對して本市及附近工場は約一割を占めてゐる。

使用綿糸は全部輸入によるが、印棉米棉が大部分を占め、エジプト棉支那棉を使用する事もある。原棉は大阪の綿花問屋によつて買付けられ、印棉は名古屋港揚げ又は四日市港揚げとして輸入し、米棉は主として神戸、大阪から鐵道便で轉送される。

工場的位置

名古屋で初期に設立された紡織工場は東洋紡績の名古屋工場、尾張工場、愛知工場の如く堀川沿岸や名古屋驛附近に建設されて水運や鐵道の便を利用したのである。か様に地理的位置をやかましく云つたのは最初歐洲人が指導的立場にあつて位置を選び、機械を据えたからであつて、又比較的良好的な位置を選定して居る。しかし固定資本にあまり金を掛けない工夫と、技術上の合理化と労働の能率向上に努める等の研究の結果は、全体が甚敷合理化して位置は以前程の重要性は持たなくなつた。

工場敷地選定の要件

1. 地價低廉で、纏つた敷地のある所。
2. 運河、河川、鐵道等の交通路に沿ふ事。
3. 職工の散らない所。

紡績工場は女工が多く、殊に労働時間の關係と遠方の通勤は出来ないから大部分寄宿舎に入れる。寄宿である以上大都市に接近する必要はない。又工場は盛場、娛樂機關等に接近しない方が誘惑を受けないから能率上よい。又、男工の多い機械器具等の重工業と女工の多い纖維工業とは地域を異にしてゐる方が好都合である。

4. 海岸近接地で塩風の當る所は一休むと機械がさびる欠点があるから避けた方がよい。但しこれは建物の研究で防ぐ事が出来る様になつた。

等擧げる事が出来るが大工場は都市聚域から郊外へ遠心的に分散する。のみならず關ヶ原工場、の如く一見不便の如く思はれる地に設立されたり、近時幸田、大府に新設される様になるのはその町村の發展策として敷地を安價に提供して誘致するに基くもので、固定資本の減少、職工の能率向上、職工の離散防止等利する点亦少くないからである。

(三) 城北染色業地帯

名古屋の染色整理工場は舊來の手染式のものを加へるとその數四八五、昭和六年に達し、廣く市内各地に散在してゐる。しかし黒川及江川沿岸地域は最密集して染色工業地帯を構成し、最近庄内町、萩野村方面に新設の大工場續々と出現して城北染色地帯を形成しやうとしてゐる。

沿革

機業に使用する綿糸、絹糸を染める紺屋手染によるの時代は長く續いた。日露戦争後の好況時に至つて、動力織機の増加と、アニリン染料の普及とは、手染から次第に機械染色に、家内工業から大

量生産の工場工業に移つた。堀尾捺染工場が手染に機械を併用したのはこの頃に始まる。明治時代迄は、浅堀で良質の水を得る所又は流水の使用出来る江川地域や黒川下流地域は最多くの染色工場が密集して第一期の染色地帯を形造つた。この地域は舊士族屋敷で空地が多く、しかも場末帯に屬し地價が安い上に必要欠くべからざる水の供給に恵まれてゐたのが發達の原因である。歐洲大戦は各種の國産に飛躍的發達を促し、織物業の發達に隨伴して染色殊に整理業の目覺しい發展振を見せ、黒川中流に新式の染色整理工場が展延し、次で萩野村庄内町方面の低地價帯に擴がり大工場既に二十餘を算し今後益々増加の傾向にある。

黒川下流染色地帯

庄内川の水を名古屋城の内堀に給水する目的で小牧街道に沿ふて開いた御用水(用水路)がある。これに併行して堀川と木津用水とを聯絡し灌漑と舟運との便を得やうと考へて明治九年開鑿した用水に黒川がある。黒川の下流練兵場以西は良質の流水が得られる外前述の様な原因から京染、形染、手染屋が立並び、高い干場には布がなびき、川の中の洗場には布を洗ふ人が元氣よく働いてゐて染色地帯特有の景觀が現れてゐた。それが染工場の増加、人家の密集等によつて排水が次第に増加して河水の混濁甚しく、朝早く洗ふか、夜だけゆすぎ水に使つて、水道を補ひに使用する様になつた。大正末年頃からはそれも殆ど出来なくなり、鑽井を使ふ様になつた。最近黒川は浚渫工事を終つて堀川からの船が自由に出入出来る様になつたから、染色工場は洗場を失つて立地の原因の一半を解消し、水道費又は動力費の負擔に苦しみつゝ、現状を維持してゐるが次第に淨水を追

ふて上流又は北方に移動する傾向がある。

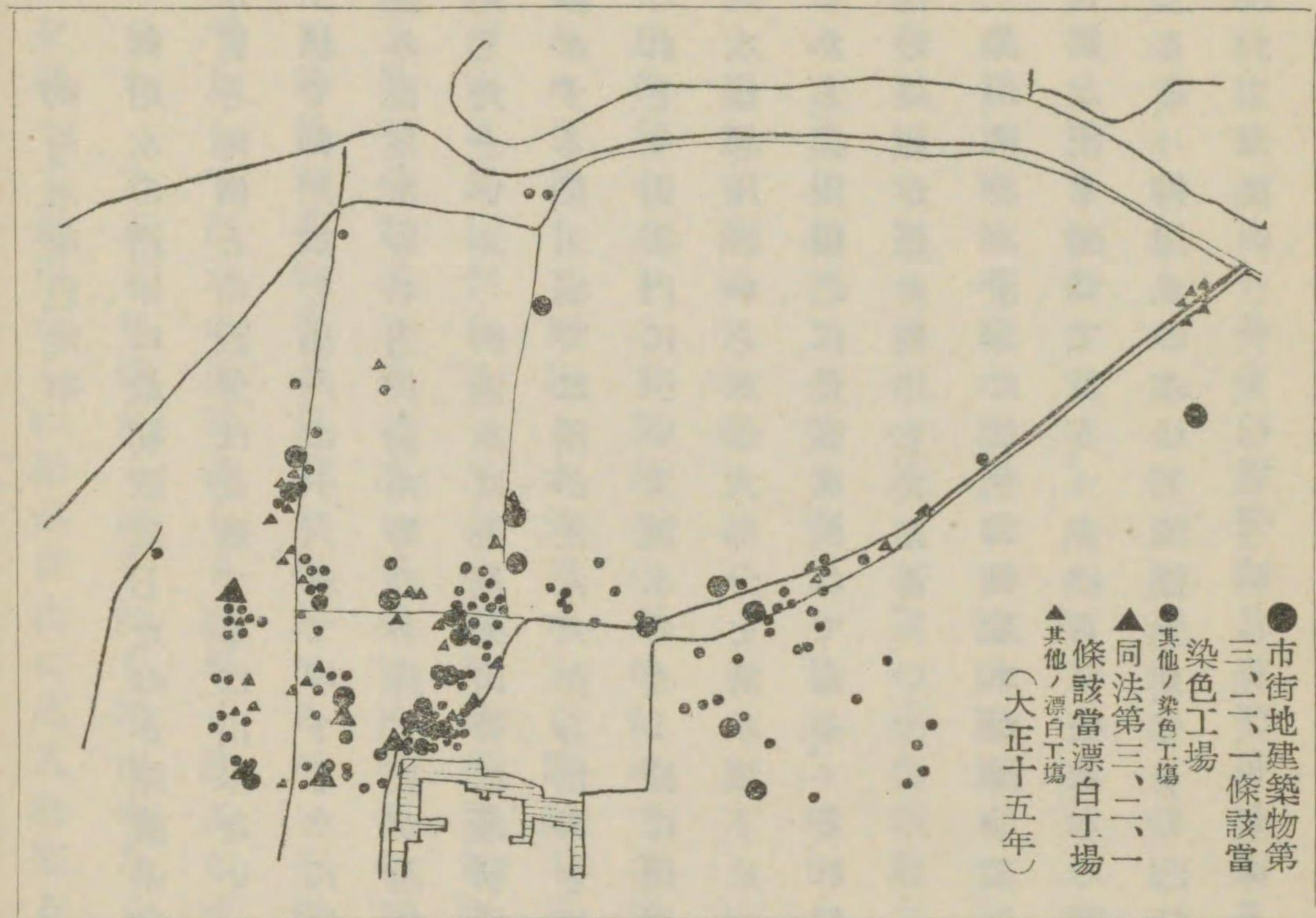
御用水染色地帯

御用水の沿岸に最初設立したのが原製糸會社で、尾張平野産の繭に着目したのは勿論であるが、水質と地價との關係は見逃す事は出来ない。染色工場としての最初は明治四十年頃の堀尾捺染工場で、御用水を場内に引入れてゆすぎ水に使つた。歐洲大戦前後の好況時に染色業も飛躍的に進み、堀尾水野名古屋菊山等の各染工場が沿線に建設され、黒川もその頃はゆすぎ水として盛に使つたといふ。御用水は堀尾菊山等は最初使用して居たが、雨天の後は堀が満水する爲に用水は斷水する。染工場では雨が止んだから仕事を始め様とするのに水が来なく止むなく鑽井に變つた。けれど今尙場内に引いて流水のまゝ盛に使用してゐる工場に名古屋別珍水野捺染がある。この用水は黒川橋から水の大部分を清水坂下に引き、ポンプで押上げ、新堀川淨化用水として流してゐるから、黒川橋迄は豊富に流れてゐる。それ以下は水量は減り、稍汚れてゐる、それでも水野捺染其他の染屋が盛に使用してゐる。

黒川、御用水沿岸には今尙松並木が残つてゐて、人馬御宿の看板の掛つた小牧街道の昔を物語る古風な家も残つてゐる。まばらな松並木の間に京染屋が並んで、前の洗場で、夕方や夜に盛に洗つてゐる。御用水の水は下流程少く、そして汚れてゐる。黒川は浚渫されたが未だ船はいくらも這入つて来ない。多くの煙突は立並び、布を運ぶトラックの往來は頻繁である。

この黒川中流の染色地帯は捺染工場の多いのが特色で、大工場は名古屋だけの製品では仕事

布分場工白漂・色染ルケ於ニ北城



不十分であるから五割乃至八、九割は大阪方面の輪移出向の仕事をしてゐる。大阪は染色整理業が非常に發達して各地の半成品を集め加工して盛に大阪港から輸出してゐるのである。

この染色業と清水との關係は最密接である。菊山工場から水野工場附近の鑽井は、深さ三十米内外(十八間堀から良質の水が得られ(第二滯水層がよく、第三滯水層は濁るといふ)庄内町、萩野村方面にかけても淺堀で軟水が得られるといふからこれがこの地帯の強味であり、染色工場立地の因子となつてゐる。

鑽井ノ深	一〇三尺
出量	一分間 三斗
管ノ太サ	五吋
總硬度	〇、四五八

以上染色工場立地の原因を要約する。

第一期染色地帯 (黒川下流染色地帯)



1. 舊士族屋敷で地價低廉。
 2. 軟水を容易に得られた。
 3. 名古屋の中心に比較的接近して居た。
- 第二期染色地帯 (御用水染色地帯)
1. 御用水、黒川の良質な軟水に依存した。
 2. 用水を使用し得なくなつても鑽井水が容易に豊富に得られる。
 3. 地價安く十分の敷地が得られる。

(四) 名古屋綿業概観

名古屋は綿業の卓越せる綿毛絹織混合地帯である。名古屋は起津島中心の尾西毛織地帯、岡崎蒲郡より幡豆知多に連なる綿織地帯、丹羽葉栗の絹織地帯に對して、綿業の卓越せる綿毛絹の混合地帯である。紡織工場染色工場が多數集つて綿織物は縣内産額の約半に當り、伊勢灣綿業の核心をなし、瀬戸内綿業の中心大阪と共に我國二大纖維工業地帯の大中心として綿業立國の實を揚げて居るのみならず名古屋の首位を占める最重要な産業である。

大阪東京二大中央集散市場の發達に對して名古屋集散市場は不振である。由來織物は地方色豊かなもので種類特質を異にしてゐる。そして各地の需要者は自ら趣味性によつて各種の製品を需要する。然るに小資本の小賣業者は各の生産地から小量宛買ひ集めるこ

とは不可能である。何となれば生産者は各地へ小賣する事は煩に堪へないからである。中央市場はこの欠陥と不便を補ふ爲に必要に迫られて發達した。生産者や買繼商は中央の間屋へ賣り、地方の小賣商や卸賣商は中央市場へ行けば何時でも各地の品を必要に應じて求められる便がある。

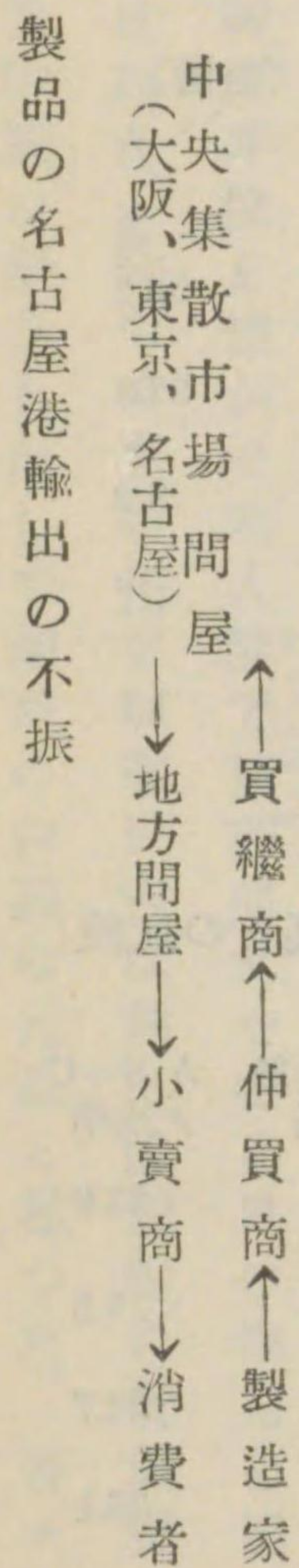
而して大阪・東京二大市場の發達原因は地理的位置・交通の便からでもあるが兩都大問屋筋の勢力を擧げねばならぬ。この問屋筋は各機業地の製品をよく消化する力を持つて居るからである。かくて各の生産地の織物は殆總てが大阪・東京二大市場に集中して、然る後各需要地に分配されて居るといつてよい。名古屋も中央集散市場たらんとする迄に發達して居ることは見逃せない。濃尾勢三は云ふ迄もなく北陸地方・信州・遠州に勢力を持つて大阪・東京と争つて居る。しかし織物は買繼商や機業家から大阪・東京へ送られ本市へ逆戻りするものも少くない。とは云へ一面又兩毛及遠州物の如く本市へ集中され消化されてゐるものもある。綿セルの如きは東京六割、大阪名古屋が四割を消化してゐる。

名古屋の中央集散市場不振の主因は問屋が舊式の傳統を墨守するにある。中には九州地方東北地方の商人を相手にしない問屋がある。兩市場を通り越して來る商人を危険視せず積極的に人と物とを集中する様努力すべきである。

賃織制度

名古屋及附近は輸出向の廣巾生地綿布及同加工綿布が綿織布の約半に上りその多くは市内の大綿布商が附近の専屬工場又は賃織工場に原糸を供給して製織を委嘱する。知多の白木綿も問屋から賃織工場へ賃織する点が類似してゐる。この制度は市場の情況によつて生産の緩急宜しきを得られ、弾力性があるから、大資本の間屋側は自ら工場を經營するより有利である。即ち分業によつて企業經營の危険を賃織業者と綿布商で分擔する所に長所がある。故に大問屋は自家經營の工場の外に適量の賃織工場と密接な關係を結び、自己の支配し得る生産量に必要にして且十分なる弾力性を保たせる。この情實的な封建時代的な賃織制に名古屋地方の機業組織の特質が看取される。名古屋に於ける自家經營工場と賃織工場との製織の比は凡5：5であるから賃織工場は有力な存在である。

さて生産から消費者に渡る迄の商人を吟味すると、こゝに買繼商といふ見逃せない存在がある。自己の計算に於て製品を買求め、薄利で中央の間屋へ持つて行く。中小機業家に原糸の仕入資本の前貸をする。風合とか色合とかの柄に就ても機業家のよいパイロットでもある。有力な買繼商のない地方は健全な機業の發達を望めないとさへ云はれる。買繼商の微力な地方では小中機業者はどうして經營して行けやう。そこに名古屋地方に異色ある賃織制の育成し來つた素因を看取する事が出来る。



綿織物輸出港別比較 (全國)
(昭和六年)

	百萬圓	%
大阪	111	56.2
神戸	65	32.8
名古屋	16	8.2
横濱	3	1.7
其他	2	1.1

名古屋の綿布製産高と名港輸出高との比較

昭和年	A	B	C	A:B+C ノ比率
	名古屋港 輸出高	聯合會 綿布製産高	紡織會 員綿布輸出高	
2	14	26	35	23.9%
3	15	34	53	18.2
4	28	35	50	32.7
5	20	27	29	36.1
6	16	22	21	37.5

(百萬圓)

名古屋の製品が大阪の中央集散市場に集る様に輸出物迄が六二%は阪神方面に奪はれて名古屋港から輸出するものが三八%に過ぎない。その原因

(1)名古屋に綿布輸出の專業者が極めて少い。自らの手によつて輸出するだけの資金と経験がない。又整理加工の便宜上大阪の商人の手を経なければならぬ必要もある。

(2)船便が悪い。

名古屋寄港船は一日平均二隻半で、大阪出帆迄に七一〇日を要し、期限に間に合ひかねる事が少くない。トラック發達の今日では一日で大阪へ送られるから高運賃に拘らずこれによる。名古屋港を出帆して大阪出帆までの日數を短縮する必要に迫られてゐる。

(3)整理加工業が十分發達してゐない。

愛知物産矢田川庄内川中央染布帝國撚糸堀尾捺染等二十餘の工場が城北に散在してゐるが京阪地方のそれには遠く及ばない。彼地で整理加工の後輸出されて居るものが頗多い。勿論他地方産のものも整理してゐるけれども本市勢力圈内のものを整理加工するだけの發達はしてゐない。

これらに對する對策を攻究し更に海外事務所の設置、海外見本市の開催等數項に就いて輸出振興策が講ぜられてゐるから漸次改善されるであらう。

名古屋市の製陶業

(一) 沿革

名古屋の窯業は寛永の頃既に藩祖義直の産業獎勵と陶器愛好とから城内御深井丸に築窯して御深井焼を焼かせ、明人陳元贊チンゲンゼン亦同丸で安南風の逸品を焼成して元贊焼として後世にその技を謳はれた。降つて享和年中加藤民吉は熱田前新田に新製焼を造つたが瀬戸の要望を容れて歸瀬し、染附焼の優品を出して瀬戸の白磁の元祖となつた。吾々の使用する白い磁器はこれから一般に

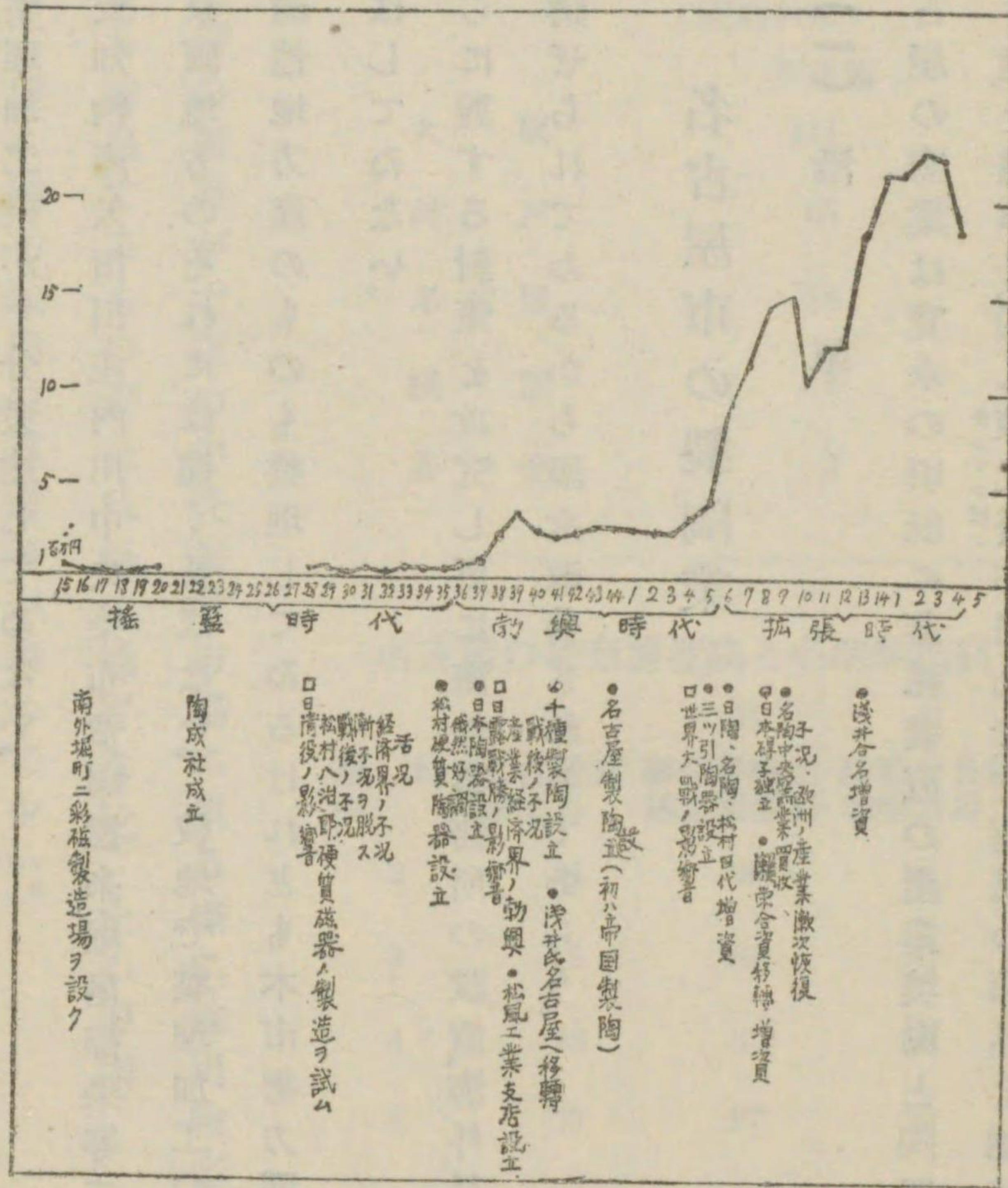
用ひられる。次で文化、文政の平澤九朗の志水坂下に於ける九朗焼、天保の萬松寺裏門前に於ける高木豊助の豊樂焼、其他笹島焼、不二見焼、醉雪焼、後夜寒焼等茶の流行發達に隨伴して進展し、茶器と

茶人と茶趣味とを現代に遺した。

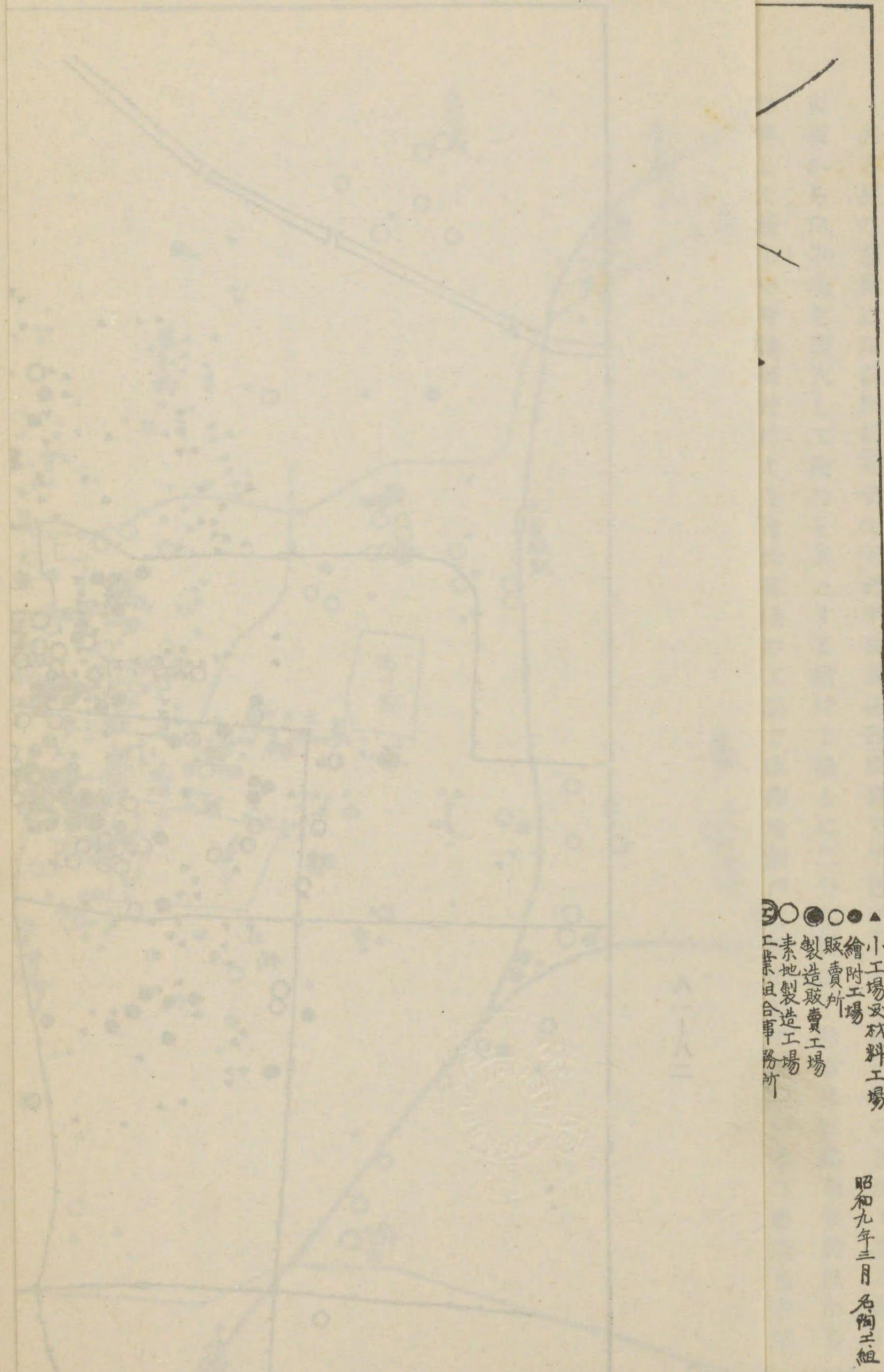
然るに現代の名古屋窯業は全然茶趣味を脱した、そして成形、圖案共西洋趣味の食器、裝飾品及建築材料の製造地として、又半成品の繪付業地として最活躍してゐるのである。

名古屋の近代的窯業はグラフに示す様に搖籃時代、明治初年―三十五年、勃興時代、三十六年―大正五年、擴張時代、大正六年―昭和四年の三期に區分し得られる。日清戰役頃から基礎は固まり、日露戰役前から

達發の業窯屋古名

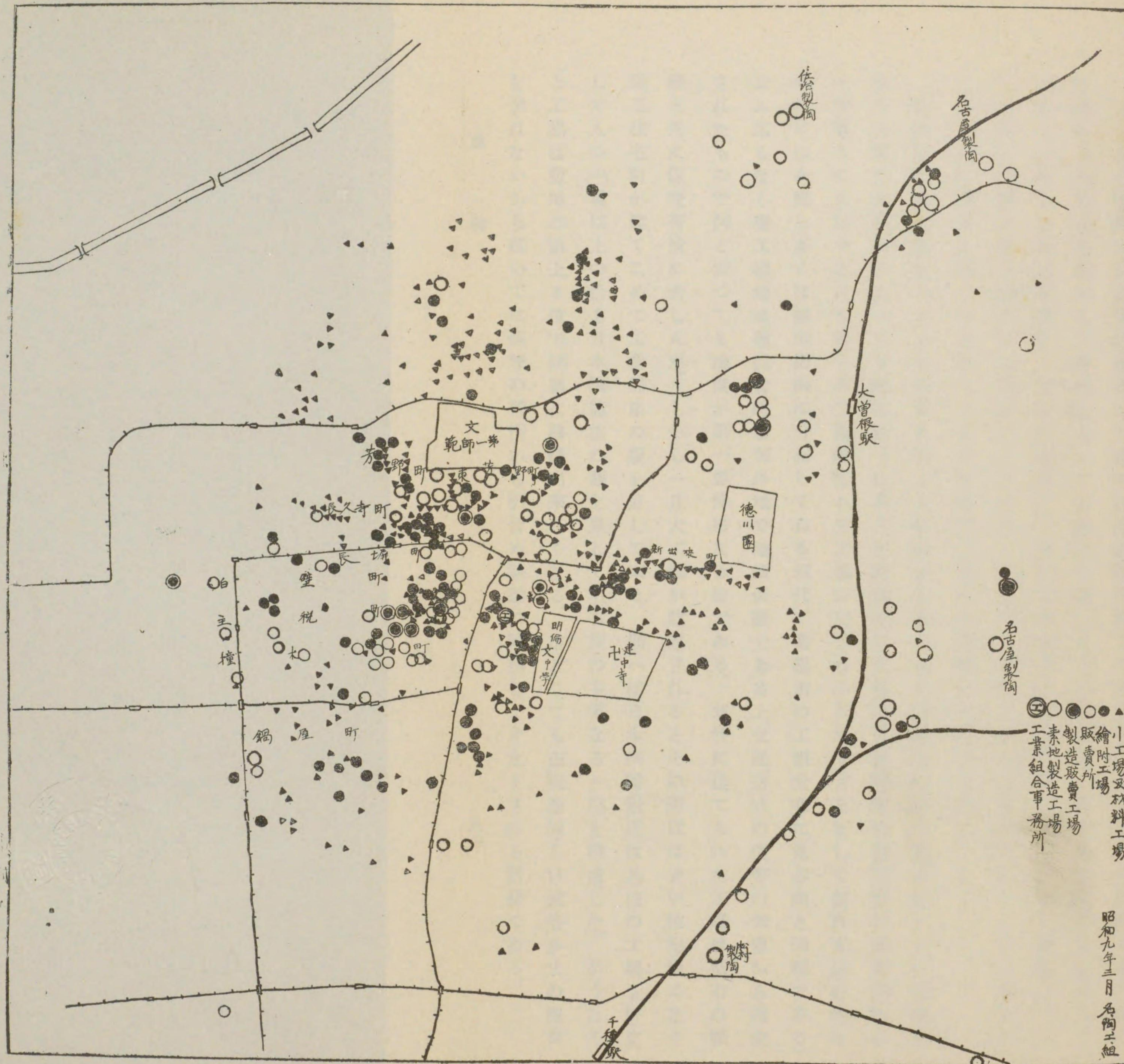


次第に勃興して新會社の設立時代に入り、世界大戰を一期として會社の増資擴張時代を出現して昭和三年迄は世界の不況、産業界の不振に拘らず産額を増加して異數の發達を遂げた。名古屋に於ける他の工業も多くはかかる過程を経てゐる。

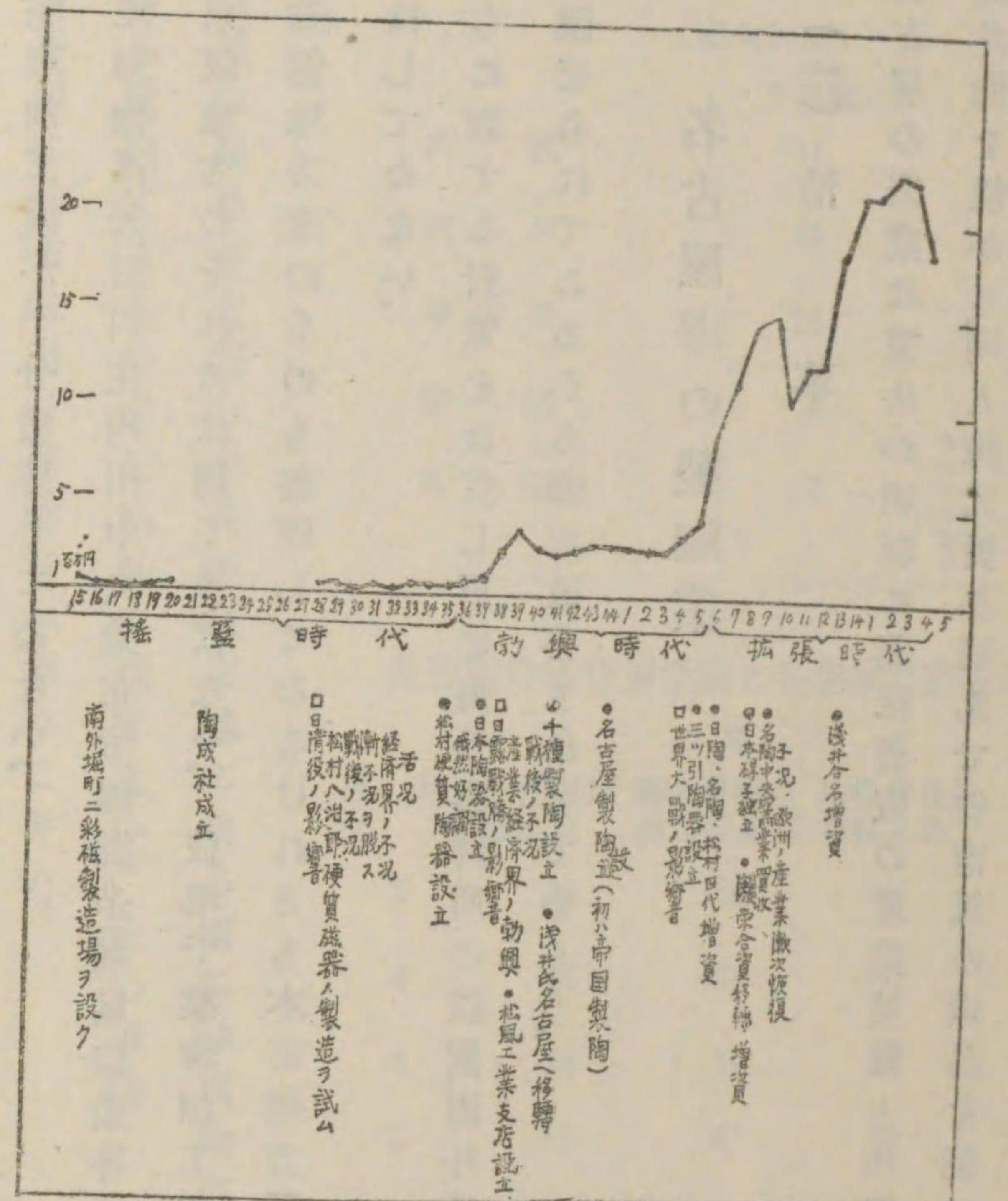


▲小工場、材料工場
 ●繪付工場
 ○製造販賣工場
 ●未地製造工場
 ○工業組合事務所

名古屋東區內ニ於ケル輸出陶磁器關係業者分布圖

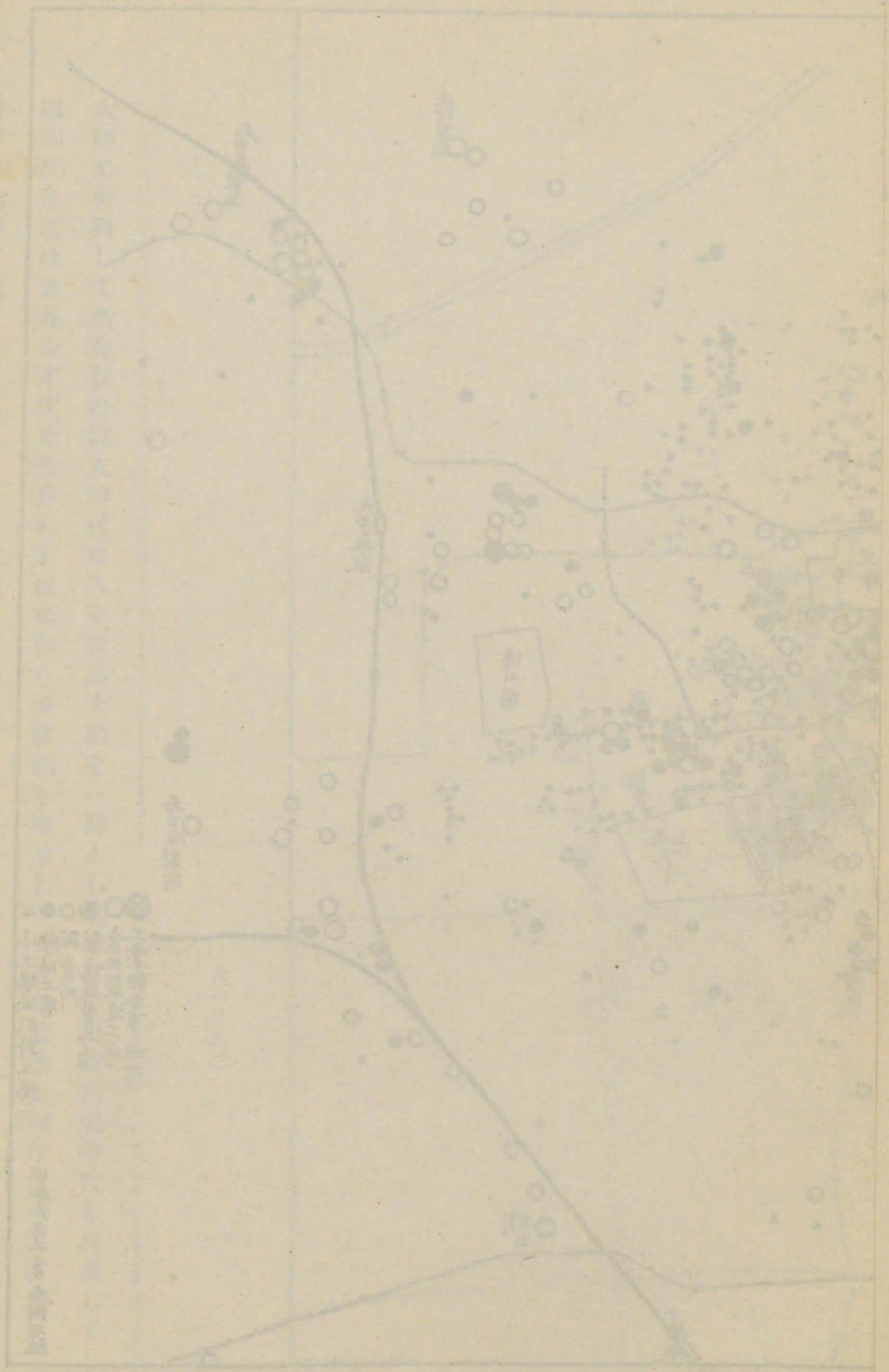


名古屋窯業の發達



次第に勃興して新會社の設立時代に入り、世界大戰を一期として會社の増資擴張時代を出現して昭和三年迄は世界の不況、産業界の不振に拘らず産額を増加して異數の發達を遂げた。名古屋に於ける他の工業も多くはかゝる過程を経てゐる。

用ひられる。次で文化、文政の平澤九朗の志水坂下に於ける九朗焼、天保の萬松寺裏門前に於ける高木豊助の豊樂焼、其他征島焼、不二見焼、醉雪焼、後夜寒焼等茶の流行發達に随伴して進展し、茶器と茶人と茶趣味とを現代に遺した。然るに現代の名古屋窯業は全然茶趣味を脱した、そして成形、圖案共西洋趣味の食器、裝飾品及建築材料の製造地として、又半成品の繪付業地として最活躍してゐるのである。名古屋の近代的窯業はグラフに示す様に搖籃時代明治初年—三十五年、勃興時代三十六年—大正五年、擴張時代大正六年—昭和四年の三期に區分し得られる。日清戰役頃から基礎は固まり日露戰役前から

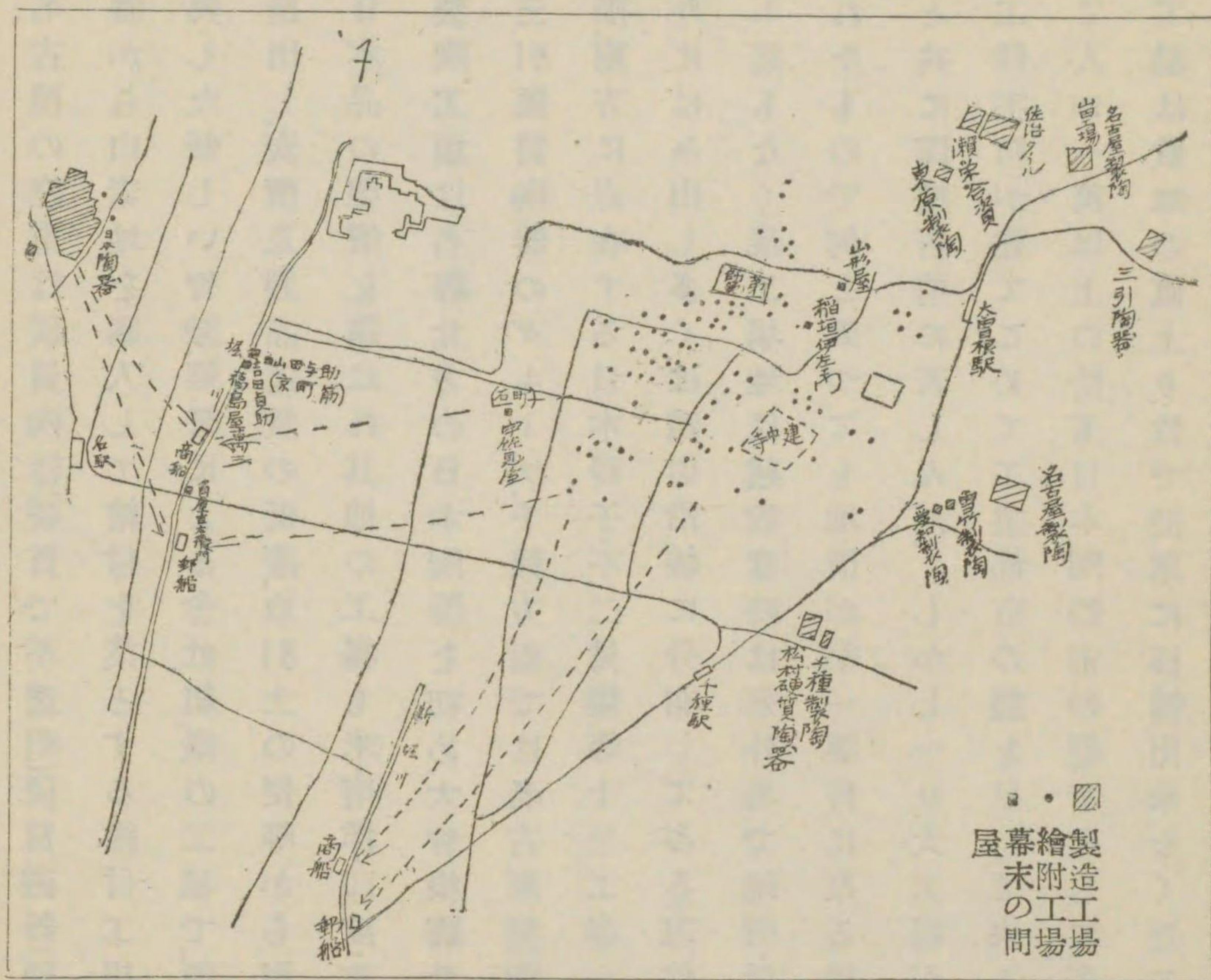


(二) 名古屋の窯業地帯

名古屋の窯業は硬質陶器(硬質で不透明)硬質磁器(硬質で半透明)タイル・磚子等の製造工場と、瀬戸、東濃から白素地を購入して繪付を業とする繪付工場とに二分し得る。前者は日露戦争前後から勃興した新しい智識經營による會社組織の工場で、原産地瀬戸を脱出して、水陸交通の要衝名古屋に進出し、炭價及製品運賃の低廉、取引上の便等から海外に發展し、日本陶器會社の如きは歐米市場に日本品の聲價を謳はれ、其他の工場も米南洋、印度支那、歐洲の市場に活躍してゐる。

製陶工場は名驛北方の日本陶器を初め、大曾根驛北方の名古屋製陶(山田工場)、佐治タイル、瀬榮合資、三引硬質陶器のグループ、千種方面では名古屋製陶(弦月工場)、雪竹製陶、愛知製陶、松村硬質陶器の一團、南方に点在する日本磚子、不二見焼等十三工場が三つの小グループをなして、何れも遠心的に郊外にはみ出し多くは鐵道沿線に分布してゐる(現代工業都市の工場分布に見る處と同様である)云ふ迄もなく、現工場地は建設當時は郊外地で地價低廉である上、交通、排水の便等の考慮から選定されたもので、何と云つても地價が第一要件になる様である。郊外に建てられた工場は都市の膨脹と共に煤煙苦情に苦しんだ。しかし一旦大工場が建設されるとその附近は安い住宅地になり職工住宅町が建てこめて工業都市の觀を呈して來る。例へば日本陶器附近は其他の工場も併立して人口一萬以上の恰も日本陶器市の觀を呈して、名古屋の主要なる一部を構成した。かうなると工場は敷地の値上り位で簡單に移轉出來なくなる。市としても市税激減、人口減等多大の損失を免れないから延いては煤煙の苦情から引留め運動に轉換をよぎなくされる情勢にある。

布分の屋問舊・場工付繪・場工磁製



次に繪付工場は分布圖に見る様に城東の一區域に大部分密集して約百五十を算し、販賣業と名づける問屋約百が略同一地域内に分布して、窯業地帯を構成してゐる。白素地購入の割合は東濃6、瀬戸4の比で販賣業者が購入し自工場又は専屬の繪付工場に送る。繪付業者は多くは小資本で販賣業者の賃仕事を請負ふのである。繪付には轉寫筆寫ゴム印等あり。家庭工業として市外迄も出される。そして繪付業の發達に關係深い一事は九谷焼の畫工を招いて金爛焼を造つた事にある様で、石川出身の畫工が多い。製品は大部分輸出品で近時輸出減退の爲國內向製作が次第に増すあつて輸出業者の手によつて堀川新堀川沿岸の郵船商船會社へ運ばれ、ハシケによつて名港の本

船に積まれる。

(三) 繪付業地帯發達の原因

瀬戸は瀬戸物專業の地として發達したが惜しい事には家内工業的小工場が多く、こゝにも資本の合同が痛切に感ぜられる。従つて仕事が分業的で、食器一揃全部造る様な工場は比較的少く、コーヒー碗、皿、ミルク入といった様に別々の工場で造る、而も白素地の半成品で名古屋へ發送されるのが多い。

何故瀬戸で完成されないかと不思議に思はれるが、瀬戸には貿易業者が少ない。名古屋には販賣業者即ち問屋があつて瀬戸東濃の素地を各工場から仕入れ繪付させる。その問屋の附近に繪付工場がある事が便利である。瀬戸東濃方面から完成品運搬の際破損して不揃となる不利を防ぎ、販賣上便利なる等から、直輸出業者販賣業者繪付業者三者が自ら密集して窯業地帯を構成するに至つたのである。

窯業地帯構成に至つた原因

1. 瀬戸、多治見兩街道の集合点に當り、藏元、問屋のあつた處その好位置と歴史的の因子を多分に持つ。

2. 藩政時代の廣い士族屋敷―相當廣い士族の屋敷―で町割が非常に大きく、六十間四角の碁盤割の處ですら二十間四方の會所カインシヨ後世カンシヨとなまつたが出來た位だから、この方面では裏に東西に長い空地が残り、近頃まで桑畑や森として寒寂な地であつた。住宅地帯である爲、商業地には適

せず従つて地價低廉好繪付業地帯を提供した。この点金澤の絹機業工場の分布と揆を一にする。

(四) 繪付工場移動の方向

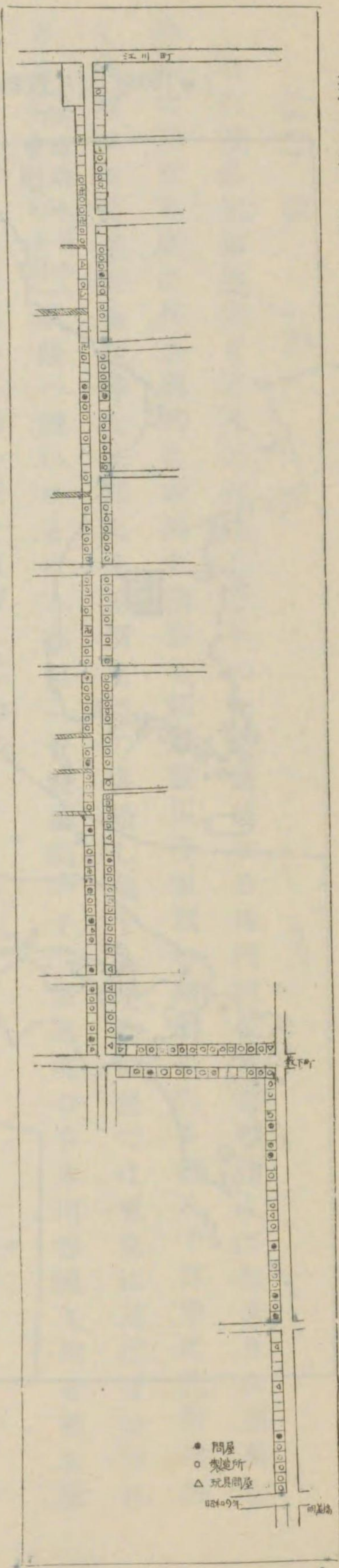
明治初年には鍋屋町が中心であつたが明治四十年頃相生町に北移し、次で種木町が輸出物の中心となつた。大正中期には中心は芳野町方面へ移動した。繪付工場は火器を厭ふ市民の聲から次第に白堀町方面の中心地から、杉村町方面の郊外に移動し出した。しかし電熱化して以來又現狀に止まる様になり。昭和初頃から東大曾根町方面に移動したものが多かつた。最近は矢田町に密集しつゝあり、又トラツクの發達に伴つて中川運河地帯に移つてはといふ説もある。

名古屋市新道町製菓地帯

(一) 沿革

新道町は文政の頃から駄菓子タビヤキの製造地として知られ、小資本で而も誰でも容易に出来る工業であるので次第に發達し、美濃伊勢方面から買出しに来る者も多かつたから、相當繁昌して居た。日露戦争後經濟界の發展によつて急速な發展過程に入り菓子屋が密集して我國稀に見る製菓地帯を構成した。明治二十五年頃、石川商店が製造業に問屋を兼營したのをエボツクとして漸次兼營者が増加し、更に進展して問屋專業者が出現して現在約五十戸の多數を見るに至つた。問屋業者が製造業から分業化した事は既に時代の要求に應じたもので、販賣方法もこれまでの

新道製菓地帯



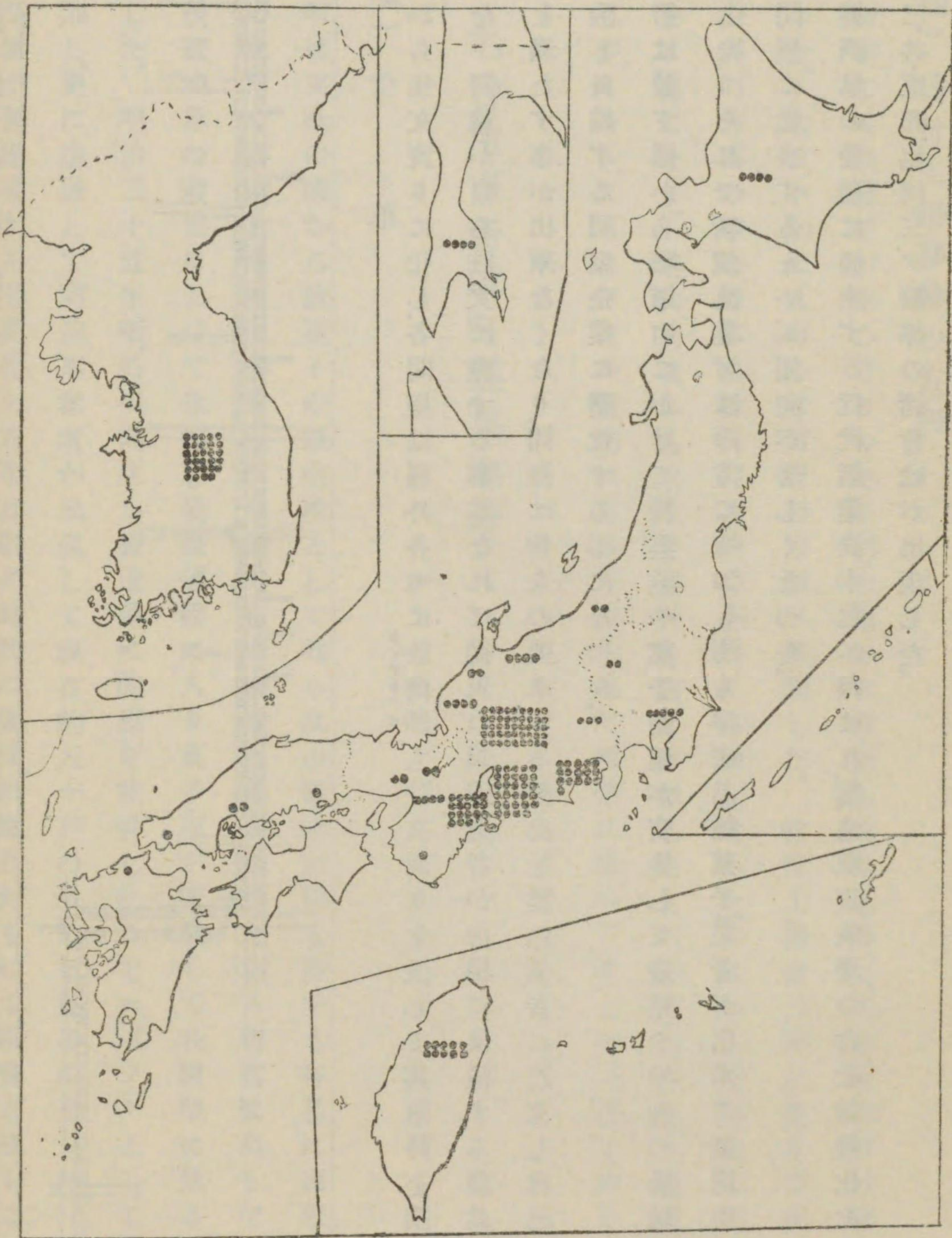
店賣りから注文賣りに化し、各問屋は縣外各地に旅商タビヤキ即ち注文取りを派して其販路を擴張する事となつた。問屋が自ら注文に應ずる事になれば従來の製造業者が市場に供給する製品では市場の希望を満たす事が出来なくなり、問屋は世人の要求する製品を製造業者に注文し自己の計算に於て危険を負擔する問屋企業に變化する事になつた。

新道町は藪下通から明道町にかけて製菓業や菓子問屋が密集して最早や増加の餘地がない位に發達した。それで新製菓業者は西方に増加し、而も半成品(種菓子)業者が出来て新道町はその完成品及問屋に従事するといふ傾向が著しくなつた。

更に經濟界の發達に適應する近代産業資本化が行はれ、製造販賣兼營の會社組織化をも馴致して、東海三共東邦協同三ツ輪等の諸會社が出現した。

かくて製品も日本古來の駄菓子から和洋乾菓子即ちビスケット、洋菓子其他の近代的製菓に進

名古屋ヨリ菓子發送噸數(昭和四年) (●100噸)



化した。

(二) 販路

名古屋は元來旅向きのものは造らなかつたが優越せる地理的位置を利用して旅向きの製菓を始め大正五年頃には全国的に販路を擴張し、關東震災後東京の地盤に入り込んで非常に發展増加し内地は勿論、滿鮮、臺灣、樺太、南洋にも安價を以て供給し、菓子生産高に於ては東京に及ばないけれども(明治森永等の大會社ある爲)販路の廣いことは本邦第一で、製菓高一千二百萬圓の中本州四國九州七割、北海道樺太二割、關東州朝鮮臺灣一割を販賣してゐる。

(三) 製菓地帯發達の原因

1. 江戸時代に名古屋は京都の菓子を模倣し、需要は西が主であつた。押切町は美濃街道及伊勢から津島を経て枇杷島に通ずる上街道の名古屋への通路に當り、多くの卸小賣商店が集つて、商業榮え交通の要衝であつた。この点大會根に似てゐる。
2. 菓子製造は交通路でなくてもよく、地價の安い新しい道路即ち新道に集合した。
3. 火器を使用するから、危険を伴ふので押切通を避けて新道へ集つた。
4. 同業が集合するのは販賣上原料買入上種々の便利がある。萬松寺筋の洋服屋、京町の藥屋、杉ノ町の古着屋の集合の様に同業集合の利益は認められる。

(四) 製菓地帯展延の方向

菓子屋町は最初押切町が多かつたが小資本の製菓業者は地價の安い新道町へ移轉し、次いで各

町に散在してゐた製菓業者も亦明道町から藪下町新道町へ密集して製菓地帯を構成した。現今ではビスケットの如き機械力による大量生産の會社が次第に建設され、又種菓子屋が次第に分化する結果益々安價な敷地を必要とするから、新設の製菓業者は櫻木町、南押切町、西菊井町方面の場末を西へ西へと突破しつゝある。將來は則武方面への展延を豫想される。

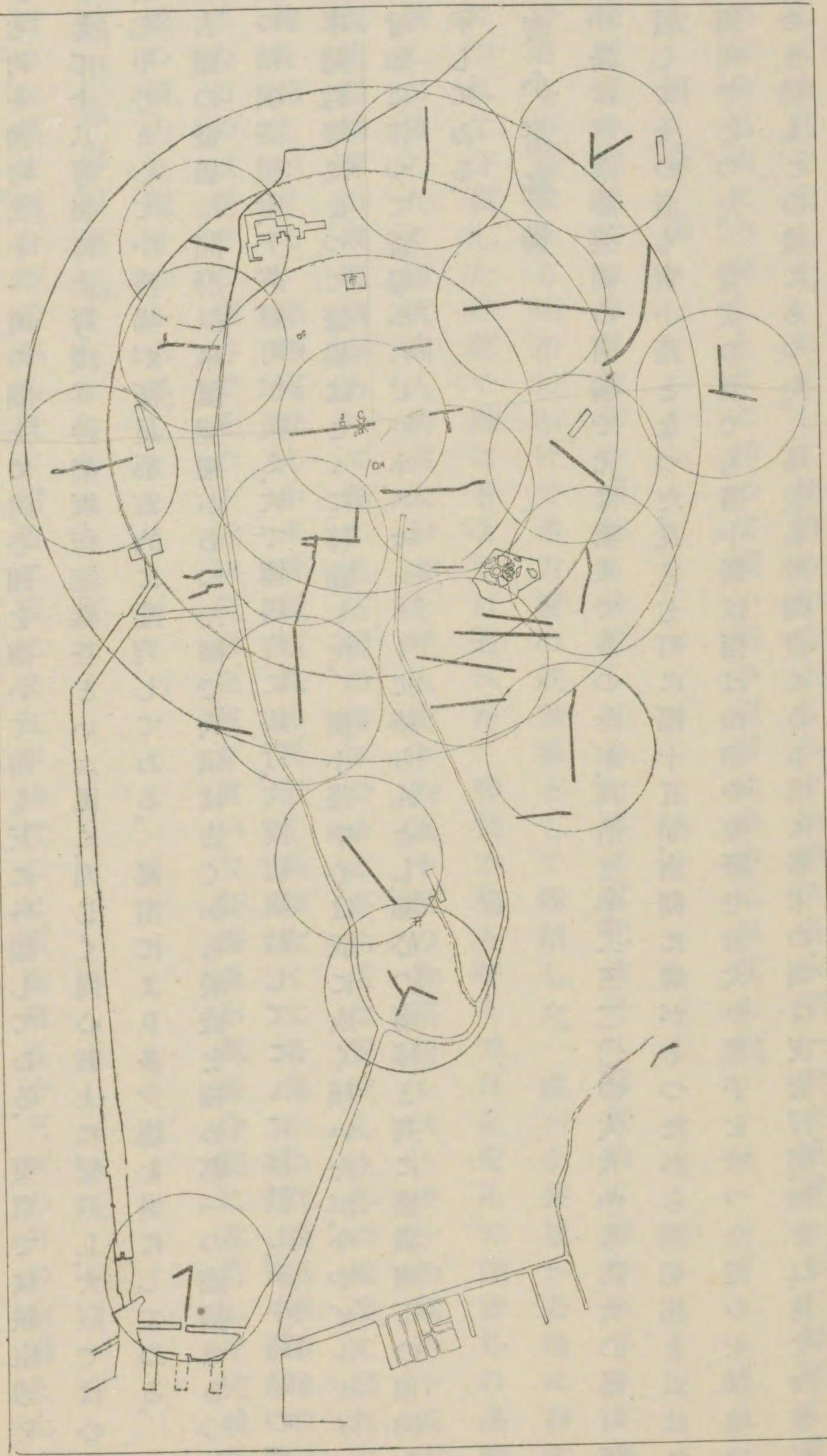
名古屋市の商店街

現代人は華やかな商店街を漫歩し、宏壯華麗なデパートの魅力を楽しみ、その華やかな気分の中で買物をする。

デパートや商店街はそれらの客を迎へるべく種々の技巧を凝らして榮華を誇るに對して、一方市民から見放されて日に寂れ行く町の群がある。一休日本の都市では約三割が商店人で占められ、英國の五分の商店といふのに較べると甚敷商店数が多いのに驚くが、これを裏書きしてか、近來商店数の整理と盛場造成運動が起つて着々實現されつゝある。

東京市の商業調査の結果から見ると卸小賣業者約七萬戸は全戸數四十二萬戸に對して約十七%に當り、一戸の平均利益一年百六十二圓しかない。最も數の多い菓子商は約八千戸で卸を加へると約一萬に近く、一戸當りの客の數は二百人にしかならない。その純利益僅に年二十二圓といふ驚くべき數を示してゐる。デパートに至つては本支店合せて十八を數へその資本金は他の小賣商總計の約五であるのに、利益率はデパート側一割四分に對して小賣商側三分三厘で却て四倍以

名古屋市の盛場



上の優勢を示し、デパートの目覺しい進出と活躍とは小賣商に對する大なる壓迫となつて、何處も同じく對デパート策を講じなければならぬ破目に陥つて來た。盛場の造成運動が起る所以も亦

こゝにある。

商店連檐の町を商店街といふが、盛場といふのは通り抜けの客ばかりでなく右往左往ブラツク

客の多い町で、幾らか享樂的な性質をも兼ねた町と云ひたい。

名古屋の盛場は廣小路を中心として大須・圓頓寺・鍋屋町・東陽町・大會根・清水・牧野・熱田・傳馬町等二十が七町、十四町、二十一町の圈上に同心圓を描いて而も互に外接してゐる。東京では銀座通を中心として十八町毎に上野・淺草・神樂坂・新宿・澁谷といふ風に、同じく同心圓上に配列し、大阪では心齋橋筋を中心として小盛場が衛星都市的に配列してゐる。都市により多少趣を異にしてゐる。

名古屋の盛場は開府以來屢變遷があつた様で大須は古くから殷盛を極め第一の盛場であつた。明治の初頃茶屋町、下茶屋町が榮え、次で傳馬町に銀行、大商店集結してこゝに移動し、廣小路通の擴張、電車開通等によつて盛場はこゝに移動した。廣小路中心は既に永く續いたが、今やビルディングの増加に伴つて盛場からビジネスセンターに移らんとし、都心の南移と共に盛場南下の傾向を明に示してゐる。

廣小路盛場

廣小路は所謂碁盤割の南端で元は場末であつたが、萬治三年(三二〇)の大火から防火の爲町幅を擴張してその名も廣小路となつた。長さ七町に幅十五間、南側に溝があつたから堀切筋と云はれて片側町であつた。寛文の頃でも廣小路以南は松原や田野で山犬が棄子を喰つた程の未開地でおしおき場もこの邊にあつた。尾張名所圖會にある様に幕末の頃は夜店行商、物まね、見せ物等が出て、名古屋の娛樂場として夜は殊に賑つた。明治十九年名古屋驛の出來たのを一期として驛前から廣小路までの大擴張を行ひ次で電車の開通を見るに及び名古屋市の玄關通として今迄の中心本町通と位置を換へた。交通商業の中心であつた茶屋町から伊藤吳服店、松坂屋が榮町に移り傳馬町から銀行の本支店が廣小路へ移動する。初は道路が廣過ぎて困つた様であるが、客の誘致策として夜店を出した。かくして經濟の中心となると同時に名古屋一の大盛場として繁榮した。現在松坂屋は南に移轉しそれに伴つて廣小路の盛場は南方に展延した。

大須盛場

大須觀音の門前町は享保元年の頃既に發達してゐた事は享元繪卷に寫實的に描かれてゐるので明であるが、幕末から明治にかけて名古屋の娛樂場として雜踏した。處が小盛場が各地に群立するにつれて分裂した状態で確に昔よりは衰へた。變裝市場と呼んで、日を定めて商賣外の品物を變裝して賣つたり、露天商人約百人が客を呼んだり、約五十軒の喫茶店、レストランの類や十五本の映畫館劇場等の娛樂場があつて確に名古屋の淺草であるが、生活は安定し永年の繁榮に馴れてゐる様な感じがする。東西南北の中央幹線道路に接近し、乗換なくて各地から往復出來る地の利を得てゐるのは絶好の條件で、その上近時三輪町線を貫いて新盛場が萬松寺筋に並行して完成を見、盛場の擴大を圖りつゝある。

熱田傳馬町盛場

熱田の宿場は鎌倉時代から既に諸書に現はれ、江戸時代には東海道五十三次の宮の宿場として最盛期に達し殊に桑名熱田間七里の渡船場として泊り客が多く、參觀交代の際は殊に賑つた。熱田は亦熱田神宮參拜客の爲一層賑つた様である。渡船場から上知我麻神社迄には本陣や上等の

宿屋が建並んで、宿場としての娛樂機關も設はつてゐた。宿屋は傳馬町から東へ中等下等と裁斷橋の東迄あつた。現在は渡船場附近は埋立てられ、傳馬町の兩側の溝は埋立てられて家が建ち、宿場時代から引續いた家も多くは、氷屋、酒屋、煙草屋などに轉業して當時の面影の存するものは少いが今でも二階の出張つた格子戸が僅に當時を物語つてゐる。

さしにも榮えた宿場町の衰微は御多分に漏れず、王政復古による封建の廢止と、鐵道開通による徒歩旅行者の激減は宿場の生命を絶つた。しかし傳馬町は發展會によつて南區中心盛場として復活した。

傳馬町の中心は一、二丁目、昔の宿屋、飲食店等の多かつた關係上、客の範圍はかなり廣く、澤上以南、西築港より山崎笠寺方面、知多郡北部等を含み、附近に工場地帯の接續するのと遠く郊外の農村客を持つことが強味で、三、四丁目は農村相手の商業街と認められる。昔の宿場町として榮えた神戸町須賀町も亦盛場である。

大曾根盛場

大曾根街道に沿ふて弘法井と呼ぶ井があつて今でも公共に使はれてゐるが、一帯の地は名古屋臺の坂下にある關係上、良好な飲料水を容易に得られるから餘程早く開けたらしく、瀬戸街道、下街道が集注して交通が頻繁になると宿場町として開け、更に瀬戸、多治見方面の窯業發達につれて、陶磁器集散の中心として、車馬の往來が盛であつた。明治時代の繁盛の中心は阪上町、坂下町で瀬戸電以南である。これに北接して卵、甘藷、乾物、酒類、肥料、靴等の問屋町が今尙昔の下街道の名残を留

めてゐる。明治末年頃市電瀬戸電の全通前は名古屋中央部との交通が不便であつた爲瀬戸電沿線や附近の人は大抵こゝで日用品、食料品を求めてゐた。しかるに市電開通の際坂下町の間屋町を通すことを不利と考へて現在の町を通したことに瀬戸電、市電の全通によつて大曾根方面の人迄も名古屋中央部へ自由に走つて坂下町は殆忘れられる程寂れ、明治末年頃を最後の華として宿場町は衰微し、それに代つて市電終点附近に人の集り易い好位置を利用して、新しい大曾根が出現した。郊外の人が集るに便な事と、飯田方面の工場地帯を後背地に持つこととは大きな強みで、近年夜店が賑はひ、漫歩者も増して來た。しかし乍ら飾窓ショウウインドウの數は未だも、映畫館僅に一つ娛樂機關には恵まれてゐないし、バスの守山延長は却大曾根には不利となつたと云はれる等盛場としての弱味をも見受けられる。

島退通盛場

鶴舞公園南方低地は大正の末俄に住宅化した新開地で、そこに四本の併行盛場が對立して競争の形である。何れも熱田線の停留所から新堀川を越え東郊線を経て御器所臺に延長する線で類似点を持つてゐる。

島退通は大谷派別院前を通り御器所町に通する主要線に當つてゐて、大正九年陸地測量部の地圖には未だ殆家並がない程の新開地である。商店種類の上から見ると次の様である。

總數

二〇三戸

シヨウウインドウ

五八(二九%)

菓子屋

一一(一〇・三%)

ネオンサイン

三(一・五%)

處誌

飲食店	一八(九%)
雜貨洋品呉服	二一
果物屋	五
娛樂場	四

學校地帯に近いため學生向の菓子、果物、飲食店、撞球場等が多いこと、この方面の商店は多くは廣小路、本町方面等中央の盛場から不況の結果移轉したものが多く、現代的なしつかりとした店が多いことが特色である。東方住宅地帯に向つて延展する。

盛場の發達と移動

名古屋の盛場は新興のものは暫くおき、古い町に就いて見れば、茶屋町、京町から中仙道に通ずる下街道筋に沿ふて鍋屋町、大曾根町があり、岐阜街道に沿ふて江川町がある。小牧街道には清水坂下に清水町、本町筋には門前町、古渡町、旗屋町、更に舊東海道に沿ふて傳馬町がある。

これらは主要街道に沿ひ早くから交通の要衝に當つてゐるので、人馬の往來が繁く、問屋や大商店が集つて商業の中心をなしたものが多く、盛場の基礎は早くから出来てゐたのである。

門前町、萬松寺筋の如きは門前町として發達したのであるが、他の盛場に於ても神社や寺院の祭禮等に門前に店を出したのが盛場の端緒となつてゐるのが少くない。殊に信仰の厚い社寺がある場合には顯著である。圓頓寺筋の如きこの例である。寺に關係した事で寺院境内が殷盛になるにつれ墓地が移轉され、墓地跡に劇場、映畫館の建設された場合には急速度の發展を見せて、最寂

寥な墓場から最繁華な盛場の中心と轉換するのである。大阪千日前はその好例である。

盛場造成の機運が熟して來ると商店街に混在する住宅は盛場を暗くするので高價に買收して明朗な盛場が建設され、一方住宅は郊外に集つて住宅地帯を作る。住宅地帯と盛場との中間には醫者、産婆、辯護士等が商店と共に建たぶ。そして住宅地帯の發展するに従つて住宅地帯寄りの盛場が距離の關係上、客を吸収し、遠い方の盛場は次第に寂びれる。結局客の爲に商店街が引張られて郊外に向つて移動する事になる。盛場が短い場合には延長される事になる。茶屋町、京町の賑ひが鍋屋町に移り、最近は更に東に移動して筒井町が中心となつたのや、圓頓寺が西部工業の發展、住宅の増加に伴つて次第に西へ伸展してゐるのがその例である。斯様に盛場は移動する。市街の發展する方向に向つて移動するのである。

名古屋の盛場は坂上よりは坂下の方に多い。廣小路の様に眞直よりは銀座通や神戸元町通の様な屈曲を持つたり、突當りがある方がよい。道中は六間を限度とする。交通機關と盛場との關係亦重要視しなければならぬ。乗換なしに往復し得る交通機關を各地に放射してゐる場合は最好都合である。都心に近い乗換場所に近接してゐる事も得策である。郊外電車の集結地のよい事は、近時郊外電車の起点にデパートを經營して成績を擧げてゐるのを見てもいかに便利なるものが時代の寵兒となつてゐるかを知らる事が出来る。但停車場前は盛場とはならない。工場地帯を後背地に持つことも亦盛場發展には好都合で圓頓寺筋は日本陶器方面の工場の發展と密接な關係が認められる。盛場に尤重要なるものは娛樂機關の完備である。大須はその實例である。

盛場の統計 (昭和四年)

市名	昭和四年人口	最高地價	人口當	飲食店その他店との比	飾窓ある店その他店との比
廣小路	五〇千人	二、三〇〇圓	五〇厘	南側一九% 北側二二%	南側七九% 北側七四%
大須	三二	九〇〇	三〇	一一	六八
圓頓寺	三三	四五〇	一四	一八	六〇
鍋屋町	三五	二〇〇	六	一一	四〇
傳馬町	二二	二二〇	一〇	一四	四二
大曾根	三一	一七〇	六	二二	二二
清水町	二〇	一三〇	七	六	三〇
牧野町	二七	一八〇	七	六	三二
江川町	二五	一五〇	六	二	四〇
古渡	三二	二五〇	八	七	三二
東陽町	八〇	二〇〇	二五	九	五七

盛場と地價

さて全國七十四都市の地價と人口との比例を石川氏が調査した結果
 人口一人に付地價一錢以上一錢五厘迄の都市 一〇
 五厘以上一錢迄の都市 二九
 二厘五毛以上五厘迄の都市 二五

二厘五毛以下一厘三毛迄の都市 一一

となつた。一錢以上の中にも二厘五毛以下の中にも大都會はなく、五厘から二厘五毛迄の間に有望な都市が含まれてゐる事は注目すべき点である。そしてこれを精査して

1. 都市の最高地價はその中心たる盛場の顧客の範圍を明快に示す。

2. 大都市が割合に小都市より地價が安い事。

を知り得た。即ち大都市は發展し初めると各所に小盛場が出来て中心の盛場を分裂する。結局大都市は幾つかの綜合都市である。名古屋は廣小路を中心としたグループ廣小路市大須市圓頓寺市鍋屋市大曾根市熱田市等と工場中心の日本陶器市等との綜合都市であると云ひ得る。そして各盛場の最高地價を人口で割つて見ると、全國都市の地價關係と略同じ數字になる。その中で人口當地價の高い廣小路や大須は電車・バスによる客を吸収して居り、他の小盛場は附近の客を相手にして居る事が判る。そして圓頓寺の如きはその中間の實力を持つて居る事が判る。廣小路に至つては結局人口二十萬の都市の一盛場でしかない譯である。

盛り場の盛り場としての力を見せるパロメーターは飲食店の類であるといふ。これは盛場本來の性質や銀座を見たらすぐ頷ける。廣小路圓頓寺大須傳馬町等それをよく示してゐる。飾窓の有無の割合も確にその力を示して居る様に思はれる。徘徊數は吸收力の量を示すもので大切な數字である。

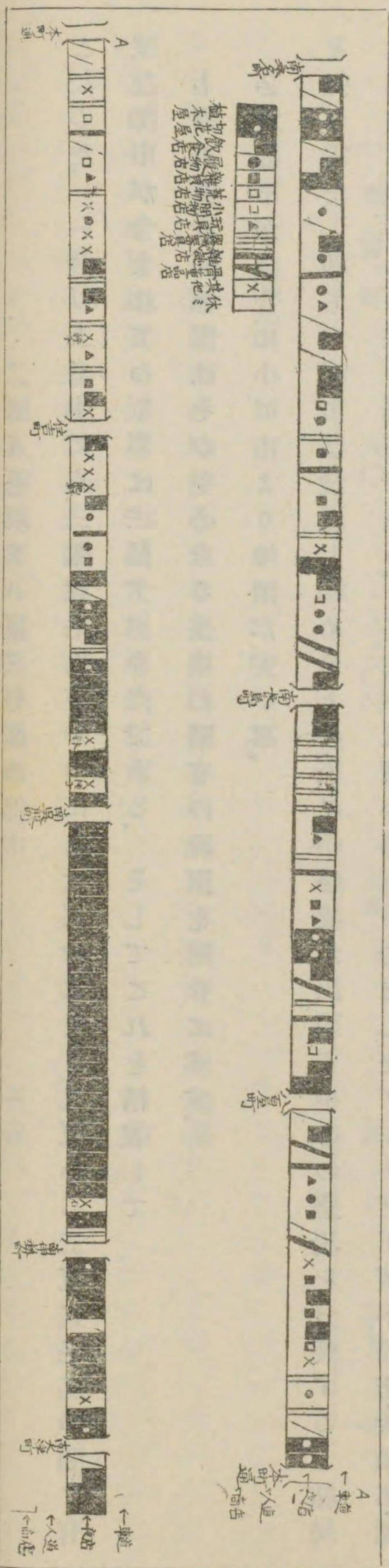
廣小路の植木夜店

夜の廣小路はショウウインドウ、ネオンサインの輝が散歩者の心を衝く。それに引きかへあまりにも貧弱な夜店が亦不思議にもなくてはならぬ存在である。廣小路通は道幅十三間半もあつて商店街の標準幅員六間の二倍に餘り、そのまゝでは兩側に目が届かず、一寸片側町に類した間抜けさがある。その欠陥を補ふべく人道をはさんで夜店が並列され、二列の商店街が形成される。夜店は尾張名所圖繪に描いてある様に現在とは趣の違つたものではあるが、徳川末期既に繁昌して名古屋名物の一になつた由緒あるものである。廣小路通開修後一旦廢絶したが、亦夜の客を誘

名古屋廣小路南側ノ夜店

(昭和七年十月一日調)

植木屋切花屋は密集して異彩を放ちその數58。他は密集せず飲食店25。廢物10。雜貨8。玩具7。器械器具19。あり。



致する爲に作られたものであるから、當時も今もその存在の意義に變りはない。近來廣小路にビルディングが漸く擡頭してビジネスセンターとなつて以來晝の股賑に引かへて夜の暗影を投げつゝある今日、夜店の持つ力は益々大を加へて來たと云はねばならぬ。夜店の擴張か、商店街の移動解消か、廣小路何れへ進まんとするのか。

さて廣小路の夜店は誠に種々雑多であるが中でも植木店約五十が榮町角から郵便局附近迄目抜き的好位置に集團的威力を發揮して、四季折々の清々しい情景を呈してゐるのは確に夜店の雄であり、廣小路の花である。

これらは團体を組織して市内東區二、八、中區二、三、西區四、南區八、海部郡八、中島郡六、計七十六人稍整然と配置される。千種方面の植木屋は地の利を得てゐると古くからやつてゐるので自ら中心となり毎夜出る者が最も多く、數量も多い。市内野立町から出すものも多い。平和村七寶村字桂方面からも相當多く出されるが、遠距離ではあり自轉車輸送の關係上鉢物よりは根包の植木が多く、規約に基いて切花と共に列の兩端に店を張る。

五月の調査では四十六軒の植木店の中、鉢物三二、サボテン二、根包植木七、切花五、その外種物、金魚屋等がそれに混在してゐる。

平和村から出る者は夕方迄に自轉車で運び十二時前後閉店して寝に就くのは午前二三時になるといふ。

七寶村桂は葛梅、福壽草、南天の産地で、賣れる時季と農閑期とを利用して春と十二月に盛に出す。

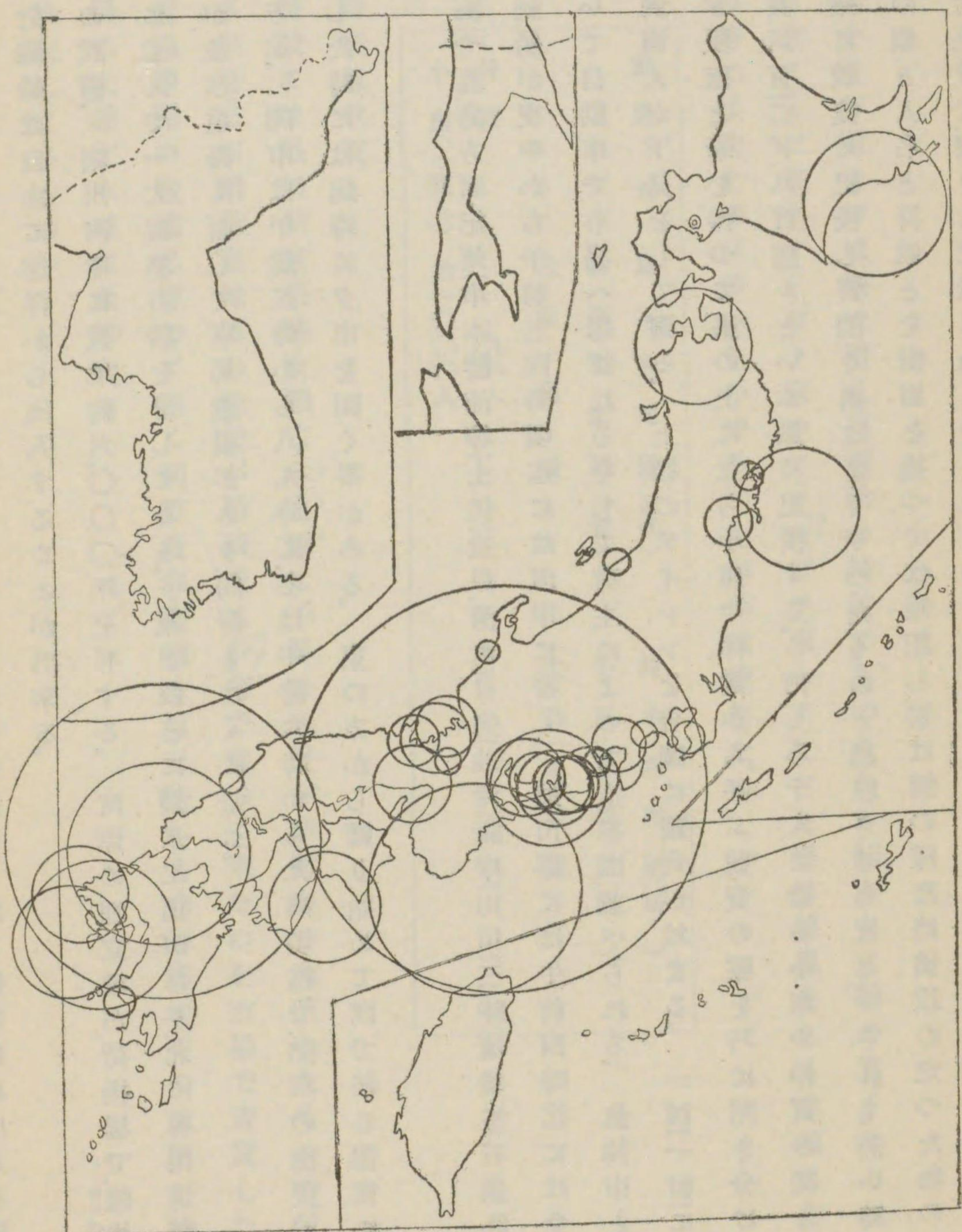
平和村は本業であり桂は副業である。かくて廣小路の夜店は專業者の外は毎日人も位置も變ると見なければならぬが、成功すると夜店には出なくなるし、世の流行の變遷と、近郊農業經營の推移につれて、種類と人とが次第に移り行く。

熱田魚市場

熱田魚市場は名古屋市を始として縣内及近縣各地へ鮮魚を供給する卸賣市場として最も主要な位置を占め、その由緒ある歴史と合理的經營とは全國魚市場の模範として、六大都市中央卸賣市場設立に當つて、その長所を採つて骨子とした程の市場である。

地理的位置。名古屋の發達に伊勢海の灣入がもたらした影響は少くないが、近海漁業中心の過去の時代約三十年前迄には瀬戸内海と同様に好漁場として極めて重要性を帯び、熱田魚市場の發達を促進せしめた。今でも伊勢三河兩灣、紀州方面の活イキと味のよい小魚の取引が多く行はれるのが本市場の特色として傳統されてゐる。遠洋漁業發達の今日になつても本州の中央部にあるから鐵道によつて下關三日目、青森四日目の短時日で上場され、敦賀方面には自動車の便が開けて焼津以西と共に、迅速低廉に輸送し來る。近時の船舶輸送の上から見ても鮪カツキ、旗魚、鯉、鰯等の豊漁地である和歌山縣高知縣、宮崎縣方面、朝鮮近海、三陸地方遠くは釧路方面からも比較的容易に運搬する事が出来る好位置にある。その上、長野、岐阜の内陸地への仲繼地として好適地である。現在の市場は七里の渡で知られた舊熱田港の西隣に當る堀川北岸の河岸カシで、六つの小棧橋に十

熱田魚市場鮮魚移入分布圖 (但30噸以上)



五噸乃至二三十噸級の買廻船が横附され、遠洋の二百噸級船は大瀬古橋の爲に出入不能であるけれども近海船は自由に遠洋から出入することが出来る。

市場の設備 堀川河岸に敷地約六、〇〇〇坪を有する。河岸の埋立地が荷揚場で、糶場は六棟が一直線に並んで一大市場の觀を呈してゐる。東と西とに製氷工場があり、北に専用道路、更に倉庫冷蔵庫が並び道路に面して車馬置場があり、問屋もこゝに並ぶ。

取引方法 開市は午前五時から八九時迄、冬は午前六時から九時頃迄で、熱田の漁民が鰯を多量に漁獲した時には臨時に夕市を開く事がある。東の方から糶り始めて西で終る習慣になつてゐる。

伊勢海や篠島方面、紀州串本勝浦等土佐(室戸、清水)日向(油津、薩摩)山川(三陸、塩釜、釜石)釧路方面を買廻る買廻船が夜中から午前三四時頃迄には河岸に着く。熱田驛には午前四時頃迄には急行の冷蔵車が着いて自動車で市場へ運ばれる、そして荷主によつて市場に並べられる。愈開市となると仲買や小賣商人が下見をして廻る。上揚のサイレンを合圖に糶賣が始まる。一棟(一軒)に十人以上の番頭が帳面と筆を持つて臺の上に立ち、小座や仲買から呼ぶ競賣の聲を巧に聞き分けて、二貫五百、二貫八百、二、八百、八百といふ風に記帳する。何しろ千人に餘る小座や仲買の顔と名を暗記して正確に敏捷に記帳し、賣捌く處はよくやつたものと感服させられる。それも若い時から仲買や小座の顔と人名と符號とを帳面を操つては暗記し、初は鯉の様な略値段の定つた物の賣方から次第に仕上げて、賣りも記帳も全く一人の責任でやる一人前となるのである。鮪やとんぼの様な

大形のもの切賣りし、普通の魚は十本位づつ賣る。何れも小賣人が賣り捌くに都合よく出来てゐる。

明治四十三年頃までは櫓で漕ぐ買廻船の時代であつたから開市中に船の着くことも少くなく、その着く度に「エビ來ヤア」「ボラ來ヤア」「生ボラ來ヤア」などと呼び聲勇ましく市場に告げ歩き、臨時入船の時には町を呼び歩いたのであつたが今は廢れた。

問屋	六	島本魚問屋(株式)	鈴木魚問屋(同)
		石原魚問屋(合資)	小貝魚問屋(同)
	④	魚問屋	大森魚問屋
仲買		九六人	
小座(小賣人)		約一〇〇〇人	

魚類の集散状況

藩政時代には熱田羽城、東脇、大瀬、古木之免、太子等の漁民が伊勢海で漁獲したものや、伊勢の沿岸地方、知多半島、三河灣沿海地方の漁民が船積或は歩荷で送つて來たのを市場で賣買したが、遠洋漁業並に交通機關の發達に伴つて、遠く朝鮮、近海、臺灣方面、三陸から北海道地方の魚類が陸路又は水路で市場に上場する様になつた。

1. 鐵道輸送によるもの

イ、山口縣地方(下關經由)

鮮魚の種類は鱒、鮭、石首魚、鱈、旗魚、大刀魚、鯛、鰯等。

ロ、九州地方主として戸畑、長崎經由

鮮魚の種類は旗魚、石首魚、鯛、鰯等。

ハ、臺灣地方(神戸及大阪經由)

鮮魚の種類は鯛、鮭、鮫、石首魚、旗魚等

ニ、奥羽地方主として塩釜、青森經由

鱒、鮭等の寒流魚多し。

2. 船積によるもの。

イ、伊勢灣。小魚類を主とする。交通機關の發達しなかつた時代には熱田魚市場の魚類は小魚を特色として賣買せられ、爲に名古屋市民の嗜好は古來小魚類である。漁民は熱田東及西築地の二一七戸と、三重縣下の伊勢海沿岸漁民及知多郡西岸のもので、その漁獲物を買廻船が集めて上場市場にかけるする。

ロ、三河灣方面。小魚類を主とし三河灣岸漁民の漁獲したものを七八噸級船で上場する。

ハ、紀伊半島(熊野方面)

鰹、鱈、鮭、秋刀魚等で鮭等の大魚も買廻り船で上場する。

ニ、臺灣方面。

旗魚は主として十一月、十二月、一月、二月に多く神戸經由五晝夜で熱田市場に上場する。

ホ、朝鮮近海。對馬方面。

主として烏賊、鯛(連子鯛)、旗魚、鮭等で二〇噸級の買廻船で上場する。

ヘ、九州南部沿海

油津を中心に十二月から三月にかけて鮭、鯛、秋刀魚の大漁がある。買廻り發機船二晝夜で熱田市場へ。

ト、四國沿岸(土佐)

鮭、鰹類を一晝夜半で熱田へ。

チ、三陸地方。秋刀魚を主とし鮭(一〇月―三月)旗魚、鰯等を買廻り船で送る。

リ、北海道方面(釧路南方)

七月から十月迄四ヶ月鮭の大漁がある。四晝夜を要して運ぶ。

又、樺太近海。

鱒、鮭等の寒流魚類を主とする。氷詰として買廻船で熱田市場へ上場する。

熱田市場に出入する買廻船は其數百五十隻で、五〇馬力二〇噸級を主とする。これらは何れも冷蔵庫の設備なく、氷詰にして輸送する。内海買廻り船は七八噸級のもの、外洋買廻船は最大三〇〇馬力二〇〇噸も極めて少數ながらある。二〇噸級の買廻船が大洋の波濤を押切つて優に北海道から西は五島、對馬方面迄も航行する。

船舶輸送は汽車自動車に比し稍多く五四%を占めてゐる。これは荷造費及小運送費の不要、手

數の小額等の利益より打算されるのであるが又、鮮魚は積換へたり動かしたりする度に甚しく外見を損じ従つて値段の下落を免れない船積と汽車積とは一見して分ると云はれてゐる。

近來尙燒津以西の鮮魚が、汽車積から自動車積に變るのや、敦賀方面の自動車積など陸路輸送に自動車の増加が著しく目立つ。それは濱松方面から三谷方面の汽車積は翌日賣になるが自動車積は當日賣になり、その上、荷損じもないなど自動車の方が運賃低廉で敏速有利であるからである。市場の特色。

一、熱田魚市場の取引方法は全國一と歎賞せらるゝ純粹の糶賣市場で、絶対に袖の下符牒賣等の秘密販賣の方法を用ひないから値段の不正がない。殊に古來活魚を本位として馴致發達したものであるから開市中品質の變化に最も注意を拂ひ、其取引も最迅速に行はれ何等不當の手段を行ふ餘裕もなく安價に消費者へ供給し得る。

二、熱田は古來傳統として問屋仲買小賣の三業制度により三者は連帶責任、連帶保證等の嚴格なる規約の下に互に情義を以て取引をした。

僅か十錢の取引でも現金賣を禁じてあるのは現金買であれば資本ある者は買ひ易くない者は買ひ難いからだ。金がなければ品は残る。仲買は是非賣らねばならぬから他地方に投資りする。他地方人は安價に買へるがこの都市では高く買はねばならぬといふ不合理が起る。仲買が問屋に對して支拂不能者の出來た場合は仲買が連帶で支拂ふ。小賣の場合も同じで決して問屋に損は掛けないから問屋は安心して買入れられる。

三、小座は仲買と同じ權利で買へる、だから安く買へる。

小座は仲買に所屬して金を立て換へて貰ふ。

問屋は荷主から一割三分の手數料を受け、仲買へ五分の獎勵金を渡し、仲買は小座へ二分の獎勵金を渡す規約になつてゐる。

名古屋港

(一) 名古屋港の沿革

大阪は瀬戸内に臨んで瀬戸内を支配し、港灣によつて異常な發展を遂げて居る。名古屋も亦伊勢海に臨んで伊勢海を支配し、港灣によつて非常に發展して居る。近時大阪、名古屋等の築港に倣つて港灣によつて都市の發展を圖らんとするもの多いは當然と云はねばならぬ。

名古屋築港の大成に到る迄には當局の人知れぬ苦心と多くのエピソードがある。七里の渡として知られた熱田港は水深僅に一米内外で、汽船の出入は殆不可能であつた。然るに名古屋市及後背地の産業は陸上交通と共に日に月に進み、日清役後の商工業の勃興は築港造築の機運を促し、明治二十九年縣會に提案された。當時濃尾地震の後ではあり、この泥海に築堤しても地震や津浪で倒壊するであらうとの疑念を抱く者あり、反對議員も相當あつたので、縣當局に於ても築港の成否につき半信半疑であつた。終に高島嘉右衛門の占易により初めて自信を得、大いに決心する所あり、熱田神宮へ祈願をかけて斷行した。當時の當局の苦心察するに餘りある。

第一期工事は船溜を掘り、防波堤を築いて三千噸級船の出入し得る様に計畫し、水面實に二六三萬坪の廣大なものであつた。監督船浚渫船曳船には尾三古英雄の幼名である日吉丸、竹千代丸、大千代丸、小六丸等をとつて命名する等周到なものであつた。

第一期の完成を見ない中に早くも、巡航博覽會船ロセツタ丸四千噸を四日市より廻航して假棧橋に横づけ、市民に衝動を與へた所など、奥田所長懸命の努力着々奏功して、明治四十年一期工事半にして開港する事が出来た。

第二期工事は六千噸級船(船溜二一萬五千坪)

第三期工事は一萬噸級船(船溜四六萬九千坪)をそれ／＼目標として漸次擴張し、次で中間工事として木材整理所、危險物取扱地の埋立をした。

第四期工事は本港將來を達觀して永遠の策を樹て、内務省臨時名古屋港調査會の審議を経て、水陸聯絡設備、危險物、石炭雜貨等の取扱地域の設定、木材搭載船、危險物搭載船溜の新設、船渠の新設、汽船溜の擴張(七七萬五千坪)一萬二千噸船を目標とする各種の擴張等を計畫し、内務省より多額の補助を得て着々實現し、尙その追加として海陸聯絡設備を主とする工事を急いで居る。岸壁は二號地に、西(外國航路用)中央(客船用)東(内國航路用)の三本、七號地に木材船用一本、十號地に石炭船用二本を築き、その總延長一六九〇間に及び、同時繫留船二〇隻となり、同時に碇泊すべき汽船六六隻、それらの荷役能力は岸壁二〇〇萬噸、船溜八〇〇萬噸合計一〇〇〇萬噸に達する。尙十號地及西築港より六、七、八、九號地に臨港線を設けて、以て貨物を迅速に、安價に荷役して名古屋及其の後背地の發展に資せんとしてゐる。

(二) 名古屋港の特色

人工的の港

熱田港は一米内外の淺海で自然のままでは港としての價値は殆無いものであつた。ここに於て浚渫と埋立と築堤とに主力を注いで造築した全然人工的の港である。その点大阪築港と類似の点が多い。類似点を次に掲げる。

- (1) Delta の先端にあり、淺海に臨む人工的の港。
- (2) 背後に山がなく防風に困難。
- (3) 海港であり運河(堀川)港又は河港である。
- (4) 背後に大工業市を控ふ。
- (5) 大阪に對し天然の良港神戸がある如く、名古屋に對し四日市がある。
- (6) 輸出港大阪に對し輸入港神戸がある如く、近頃までの輸出港名古屋に對し輸入港四日市がある。
- (7) 大阪名古屋共に國庫補助に頼らず獨力にて築成した、後には補助を得た。

名古屋港は大なる後方地域 Hinterland を有する。

四日市港は山を西北に背ひよく西北の季節風を防ぎ、水深相當に深く巨船の碇泊自由なれば天然の良港として早くより開港し巨船を碇泊するに足る。これ本港の強味である。

名古屋港は四日市港の強味に對しては遜色あるも、大工業市を控へ、本市の工業の發展は築港の

完成を促進せしめ築港の完成は工業の發達を助長せしめ兩々相俟つて發達を扶けて來た。物資豊富なる濃尾勢三の平原、静岡、長野の一部を勢力圏とせる廣大なる Hinter land を有し、殊に環伊勢灣帶の紡績業、綿織物業、毛織物業の發達は羊毛、綿花の輸入によりて益々多忙ならんとするの強味を有する。

されば四日市港は名古屋港の發達せし今日に於ては Hinter land 極めて縮少せられ三重縣を保つに過ぎず。仲繼貿易に於ても次第に減少する傾向がある。それは名古屋に陸揚するものを四日市港より舩船にて輸送すれば日數に於て二、三日、運賃に於て噸當一圓内外を増しその上名泗港間の保險料を要する等噸當り三、四圓の不利あるに因る。

陶磁器木綿織物の輸出港。

瀬戸・多治見附近の陶磁器の産地殊に西洋物の産出多い名古屋を後方に持つ關係上早くより陶磁器の輸出港として知られ、その輸出額は長く本港輸出品の首位を占めてゐた。然るに濃尾勢三平野の染織工業の發達に伴ひ、木綿織物は著しく輸出額を増し、昭和四年より主位を占めるに至つた。

羊毛の輸入港。

尾西毛織業地帯の門戸として約四千萬圓を輸入する。

出超より入超へ。

輸入の状況より見れば噸數に於ては大正七年まで、價格に於ては大正十一年までは出超を示し

て居た。然るに其後は噸價共に入超に變じて來た。この原因は種々あらんも從來四日市を輸入港とし名古屋を輸出港としたのが名古屋築港の完備と商工業の發達とは四日市を仲繼とせず直接輸入するものが多くなつたからである。昭和九年再び輸出超過を示した。

貿易の發達極めて順調。

明治四十一年より昭和六年まで二十三ヶ年間の内國貿易は數量に於て四倍強、價格に於て四八倍、外國貿易は數量に於て三四倍、價格に於て四二倍、入港船舶は隻數に於て三倍強なるも總噸數は十九倍となり、定期航路三十線以上に達し、日本郵船の桑港航路を除く外は殆寄港する様になり外國船も増加して來た。

經由	59,454千圓
大阪港	20,693
神戸港	2,276
横濱港	1,550
其他諸港	1,520
陸上	
計	84,913 (67%)
名古屋港經由	42,693 (33%)

参照名古屋港の輸移出額は更に減じて三三%にしか當らない。これは大阪、神戸、横濱方面の大貿易商、大問屋筋の手を経る永い間の習慣性に基くものであるが、一面名古屋の巨商が保守的で貿易方面に積極的に働きかけない事や、名古屋港は船便が悪く、大阪港出帆迄に七日―十日を要するから荷が遅れる等の欠陥があるからである。

本縣産の中陶磁器は殆名古屋港から輸出されて居るからこれはよいとして、輸出の大宗綿織物

を名古屋港より輸出すべく改善する事が必要である。それには

1. 名古屋に輸出商の出現して積極的に活動すること。
 2. 名古屋港に外國航路船の増加(現在一日二隻半)及名阪兩港間に於ける出帆日數の短縮。
 3. 現在の中小工業者の資本合同により名古屋に織物の大整理工場を建設する。
- 事が急務である。そして「名古屋の製品は名古屋港より」をモットーとして改善し、名實共に中央日本の貿易港たらしめたいものである。

(三) 名古屋港の景觀

築港一、二號地は商業地域で、電車通は港町らしく夜が賑ふ。海岸には港務所、税關、水上署等の官衙がある。岸壁には巨船が横づけになつて荷役をしてゐる。又この地域は縣營倉庫上屋を始め東陽、東神兩倉庫其他の密集地帯である。中川運河口には名古屋港驛があつて陸は石炭の黒山があり海は舢舨溜となつて居る。三、四號地には人造肥料會社、六號地には農林省の米の倉庫、三菱航空機、東邦電力、豊國セメント等の大工場が建ち並んで工場化して居る。五號地から八號地方面は三大貯木場があり、水面には材木整理所があつて材木地域をなして居る。九號地は石油タンクが並び、十號地は目下假の航空港となつて居る。港内には石炭船の荷役、材木船の木やり、歌渡、深船の活動等港の特殊の景觀が現れてゐる。かくて名古屋港は今や空海兩交通の中心となり、近時外國船の寄航次第に増加し従つて觀光客も増加して國際港の實を結ばんとして居る。

(四) 堀川

堀川は慶長十五年開鑿して以來、名古屋唯一の海への通路として、而も中央部に接近してゐる爲に、鹽溜、酒米、魚等の生活物資や木材及租米の通路として、又水軍の根據地として交通商業軍事に極めて重要な役割を演じた。今日も尙經濟上の動脈として欠くべからざるものである。

堀川沿岸朝日橋より港新橋に到る迄を五區に分ちてその地域性を明にしよう。

第一區(朝日橋より景雲橋)

長畝町は明治末年の頃まで外堀のあつた所、東方は師團に防げられて發展を見ず、南方の木挽町の延長と見るべく、材木、薪炭商が比較的多い。鹽町は知多新等の鹽問屋のあつた所であるが、今ではなく材木、薪炭商卓越地域である。

第二區(景雲橋より納屋橋)

木挽町は往時からの材木町で木挽の仕事場が残つてゐる。全町の過半は材木商で、材摺等の巨商多く國産及諸外國産の挽板上物の取扱ひが盛である。大船町は味噌、醬油、酒、肥料等の問屋町で、市民への生活品の供給地である。古風の倉庫老舗が昔ながら建こめてゐる。納屋橋北には愛知水産市場が慶長以來の俵を存してゐる。

第三區(納屋橋より岩井橋)

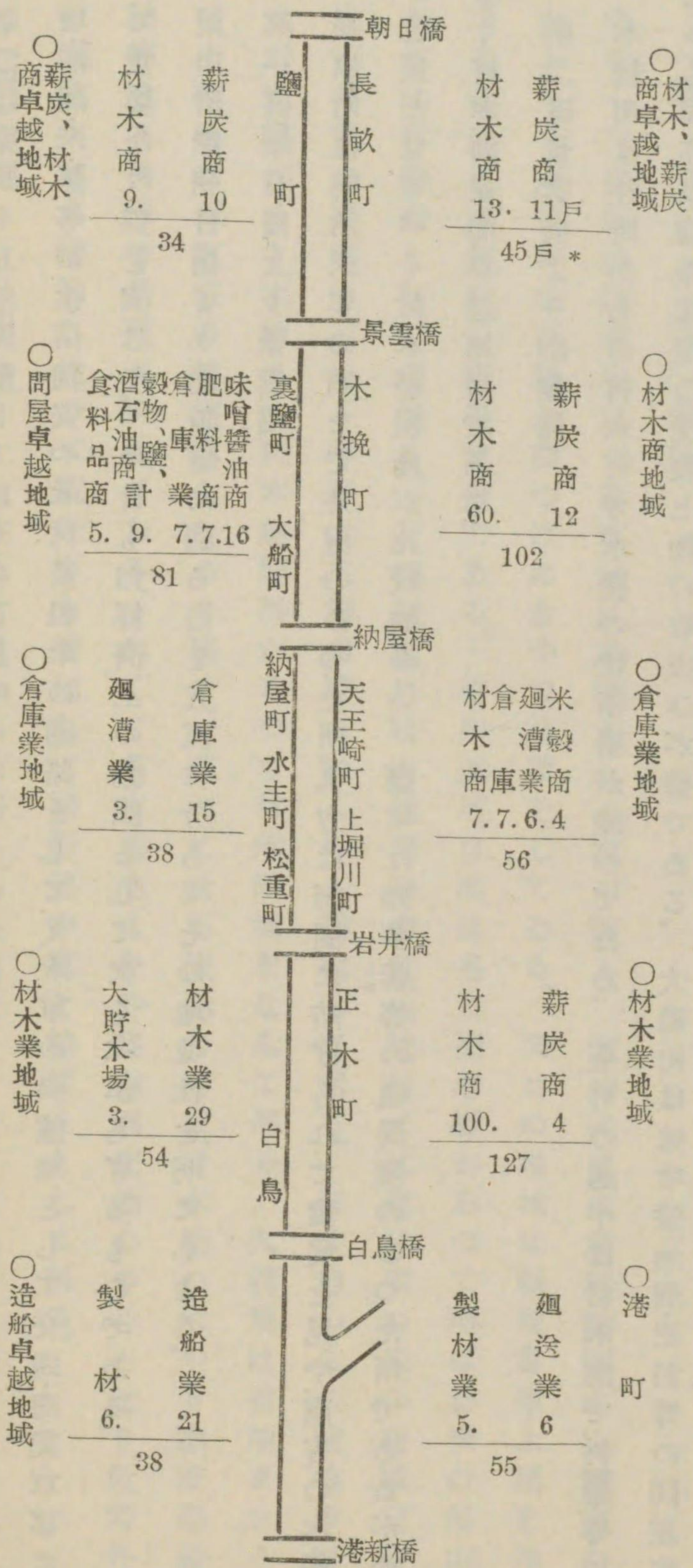
天王崎町は藩の藏屋敷であり、附近は水主の居住した所。今は宏大なる倉庫多く、郵船を始め廻送業も多く、東西兩岸とも倉庫業地域である。

第四區(岩井橋より白鳥橋)

この地域は重臣の下屋敷であつた所で貯木場多く、大部分材木商であり製材地帯の核心である。第五區(白鳥橋より港新橋)

七里の渡場燈臺の附近には今尙港町の名残を留め、その西方には由緒ある魚市場が賑ひ、それに獵師町が接して居る。港町以南の東岸は貯木場が多く、西岸は小造船町が密集して特色を現して居る。

右の地域に就いて主要職業構成を表示する。(※はその地域内の全戸數)



之によつて職業を吟味すると材木業は沿岸戸數の三七%を占めて斷然群を抜き、食料品商七%、薪炭商七%、廻漕業五%が主なものである。材木業は第二區及第四區の舊新兩材木業地帯に密集して堀川を最よく利用するものである。食料品問屋は第二區の西岸に群居して名古屋の食料品の門戸を司り堀川沿岸に於て材木業地帯と共に異彩を放つてゐる。

堀川の重要性。

堀川を貨物の輸送機關として數量的に見新堀川臨港線のそれと對比すると堀川は四六%を占め壓倒的に多數である。

臨港線	新堀川	堀川	大正十二年		昭和二年		昭和七年		
			出	入	出	入	出	入	
73	3	48	6	44	102	79	47	150	
計	113	6	54	16	58	115	129	64	169
計	105	9	62	14	58	100	119	67	162
計	噸万								

その主要貨物の動きは陶磁器材木石炭が主となつて居るが食料品も少くない。(單位萬噸)

新堀川	堀川	石炭	材木	磁器	鐵類	砂糖	原石	米
30	19	25	4	3	6	7	4	5
66	3	5	1	1	3	6	7	5
計	1	4	1	1	3	6	7	5

堀川は材木業のみならず燃料、食料の輸送輸出品の通路として欠くべからざるものである。然るに製材業地帯があつて筏の通行と繋留との爲に通船は容易でなくなつた。中川運河はこの欠陥を補ふに甚だ役立つもので、中川運河松重開門から堀川へ抜けると時間に於て甚だ短縮される。

(五) 中川運河

名古屋港背面にある廣大なる工場地域に五本の運河を開鑿して水運交通の便を圖り工場を誘致して絶好の工場地帯を形成せんと企の第一歩として最好位置を占める中川運河を開鑿した。現在では筏を通さない事や、地價の關係から工場の密集するに至らないが將來中小工場の集る傾向がある様に思はれる。それよりも名港と名驛や名古屋の中心部との重要な通路として行詰つた堀川に代つて活用される時が來る様に思はれる。

名古屋市の商圈

——東、京、市、大、阪、市、の、商、圈、と、の、境、界、線、の、決、定——

汽車で東海道を旅行中、新聞を買ふ時、静岡で朝日と云へば東京朝日を呉れるが、京都や神戸では大阪朝日を呉れる。名古屋や濱松では東京ですか、大阪ですかと尋ねる。これは静岡は東京の商圈に屬して東京の新聞が多く讀まれ、京都神戸は大阪の商圈に包含され大阪朝日が多く讀まれ、名古屋、濱松はその中間にあつて、兩方の新聞が讀まれるからである。

それによつても分るが我が國內地には東京、大阪の二大商圈が對立してゐる事は周知の事實で

その境界線は、故山極二郎氏が關東震災前の材料に基き、大正十四年に定量的に決定發表した。即ち富山縣魚津、飛驒山脈、長野縣野尻、木曾山脈、静岡縣新居町(濱名湖)を連ねる一線を以て境界とした。而して關東震災後經濟界の變動に伴ふて中央線方面に於ては塩尻、松本地方が二大勢力の境界となつた事、並に名古屋の商圈が兩者の中間に存在して居て三都を比べたなら面白い關係がある事をも附記して居る。

名古屋の商圈が東京、大阪二大商圈の中間に介在して居る事は一般の定説となつて居り、商人の間に於ては商圈の擴張に常に努力して居る事を耳にする。しかしながら數量的には研究發表されて居ないから明瞭ではない。本章は名古屋の商業上の勢力と東京並に大阪の勢力との内國に於ける境界線を定量的に決定して、名古屋の商圈を明瞭にせんとしたものである。

本論に入るに先だち、前提をして置く。

一、商圈といふ話は色々の意味に解釋されて居るが、本文に於ては名古屋と東京、並に大阪との商業上の勢力の境界線を決定するを主眼とする。従つて大体取引貨物の廻數の比を基本とし、其他の地理的事實を參酌して境界線を決定した。價格は廻數よりも重要であるけれども實數を得る事が至難であるから、參考に資するに留めた。

二、名古屋の發送荷物は、鐵道、自動車、船の三者がよく利用されて居る。東京、大阪に於ても恐らくこれに近いものであらう。して見ると三者廻數の総合的比較をする必要が起つて來る。しかし名古屋、東京間には船及自動車は錯綜して居らぬ。又名古屋、大阪間に於ては船及自動車

が稍込入つて居るが比較的少量でもあるし、輸送廻數統計の依るべきものがないから主として鐵道廻數によつて決定した。

三、三都は純粹の地理的區劃によらず、行政上の區劃によつた。

四、名古屋發送荷物及通信の統計は昭和五年を主とし、驛役所商工會議所調査の分は昭和六、七年を主とした。

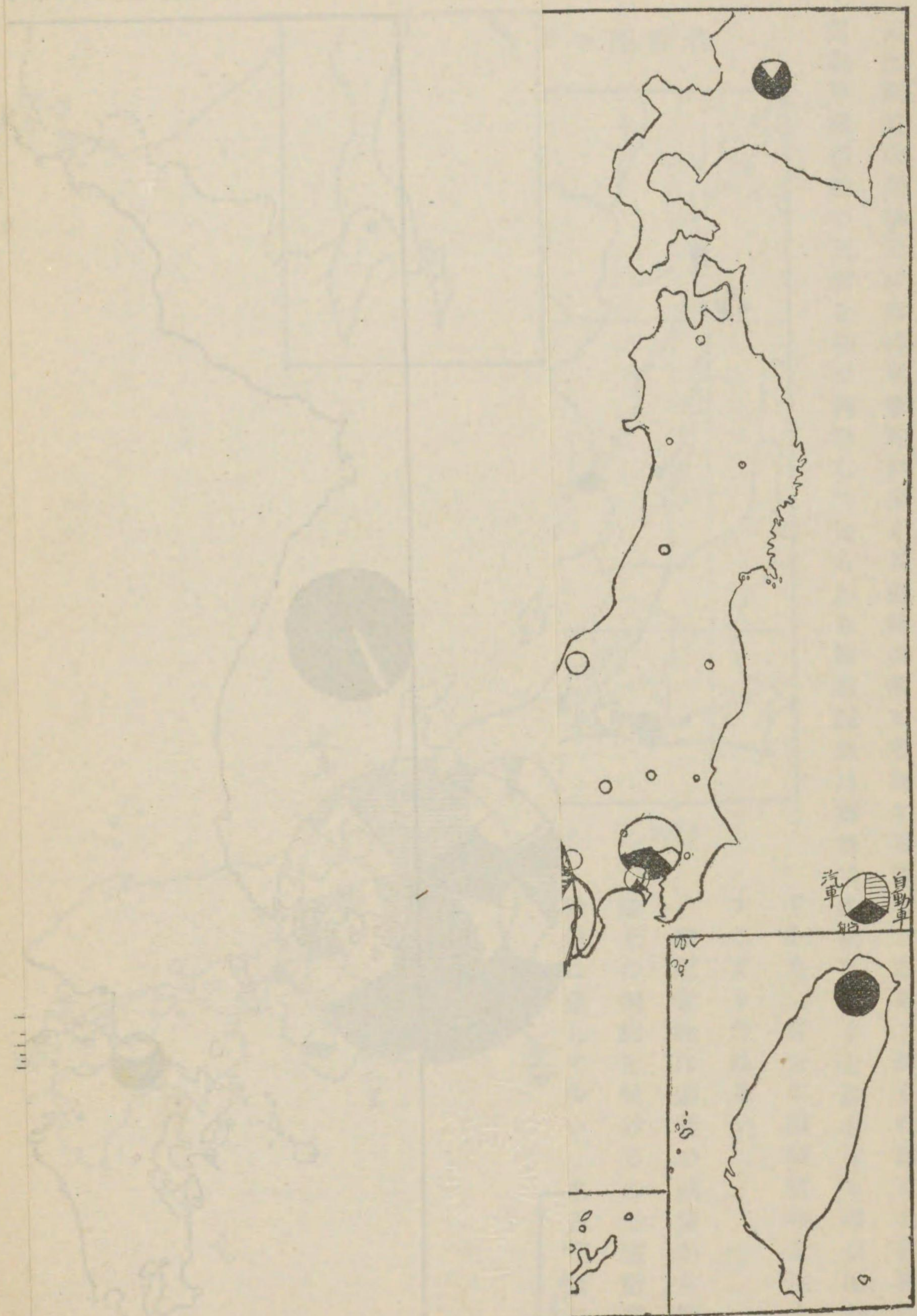
(一) 發送貨物廻數より見たる名古屋の商圈

研究の順序として先づ、名古屋の商圈のアウトラインを掴み、荷物の輸送機關を吟味しなければならぬ。

名古屋市役所調査の貨物集散概況によれば、名古屋市發送荷物府縣別廻數は、愛知岐阜三重に壓倒的に多く、静岡長野亦卓越して名古屋の勢力に包含されて居る事を示し、之等に次いで近畿北陸の諸府縣東京朝鮮福岡等は商業關係が稍濃厚である事を示して居る。

名古屋より近縣への輸送機關は愛知縣内へは道路及伊勢三河兩灣の水路の發達から自動車、鐵道、電車を含む船が略均等に利用されて居る。岐阜縣へは鐵道と自動車によるものが多く、船は河運のみであるから少い。三重縣へは最近迄木曾川揖斐川下流に架橋がなく、自動車は大垣を迂廻しなければならぬ關係にあつた爲に、自動車によるものは少なく、伊勢灣岸に臨む爲に運賃の低廉な水運によるものが壓倒的に多い。静岡縣は鐵道、自動車を併用し、水運關係のない事が目立つて居る。名古屋發送荷物の輸送機關を概観すると、海上交通の比較的不便な、奥羽地方北陸地方は主

名



が稍込入つて居るが、比較的少量でもあるし、輸送吨數統計の依るべきものがないから主として鐵道吨數によつて決定した。

三、三都は純粹の地理的區劃によらず、行政上の區劃によつた。

四、名古屋市發送荷物、及通信の統計は昭和五年を主とし、驛役所商工會議所調査の分は昭和六、七年を主とした。

(一) 發送貨物吨數より見たる名古屋の商圈

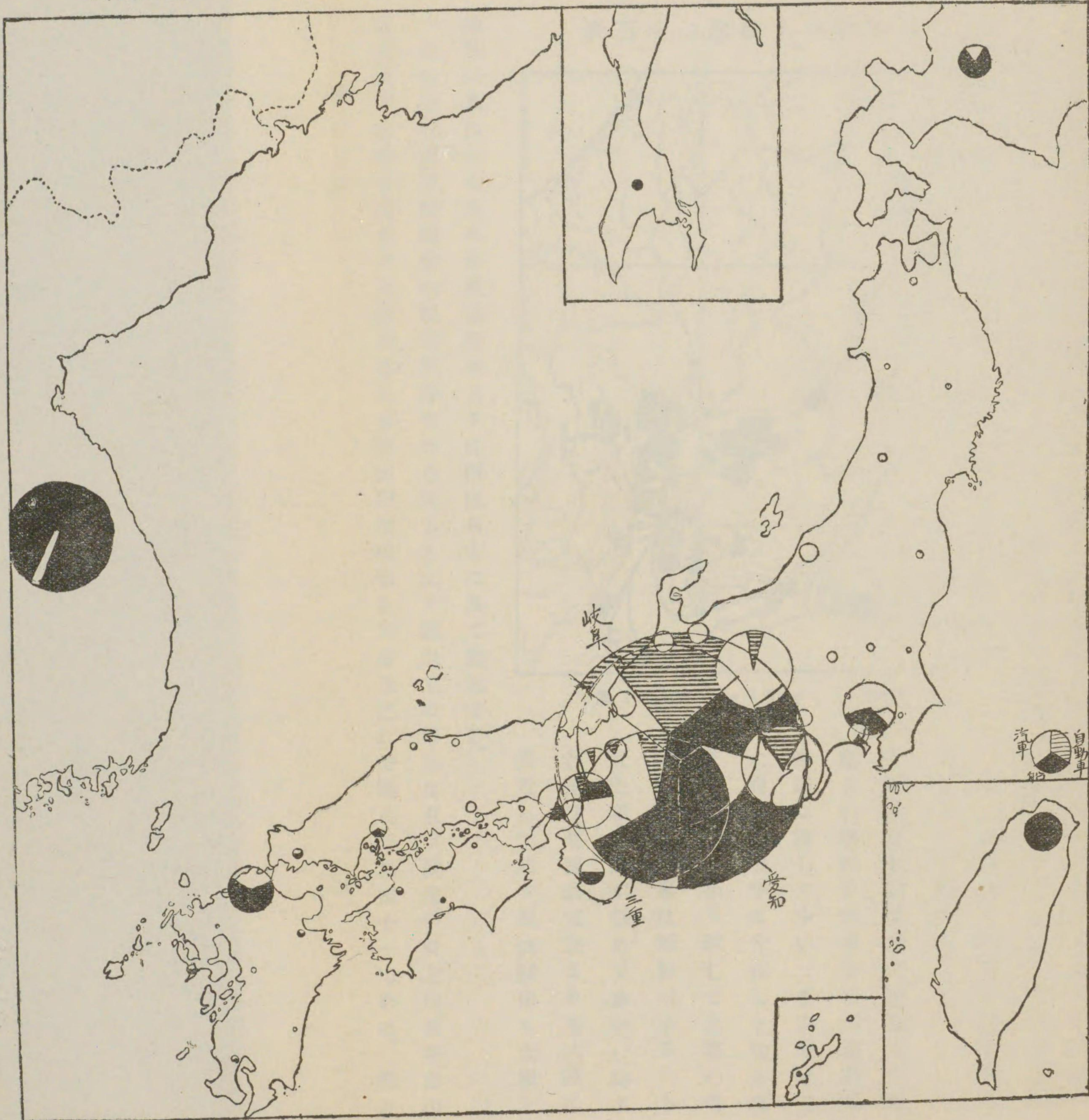
研究の順序として先づ、名古屋の商圈のアウトラインを掴み、荷物の輸送機關を吟味しなければならぬ。

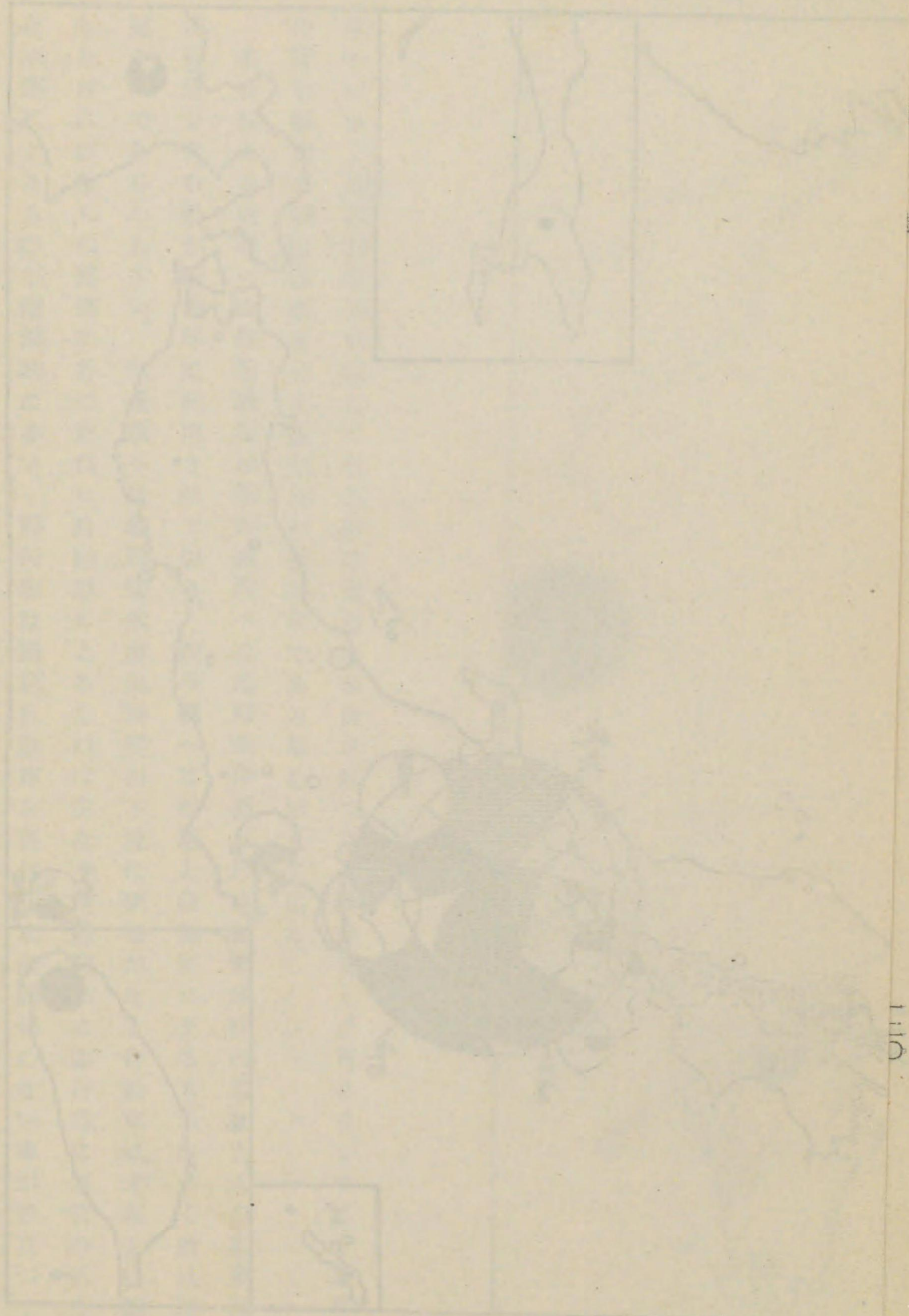
名古屋市役所調査の貨物集散概況によれば、名古屋市發送荷物府縣別吨數は、愛知、岐阜、三重に壓倒的に多く、静岡、長野亦卓越して名古屋の勢力に包含されて居る事を示し、之等に次いで近畿、北陸の諸府縣、東京、朝鮮、福岡等は商業關係が稍濃厚である事を示して居る。

名古屋より近縣への輸送機關は愛知縣内へは道路及伊勢三河兩灣の水路の發達から自動車、鐵道、電車を含む船が略均等に利用されて居る。岐阜縣へは鐵道と自動車によるものが多く、船は河運のみであるから少い。三重縣へは最近迄木曾川、揖斐川下流に架橋がなく、自動車は大垣を迂廻しなければならぬ關係にあつた爲に、自動車によるものは少なく、伊勢灣岸に臨む爲に運賃の低廉な水運によるものが壓倒的に多い。静岡縣は鐵道、自動車を用し、水運關係のない事が目立つて居る。名古屋發送荷物の輸送機關を概觀すると、海上交通の比較的不便な、奥羽地方、北陸地方は主

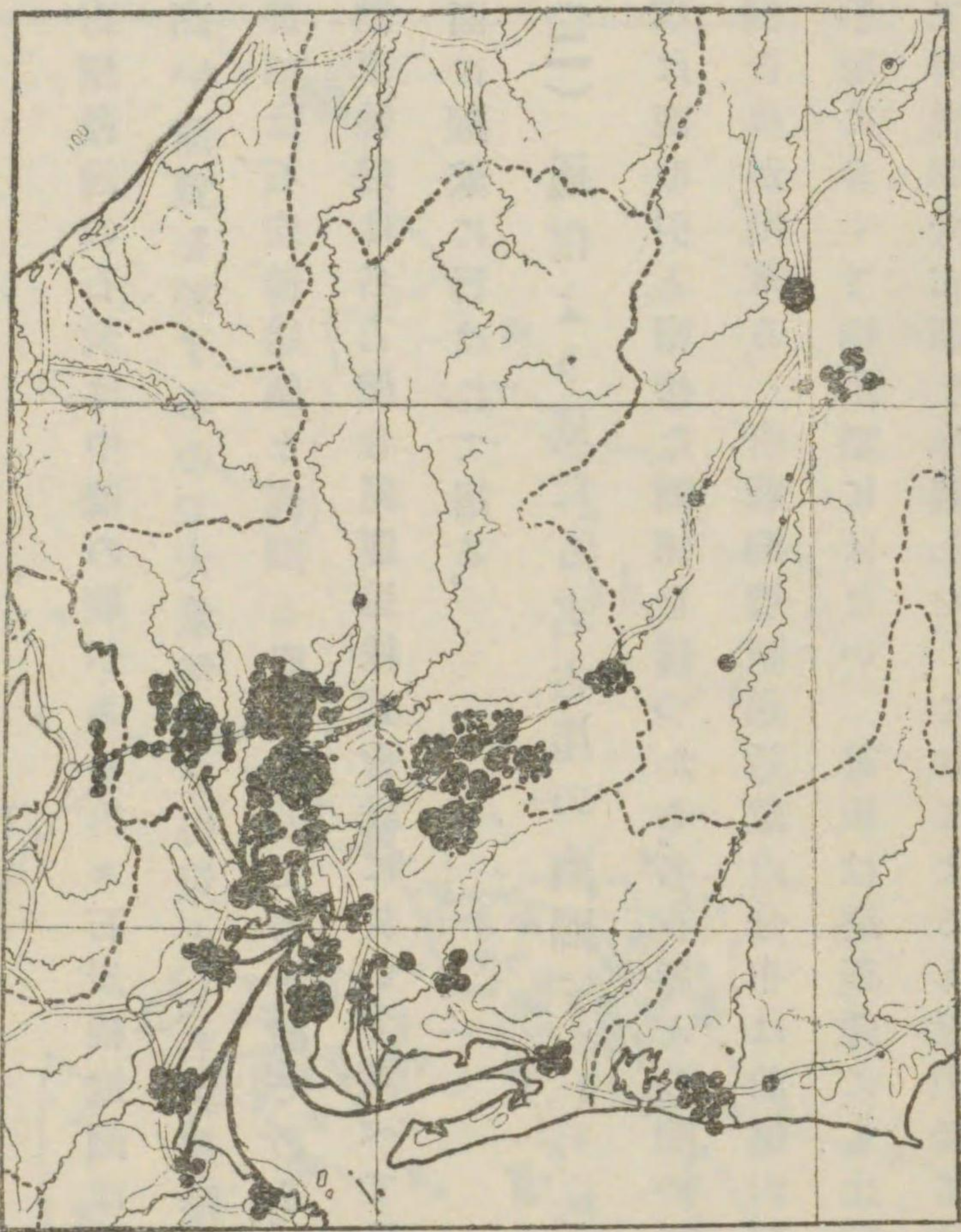
名古屋市發送荷物吨數府縣別分布

(昭和五年)





名古屋送炭石ルス



● 10,000噸 ● 1,000噸 ● 500噸

として鐵道により、良港灣に富み海上交通の便な近畿山陽四國九州は海陸兩運による所が多い。又比較的近距离では自轉車輸送が多く且近時次第に増加する趨勢である。かくの如く名古屋は自動車鐵道船の三者を巧に利用してゐるから輸送關係は複雑で、適確な數字を綜合する事が至難である。従つて鐵道貨物を主とするより外はない。

鐵道貨物は運賃の關係から距離上の制約を受けるので遠距離輸送は概して少い。名古屋は大商圏の中間に介在して居り、東京や大阪を通り越して之等の商圏に喰入る事は困難であるから近距離輸送が極めて多い。尙名古屋の位置が東京よりも大阪と接近して居り、經濟關係も大阪と

濃厚であるから商品亦東北日本よりは西南日本に多く發送する。

名古屋發送荷物總數の都市別分布から見ると、二千噸以上の都市は東京、横濱、甲府、上田、長野、富山、高岡、金澤、福井、京都、神戸、大阪、和歌山、宇治、山田、濱松、清水、沼津及之れで圍んだ都市十一である。殊に

岐阜、大垣、濱松、松本へは卓越して名古屋の商圏をよく暗示して居り、静岡、長野、福井、金澤、富山、津、宇治山田へも相當の勢力を伸展して居る事を示して居る。

枇杷島青物市場よりの發送生野菜は中央線、北陸線及東海道線方面に多く前者と略一致して居る。

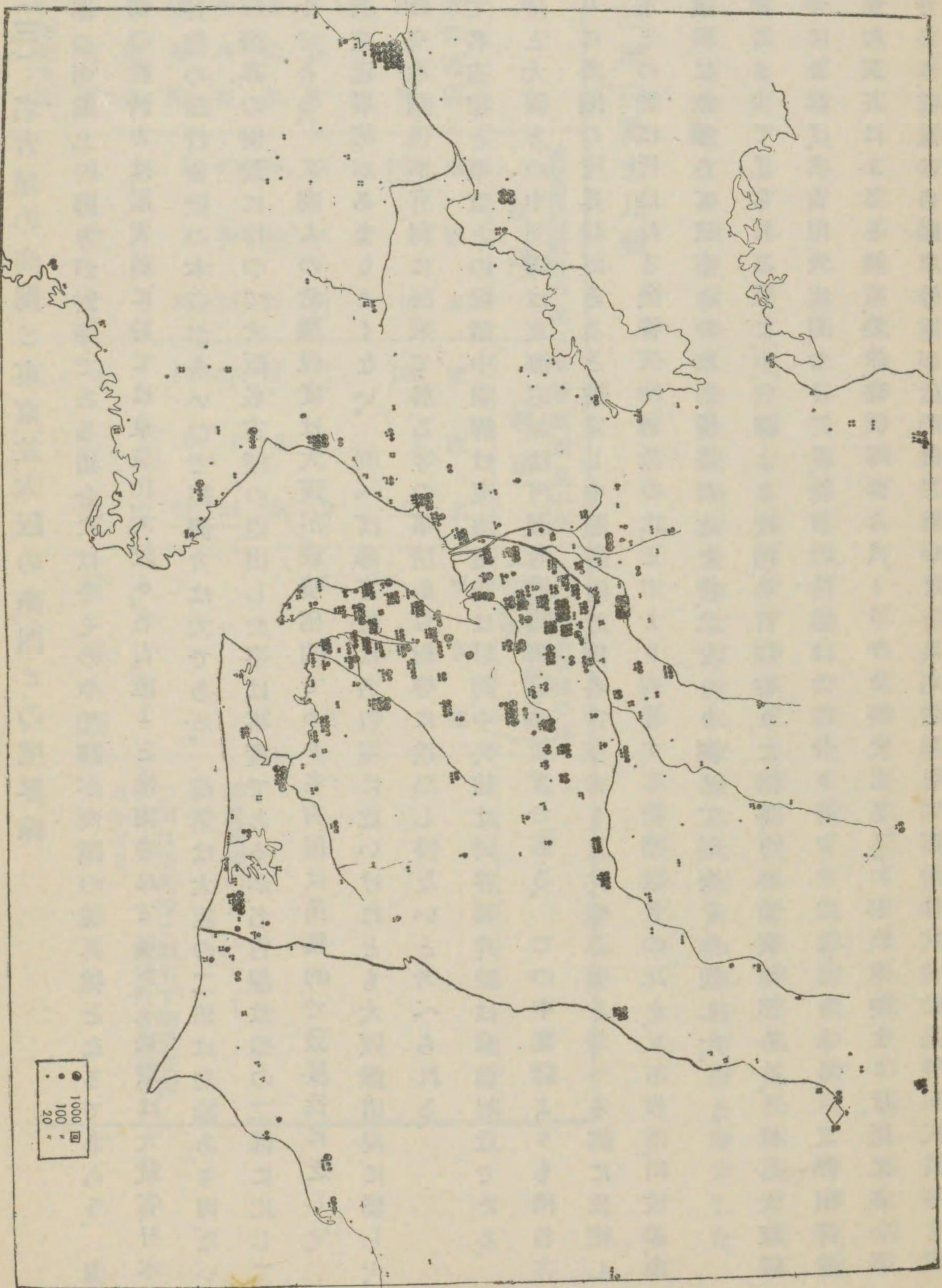
名古屋發送の石炭は中繼の觀がある。抑々石炭輸送圏は必ずしも商圏と一致しないが、石炭は重くて高い運賃を要するので大量輸送を得策とし、名古屋港に移入して鐵道輸送をする關係上名古屋に於ては石炭輸送圏と商圏と略一致してゐる様である。木材販賣圏亦之に類似して居る。

自動車輸送は名古屋合同運送株式會社に於いて調べて見ると一宮、岐阜、大垣、高山、中津川、飯田、濱松方面に頻繁に行はれて居る。

(二) 通信より見たる名古屋の商圏

通信は商取引と密接な關係を持つから、名古屋との間に行はれる通信分布を調べると商圏の大体を掴む事が出来る。府縣別電話通話數の分布は前述の發送荷物通數と略一致して居る。電話は近距離に多くて遠距離にはない。電報は遠距離にも比較的多い。そこで電話、電報の回數を綜合して府縣別分布圖を作製した。これによると近距離に於ては前と大差なく、取引關係の濃淡がよく現はれる。更に各局別に名古屋市との通話分布を調べて見た。すると東は天龍川を越えて中泉、袋井方面に、信州は飯田、諏訪平、松本方面に、飛騨は高山に、西は長濱、彦根に、伊勢は龜山、津、松阪、宇治、山田に、熊野灘は尾鷲方面に及んで名古屋の商圏をかなり明示して居る様である。

名古屋市と市外各局との通話分布 (昭和五年十月分)



(三) 名古屋の商圏と東京並大阪の商圏との境界線

三都の商業上の勢力が對等である場合には略その中間驛が商圏の境界線となるであらう。處が三都の經濟力は震災前に於ては東京10、大阪5、名古屋1と推定されて居た。東京は大藏省、日本銀行其他の銀行會社の本店が多いので經濟力は大である。商業は大阪の二倍は勿論あり得ない。其後經濟界の變動に伴つて大阪、名古屋の進出した事は事實であるが名古屋は他の二都に比して甚敷小である。又商人の活躍程度は大阪が最積極的であり、名古屋は消極的で發展性に乏しい。その上交通系統があまりよくない。例へば參宮線は名古屋に近いけれども大阪鐵道局に屬し大阪との交通關係が有利に出來て居る等の事情から對等に進出し得ないと考へられる。

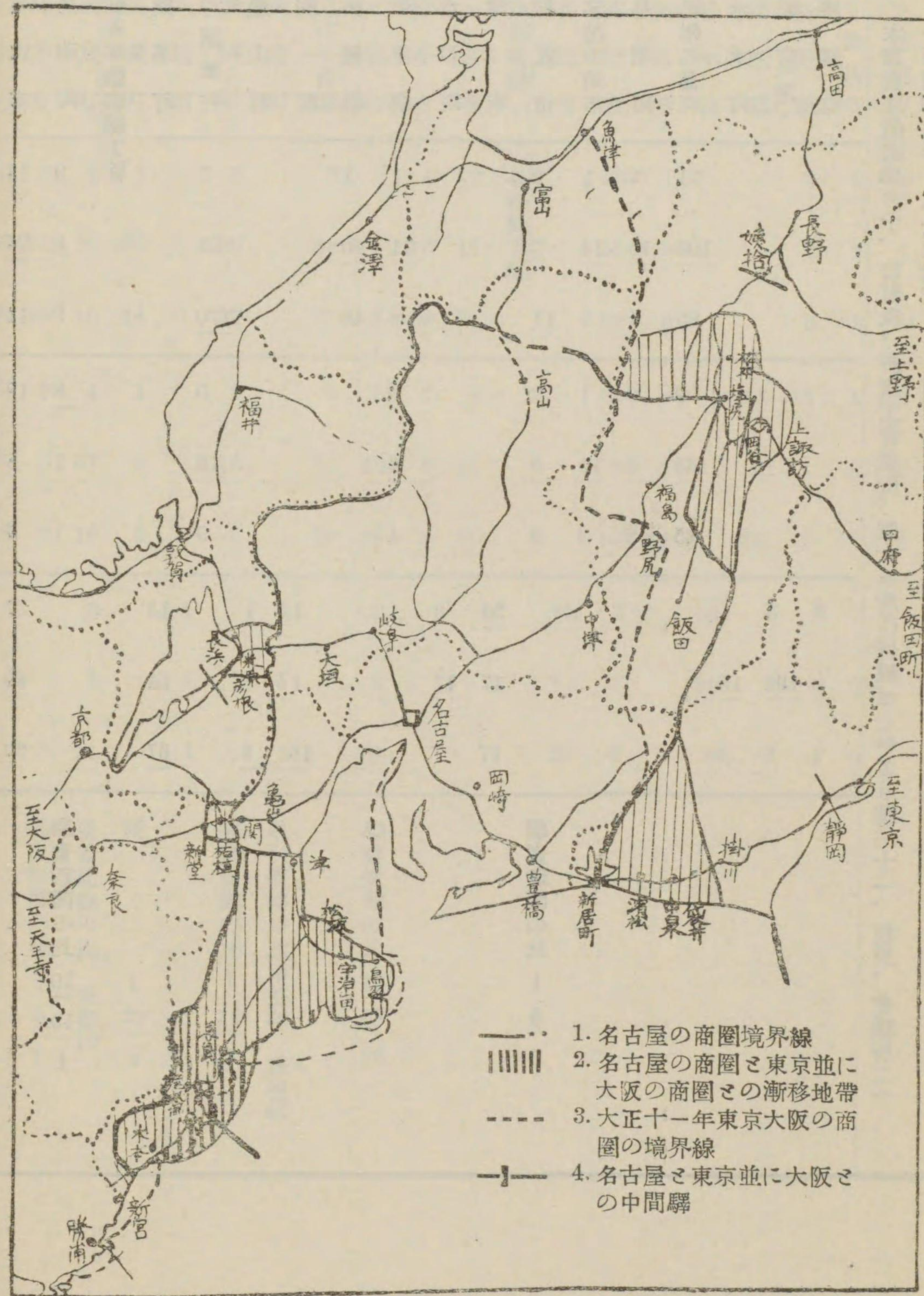
さて名古屋と東京との鐵道中間驛は東海道線は静岡、中央線は岡谷、篠井線は麻績附近である。名古屋と大阪との中間驛は東海道線は河瀬附近、關西線は新堂である。この中間驛よりも稍名古屋寄りに商圏の境界線があると推定し中間驛附近、稍名古屋寄り及其他必要と考へる驛に依頼して、三市との間に行はれる發着荷物越數の比、三市より到着する新聞數量の比を、又市役所、町役場、商會議所に依頼して三市との取引價格の比を得、之をとり纏めて別表を作製した。

此表によつて見られる様に、中間驛よりは稍名古屋寄りに兩勢力の衝突地がある。但し大垣驛の報告によれば、名古屋、大垣間の日用品、雜貨の輸送は大部分トラックによる。又熱田驛着の鮮魚の調査によると舞坂、焼津、豊橋等からはトラック便によるものが汽車便よりは遙に多い事が明であり、前説の自動車輸送が近距離に多いこと及名古屋合同運送株式會社長谷川氏談等を考へ合せて、名古屋寄りの所はこの汽車發着荷物越數より遙に多い事となる。これらの事情や、地形等を考慮に入れて境界線を次の如く決定した。即ち新居町(濱名湖)より北へ進み、弓張山脈を通り伊那谷を斜斷し、木曾山脈を北上して塩尻に出で、高山の北方を横ぎり、越前美濃の國境より伊吹、鈴鹿兩山脈を南下して津に達する。而して舞坂、袋井間、塩尻上諏訪間、辰野、赤穂間、塩尻、松本間は東京との漸移地帯、近江長岡、長濱間、米原、彦根間、新堂、加太間、津、木本間は大阪との漸移地帯と推定した。

三都の勢力比較

中央線方面	發着貨物越數の比 (鐵道)							到着新聞量の比 (鐵道)							取引推定價格の比 (商會議所市町村役場)			摘要
	東海	掛川	袋井	中泉	濱松	舞坂	新居	豊橋	岡崎	東	阪	名	東	阪	名	東	阪	
	100	3	13	26	42	9	3	1	100	2	21	7	5	1	5	7	8	
	3	100	14	53	29	7	3	12	21	100	2	1	1	1	1	1	1	
	10	3	15	21	15	38	1	7	10	2	2	1	1	1	1	1	1	
	100	3	7	14	29	7	3	12	21	100	2	1	1	1	1	1	1	
	3	100	14	53	29	7	3	12	21	7	2	1	1	1	1	1	1	
	10	3	15	21	15	38	1	7	10	2	2	1	1	1	1	1	1	
	100	3	7	14	29	7	3	12	21	100	2	1	1	1	1	1	1	
	3	100	14	53	29	7	3	12	21	7	2	1	1	1	1	1	1	
	10	3	15	21	15	38	1	7	10	2	2	1	1	1	1	1	1	
	100	3	7	14	29	7	3	12	21	100	2	1	1	1	1	1	1	
	3	100	14	53	29	7	3	12	21	7	2	1	1	1	1	1	1	
	10	3	15	21	15	38	1	7	10	2	2	1	1	1	1	1	1	
	100	3	7	14	29	7	3	12	21	100	2	1	1	1	1	1	1	
	3	100	14	53	29	7	3	12	21	7	2	1	1	1	1	1	1	
	10	3	15	21	15	38	1	7	10	2	2	1	1	1	1	1	1	
	100	3	7	14	29	7	3	12	21	100	2	1	1	1	1	1	1	
	3	100	14	53	29	7	3	12	21	7	2	1	1	1	1	1	1	
	10	3	15	21	15	38	1	7	10	2	2	1	1	1	1	1	1	
	100	3	7	14	29	7	3	12	21	100	2	1	1	1	1	1	1	
	3	100	14	53	29	7	3	12	21	7	2	1	1	1	1	1	1	
	10	3	15	21	15	38	1	7	10	2	2	1	1	1	1	1	1	
	100	3	7	14	29	7	3	12	21	100	2	1	1	1	1	1	1	
	3	100	14	53	29	7	3	12	21	7	2	1	1	1	1	1	1	
	10	3	15	21	15	38	1	7	10	2	2	1	1	1	1	1	1	
	100	3	7	14	29	7	3	12	21	100	2	1	1	1	1	1	1	
	3	100	14	53	29	7	3	12	21	7	2	1	1	1	1	1	1	
	10	3	15	21	15	38	1	7	10	2	2	1	1	1	1	1	1	
	100	3	7	14	29	7	3	12	21	100	2	1	1	1	1	1	1	
	3	100	14	53	29	7	3	12	21	7	2	1	1	1	1	1	1	
	10	3	15	21	15	38	1	7	10	2	2	1	1	1	1	1	1	
	100	3	7	14	29	7	3	12	21	100	2	1	1	1	1	1	1	
	3	100	14	53	29	7	3	12	21	7	2	1	1	1	1	1	1	
	10	3	15	21	15	38	1	7	10	2	2	1	1	1	1	1	1	
	100	3	7	14	29	7	3	12	21	100	2	1	1	1	1	1	1	
	3	100	14	53	29	7	3	12	21	7	2	1	1	1	1	1	1	
	10	3	15	21	15	38	1	7	10	2	2	1	1	1	1	1	1	
	100	3	7	14	29	7	3	12	21	100	2	1	1	1	1	1	1	
	3	100	14	53	29	7	3	12	21	7	2	1	1	1	1	1	1	
	10	3	15	21	15	38	1	7	10	2	2	1	1	1	1	1	1	
	100	3	7	14	29	7	3	12	21	100	2	1	1	1	1	1	1	
	3	100	14	53	29	7	3	12	21	7	2	1	1	1	1	1	1	
	10	3	15	21	15	38	1	7	10	2	2	1	1	1	1	1	1	
	100	3	7	14	29	7	3	12	21	100	2	1	1	1	1	1	1	
	3	100	14	53	29	7	3	12	21	7	2	1	1	1	1	1	1	
	10	3	15	21	15	38	1	7	10	2	2	1	1	1	1	1	1	
	100	3	7	14	29	7	3	12	21	100	2	1	1	1	1	1	1	
	3	100	14	53	29	7	3	12	21	7	2	1	1	1	1	1	1	
	10	3	15	21	15	38	1	7	10	2	2	1	1	1	1	1	1	
	100	3	7	14	29	7	3	12	21	100	2	1	1	1	1	1	1	
	3	100	14	53	29	7	3	12	21	7	2	1	1	1	1	1	1	
	10	3	15	21	15	38	1	7	10	2	2	1	1	1	1	1	1	
	100	3	7	14	29	7	3	12	21	100	2	1	1	1	1	1	1	
	3	100	14	53	29	7	3	12	21	7	2	1	1	1	1	1	1	
	10	3	15	21	15	38	1	7	10	2	2	1	1	1	1	1	1	
	100	3	7	14	29	7	3	12	21	100	2	1	1	1	1	1	1	
	3	100	14	53	29	7	3	12	21	7	2	1	1	1	1	1	1	
	10	3	15	21	15	38	1	7	10	2	2	1	1	1	1	1	1	
	100	3	7	14	29	7	3	12	21	100	2	1	1	1	1	1	1	
	3	100	14	53	29	7	3	12	21	7	2	1	1	1	1	1	1	
	10	3	15	21	15	38	1	7	10	2	2	1	1	1	1	1	1	
	100	3	7	14	29	7	3	12	21	100	2	1	1	1	1	1	1	
	3	100	14	53	29	7	3	12	21	7	2	1	1	1	1	1	1	
	10	3	15	21	15	38	1	7	10	2	2	1	1	1	1	1	1	
	100	3	7	14	29	7	3	12	21	100	2	1	1	1	1	1	1	
	3	100	14	53	29	7	3	12	21	7	2	1	1	1	1	1	1	
	10	3	15	21	15	38	1	7	10	2	2	1	1	1	1	1	1	
	100	3	7	14	29	7	3	12	21	100	2	1	1	1	1	1	1	
	3	100	14	53	29	7	3	12	21	7	2	1	1	1	1	1	1	
	10	3	15	21	15	38	1	7	10	2	2	1	1	1	1	1	1	
	100	3	7	14	29	7	3	12	21	100	2	1	1	1	1	1	1	
	3	100	14	53	29	7	3	12	21	7	2	1	1	1	1	1	1	
	10	3	15	21	15	38	1	7	10	2	2	1	1	1	1	1	1	
	100	3	7	14	29	7	3	12	21	100	2	1	1	1	1	1	1	
	3	100	14	53	29	7	3	12	21	7	2	1	1	1	1	1	1	
	10	3	15	21	15	38	1	7	10	2	2	1	1	1	1	1	1	
	100	3	7	14	29	7	3	12	21	100	2	1	1	1	1	1	1	
	3	100	14	53	29	7	3	12	21	7	2	1	1	1	1	1	1	
	10	3	15	21	15	38	1	7	10	2	2	1	1	1	1	1	1	
	100	3																

名古屋の商圏



伊勢灣岸は水運の關係上名古屋圏に入るべきものと思ふが、鐵道發着荷物より見ると宇治山田、鳥羽は大阪の勢力が強大で、松阪は名古屋の勢力が強大といふ複雑な關係にある。その上水陸交通の綜合調査の材料がないので嚴密な判定は暫く留保して後日の研究に待つこととし、津木本間を大阪名古屋の漸移地帯と推定した。尙東京の外港横濱と名古屋との海上の境界は御前崎附近と推定した。

これら漸移地帯中の中心都市、松本、濱松に於ては東京、大阪、名古屋、三都の激烈な經濟戰が展開して商人は一步なりとも此境界線を突破しようと苦心して居る。故に經濟界の變動、商人の活動如何、交通系統の變動、取引系統の變化等によつて商圏は動く可能性を持つてゐる。而して名古屋は尾張大橋、伊勢大橋の架橋によつて伊勢方面に進出する可能性が出來、又高山線の開通によつて富山へ進出するに有利となつて、北陸方面の獲得に向つて進むべき機會が到來した。

(四) 結び

1. 名古屋の商圏は新居、塩尻、高山の北方、白山、伊吹、鈴鹿、兩山脈津を結ぶ地域である。袋井、舞坂間、上諏訪、赤穂、松本間は東京との漸移地帯で、近江、長岡、長濱、彦根間、新堂、加太間、津木本間は大阪との漸移地帯と推定した。

2. 海上圏は嚴密な判定は出來なかつたが、尾鷲附近が大阪との境界で、御前崎附近が東京の外港横濱との境界と推定した。

3. 東京、大阪の二大商圏は魚津、飛驒山脈、松本、木曾山脈、濱名湖を結ぶ一線を以て境界とする。名古屋

屋の商圏は略々この大阪圏内に位置する。

4. 三都の内地に於ける商圏の各の包含人口を推定すると昭和五年國調により漸移地帯を除く

東京圏

二八〇五萬人

四五%

名古屋圏

四四四

七

大阪圏

三〇三〇

四八

となり、大阪東京は何れも名古屋の六、七倍の顧客を持つて居る譯である。

5. 名古屋は東京及大阪との中間驛から平均四〇軒位づつ壓迫を受けて居る。獨り東海道沿線に於ては東京より一六〇軒も侵略を受けて居る。これは濱名湖が言語風俗習慣等の東西境界となつて同湖以東が關東式なるによる。

6. 東京は文化的に西侵し、大阪は經濟的に東侵してゐる。名古屋は大阪に類似してゐる。

7. 二商圏の境界線は運賃の關係上兩都の中間驛附近となる譯であるが、交通系統取引系統商人の活躍等の如何によつて凹凸が現れる。名古屋の進出すべき方向は東海道線上りと北陸線及信州方面と推定される。

8. 交通系統取引系統の變動によつて商圏は移動する可能性を持つ。

9. 名古屋の商圏を決定する因子は地形交通系統取引系統兩都間の距離等である。

名古屋市の都市計畫

名古屋市の慶長十七年の計畫(町割)になる所謂碁盤割が市の中樞となつて洪積層上に南面して發達し、後東海道線と中央線がY字狀に市の兩側に通じた爲に北部に廣く南部に狭いY字狀、漏斗狀の都市となつた。そして道路は碁盤割及其の附近が井然として居るから近年の都市畫計に於ては道路は擴張にて足り、従つて都市計畫上著しい特色を見出さない。次に計畫の要點を記す。

1. 道路網は市の中央部では二軒、他は四軒の間隔を以て擴張又は新設し、大體東西及南北線である。
2. 區劃整理組合を助成して郊外を整然と區劃せしめその寄附により十八間道路の循環線を設ける。

3. 交通量の大きな地方に對しては放射狀線を設ける。枇杷島に向ふものは青物市場の關係と、岐阜街道に當る爲で、名古屋驛より下の一色に至る十八間道路は下の一色が熱田と共に有数の魚市場なると中川荒子川兩運河の船溜並に名古屋驛に到着したる貨物を尾張西部、伊勢地方に運ぶ自動車道路たる爲である。この線は最特色のある線である。其他東海道、知多半島、瀬戸、犬山、西部尾張方面への道路がある。

4. 道路は名古屋驛、名古屋港に集中する。

獨逸式佛蘭西式等の如き中心を有する都市計畫は今日に於ては大都市としてはあまり採用せられざる由にて名古屋市にも中心とはない。然したゞ、名驛名港には道路稍々集中して將來の交通上の中心とならんとして居る。鐵道東海道線中央線は驛附近に工場を誘致し以て市街

を膨脹せしめたが今日に於ては都市膨脹の妨害をなして居る。これ中央線の高架式採用又は北方迂廻説の唱へらるゝ所以である。東海道線は枇杷島から堀川まで高架となる。

5. 運河は中川、荒子川、山崎川、大江川及各聯絡線の運河網の計畫を立て、中川運河既に名古屋貨物驛と直接聯絡し、工場地帯には多くの工場を誘致すべく、かくて工業の Canal の機能を發揮することが出来、水陸連絡は完全に行はれる。堀川、新堀川は商業用の Canal とする方針である。

6. 地域は商業、工業、住宅の三地域と未指定の部との四部に分ける。名古屋は主風は北西で夏期の季節風は南東であるから工業地域は商業住宅地域の風下になる様に地域を選定した。運河網地帯は理想的な工業地で、大曾根附近亦その適地である。

工場多数あるに不拘商業地域に接近し而も風上に當る所は未指定の部とした。名古屋驛を中心とする地帯が是である。この部分は新設工場は許さないが増設修繕は許される。

中部主要部には防火地區を設定して保安の道を講じて居る。

7. 公園計畫も既に樹ち大森林公園も實現した。

8. 昭和十年市の商工業の發達に鑑み、驛附近堀川沿岸築港附近、黒川沿岸は工業地域に変更し、商業住宅地域にも變更を加へた。

要するに名古屋市の都市計畫は街路網を作つて交通に便し、運河網を張つて商工業地としての機能を發揮せしめ、地域を設定し、防火地區を定め、公園計畫を樹て住宅の保安、安寧を圖るにある。更に一步進めて云へば名古屋を大工商都市たらしめんとするにある。

尾張平野

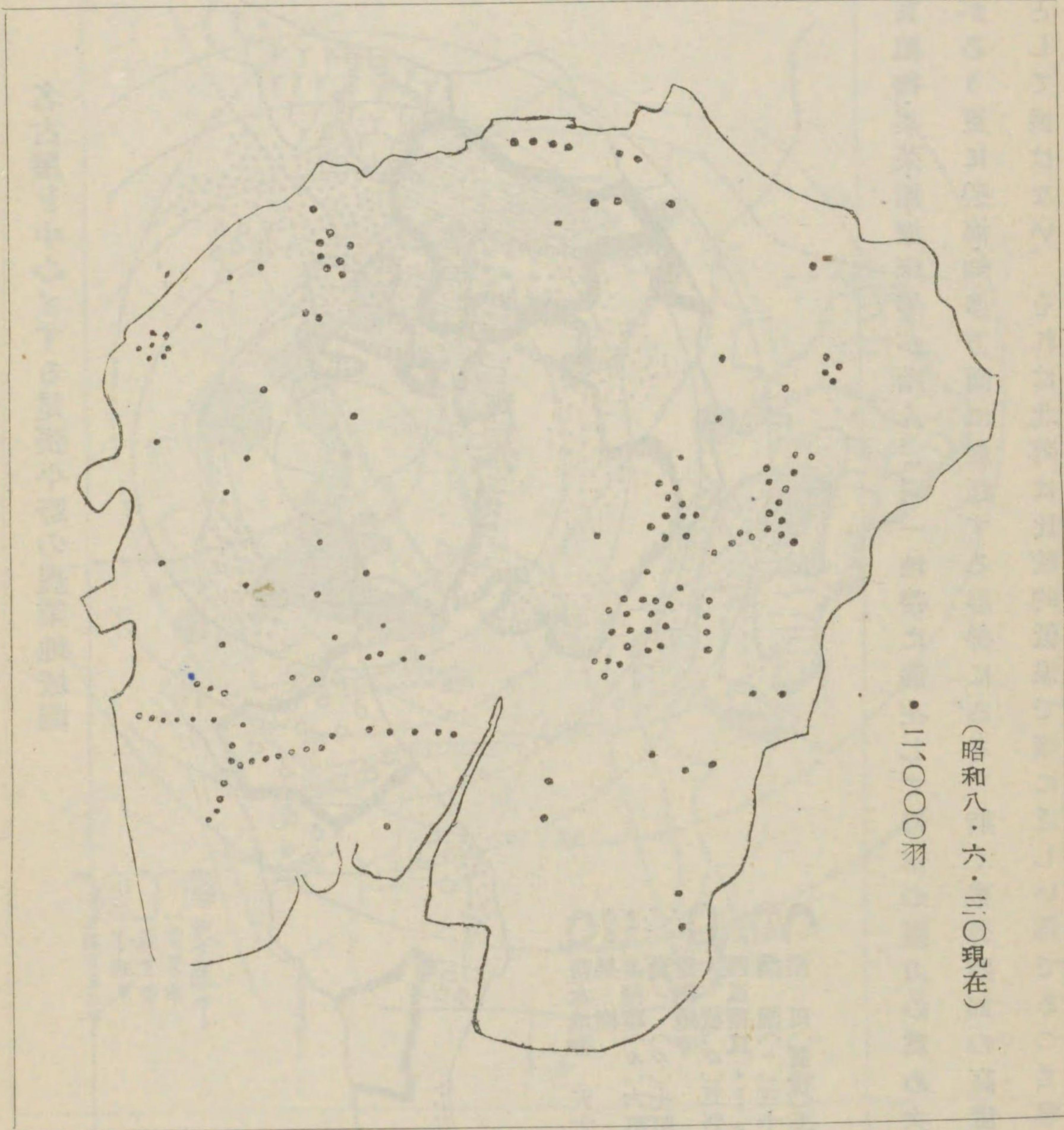
名古屋市を中心とする近郊農業

人口の都市集注は市街聚域を擴大し、耕地の強大なる宅地化は近郊農業に目まぐるしい變化を與へる。蔬菜畑は次第に影を消し、大根畑や桑畑が牧牛場や養雞場等と共に外へ外へと押出される。農家は家主となり、商工業化して場末帯は勞銀高、煤煙の害、市街化に依る不安定等の爲め農業が次第に衰退して自給的退嬰的農業地域と化する。斯くして母都の膨脹は交通機關の整備、近郊農村の強大な作物市場化となつて近郊農業地域を次第に擴大する。

名古屋市は郊外の區劃整理が非常に進捗して、宅地工場敷地、又は荒地となつてゐる所謂退嬰的農業地域が相當に廣い。それから稍々離れた所即都心榮町から西方四軒園附近には高畑、小本萬町、篠原(盆)栽村等を中心として觀賞植物帯がある。菊、薔薇、葉牡丹、松等を栽培して名古屋市に供給するばかりでなく、東京、大阪等の大都に盛んに供給してゐる。その外側には葱、漬菜等の葉菜帯、瓜、茄子、トマト等の蔬菜帯が展開してゐる。これらを含む地域は温室、温床による蔬菜花卉の高度集約農業地域で都市農業の特色の最も好く現はれ且、變化に富む尖端的な地域である。その南方低地にある熱田、新田、熱田前、新田の街村式聚落は稻を主とする穀作地帯であるが近時養雞が非常に發達した。即ち都心からの距離によつて觀賞植物、葉菜、蔬菜、養雞穀作と展開してゐる事が認めら

古名市農地業地域圖

處誌

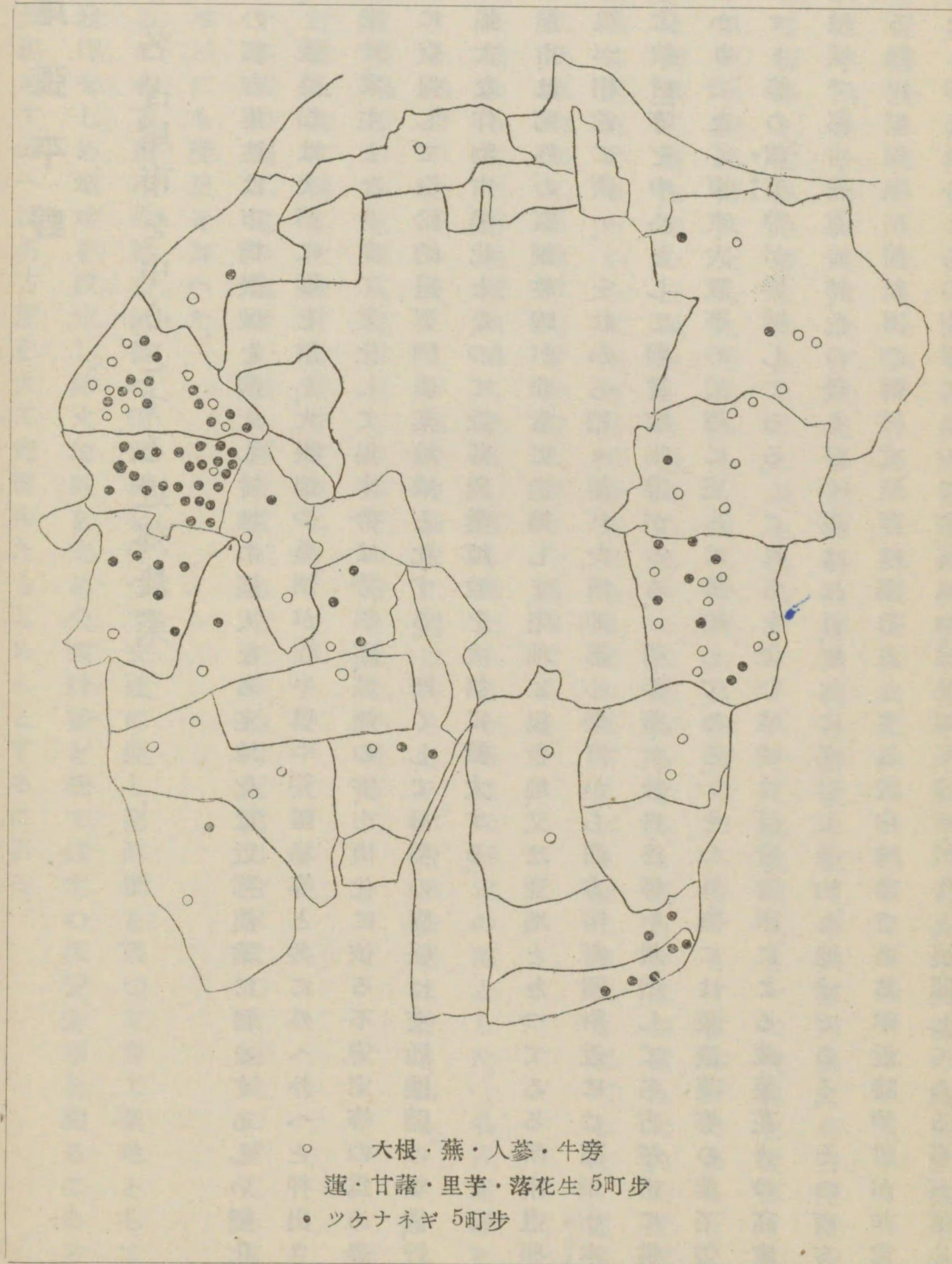


一三七

れる。東郊御器所台地は御器所大根の産地として知られた所であるが、住宅に適するのでは市街化速度はこの方面に最も強大を極め大根は殆んど後を絶ち、八高高商方面から鶴舞公園にかけて文化地帯が出現し御器所村時代の農家に漬物屋の名残りを留め、廣路彌富方面に於

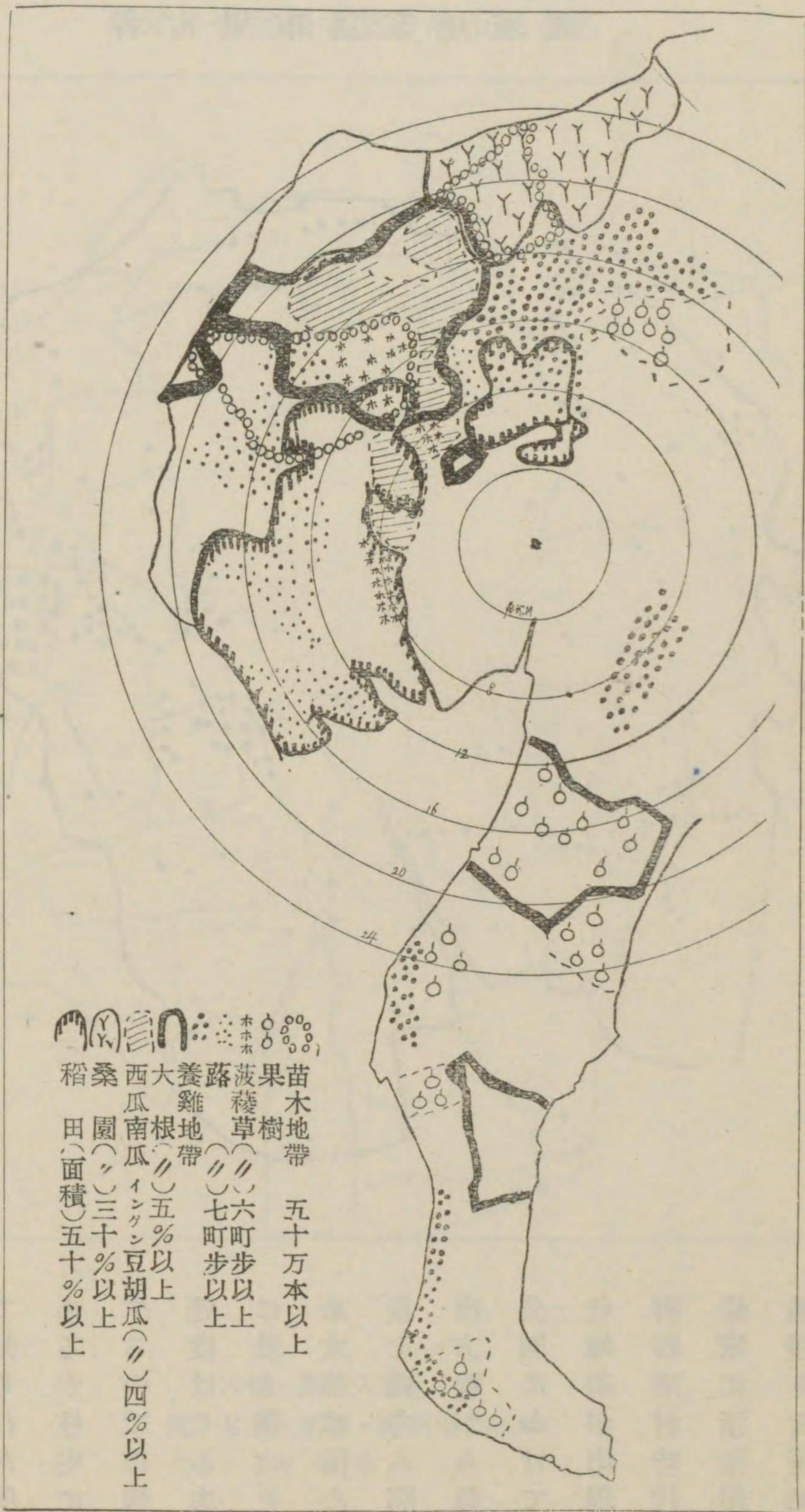
古名市内葉菜根莖菜の分布圖

處誌



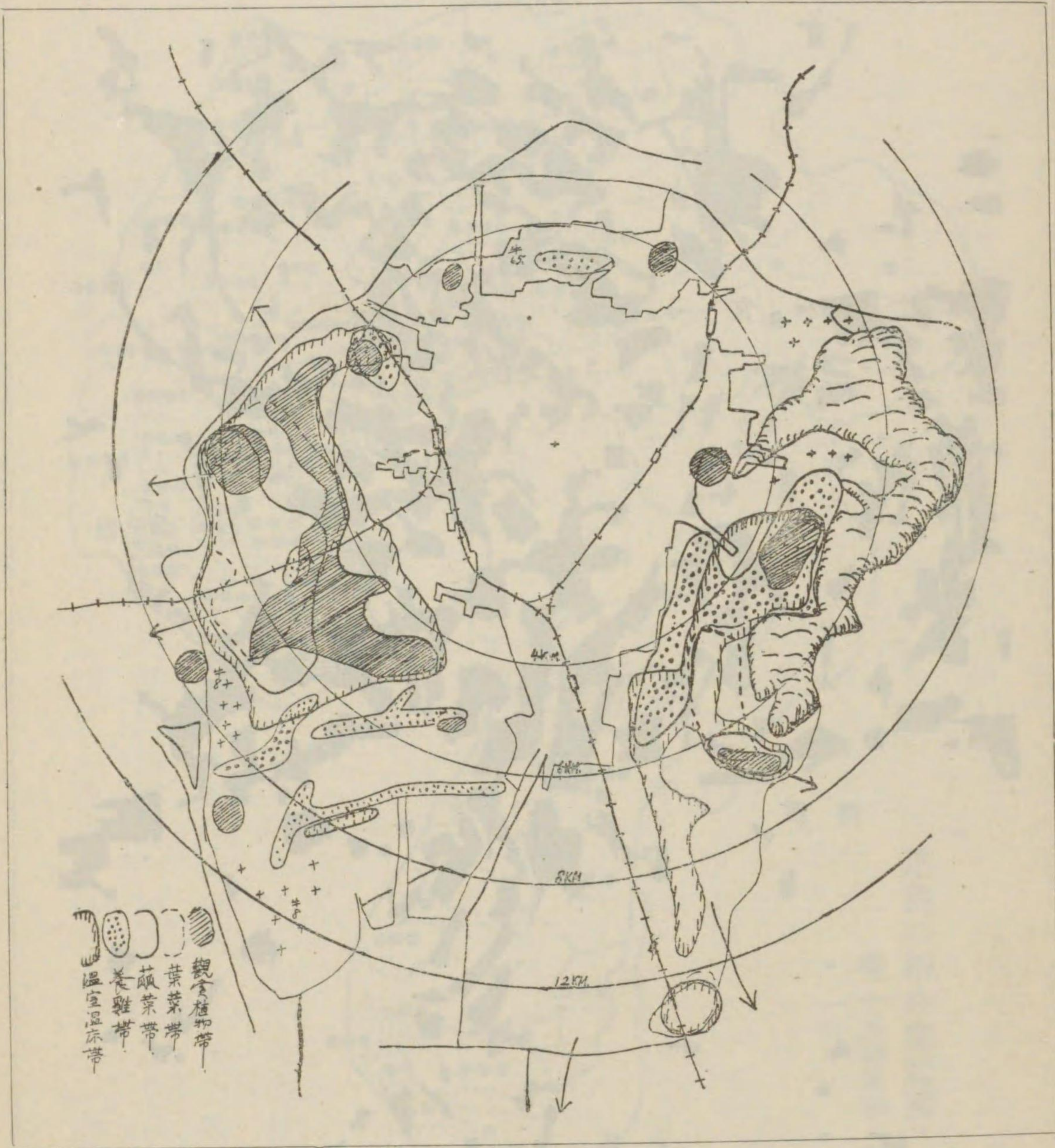
一三六

名古屋を中心とする尾張平野の農業地域圖



ては觀賞植物葉菜雞溫床等が殆んど同一地帯に混在して母市の壓力の爲め次第に台地を南下する傾向があり更に碧海知多方面に展延する形勢にある。斯く東郊西郊の高度化せるに反し北郊は微々として振はない。それは北郊は比較的低濕で畑に乏しい爲であつて寧ろ良好な水質と水

布分(雞成)雞の内市屋古名



量と安價な地價を利用して染織工場地帯化せんとしてゐる。眼界を市外に轉ずれば庄内川に外接して七〇〇—二五〇〇人の高密度帯が存在し清洲・新川・菫目寺を中心とする典型的な高度集約農業地帯がある。これらの發達は滑洲城下時代に端を發し、枇杷島青物市場